

Kyoto Institute of Technology, School of Science and Technology

京都工芸繊維大学 工学科学部

履修要項 2026

Technology

目 次

学年歴.....	1
大学の理念.....	2
工学科学部.....	3
I. 授業について.....	6
1. 一般的事項.....	6
(1) 学年と学期 (2) 授業時間割 (3) 授業に関する連絡について (4) 学生証および学生番号	
(5) 休学 (復学) および退学 (6) 授業の欠席について (7) 心身に障害等がある方の受講について	
2. 授業科目について.....	8
(1) 単位数の算定基準 (2) 授業科目の区分 (3) シラバスについて (4) 単位互換による授業科目	
(5) 「インターンシップ」について (6) 大学院開講科目の受講について	
3. 履修手続きについて.....	9
(1) 受講登録の期間 (2) 受講登録の手順 (3) 受講登録にあたっての注意事項	
(4) 受講登録単位数の上限 (5) 履修の中止 (6) 合格科目の再履修	
4. 試験・成績・卒業要件等.....	11
(1) 学期試験 (2) 追試験 (3) 受験上の心得 (4) 成績の発表 (5) 成績評価基準 (6) GPA制度	
(7) 京都府北部開講科目履修資格の要件 (8) 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格の要件	
(9) 卒業の要件	
5. 科目ナンバリングに基づく体系的な学修.....	14
II. 全学共通科目について.....	15
1. 英語教育科目.....	15
2. 基盤教養科目.....	15
3. 実践教養科目.....	15
4. 高年次配当科目.....	16
【英語外部テスト (TOEIC・TOEFL iBT) の単位認定について】.....	16
KIT の英語教育：学部から大学院へと繋がる積み上げ式の英語カリキュラムの実施.....	17
全学共通科目カリキュラム表.....	18
III. 各課程の教育内容について.....	33
応用生物学域.....	33
応用生物学課程.....	34
専門教育科目カリキュラム表およびカリキュラムツリー.....	36
卒業認定に必要な単位数・卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数	
・京都府北部開講科目履修のために必要な単位数.....	41
物質・材料科学域.....	44

応用化学課程.....	45
専門教育科目カリキュラム表およびカリキュラムツリー.....	48
卒業認定に必要な単位数・卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数	
・京都府北部開講科目履修のために必要な単位数.....	58
設計工学域.....	61
電子システム工学課程.....	62
情報工学課程.....	64
機械工学課程.....	67
専門教育科目カリキュラム表およびカリキュラムツリー.....	69
卒業認定に必要な単位数・卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数	
・京都府北部開講科目履修のために必要な単位数.....	79
デザイン科学域.....	82
デザイン・建築学課程.....	83
専門教育科目カリキュラム表およびカリキュラムツリー.....	86
建築士試験指定科目一覧表.....	93
卒業認定に必要な単位数・卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数	
・京都府北部開講科目履修のために必要な単位数.....	94
IV. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて.....	97
V. 教育職員免許状の取得について.....	100
VI. 学芸員資格の取得について.....	110
VII. 建築士試験の受験資格の取得について.....	111
VIII. 修習技術者資格の取得について.....	111
IX. 甲種危険物取扱者試験の受験資格の取得について.....	111
X. 自然再生士補資格の取得について.....	112
XI. 関係諸規則等.....	113
京都工芸繊維大学通則.....	113
京都工芸繊維大学工学部履修規則.....	121
京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項.....	126
警報発令時等における授業・試験の取扱いについて.....	128
授業日の振替えに関する要項.....	130
XII. 科目ナンバリング分類表等.....	132

令和 8 年度科目ナンバリング分類表、講義室配置図

令和8年度 学 年 暦

前 学 期 令和8年 4月 1日 (水) ~ 令和8年 9月27日 (日)

春 季 休 業	4月 1日 (水) ~ 4月 6日 (月)
学部オリエンテーション	4月 3日 (金)
入 学 宣 誓 式	4月 6日 (月)
前 学 期 授 業 開 始	4月 7日 (火)
第 1 ク オ ー タ ー	4月7日 (火) ~ 6月3日 (水)、8日 (月)、10日 (水) [試験日含む]
大 学 創 立 記 念 日	5月31日 (日)
第 2 ク オ ー タ ー	6月4日 (木) ~ 7日 (日)、9日 (火)、11日 (木) ~ 8月5日 (水) [試験日含む]
前 学 期 授 業 終 了	7月29日 (水)
授 業 予 備 日	7月23日 (木)、 7月24日 (金)
前 学 期 試 験	7月30日 (木) ~ 8月 5日 (水)
夏 季 休 業	8月 6日 (木) ~ 9月27日 (日)

後 学 期 令和8年 9月28日 (月) ~ 令和9年 3月31日 (水)

後 学 期 授 業 開 始	9月28日 (月)
第 3 ク オ ー タ ー	9月28日 (月) ~ 11月25日 (水)、11月27日 (金) [試験日含む]
第 4 ク オ ー タ ー	11月26日 (木)、11月28日 (日) ~ 2月10日 (水) [試験日含む]
大学行事(松ヶ崎祭)実施に伴う全学休講日	11月13日 (金)
冬 季 休 業	12月24日 (木) ~ 1月 6日 (水)
大学入学共通テスト実施に伴う全学休講日	1月15日 (金)
後 学 期 授 業 終 了	2月 1日 (月)
授 業 予 備 日	2月 2日 (火)、 2月 3日 (水)
後 学 期 試 験	2月 4日 (木) ~ 2月10日 (水)
春 季 休 業	2月11日 (木) ~ 3月31日 (水)
学 位 記 授 与 式	3月25日 (木)

※「授業日の振替えに関する要項」により、令和8年度の授業日の振替えは、次のとおり行うこととする。

【前学期】 7月21日 (火) は、**月曜日**の授業を行う。

【後学期】 10月14日 (水) は、**月曜日**の授業を行う。

1月14日 (木) は、**金曜日**の授業を行う。

※毎年の学年暦は、学生情報ポータルに掲載しますので、確認してください。

大学の理念

国立大学法人京都工芸繊維大学は、百二十有余年前、京都高等工藝学校及び京都蚕業講習所に端を発し、永きにわたり発展を遂げてきました。この間、日本文化の源である京都の風土の中で培われた、〈知と美と技〉を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきました。

二十一世紀において、本学は、国立大学法人として、自主自律の大学運営により社会の負託に応えるため、地球時代で顕在化し直面している幾多の課題の解決法を探求し、未来の持続可能な世界を実現する使命を負っています。

そのために、京都発の先鋭的な国際的工科系大学 KYOTO Institute of Technology として、これまでにない新しい発想や価値の創造を実現すべく、ここに本学の理念を宣言します。

○理念

1. ART×SCIENCE、すなわち、未来を拓く夢・科学的空想・イノベーションのための飛躍につながる ART の発想と、緻密な分析に基づき、これに具体的形を与える SCIENCE を統合させ、新価値の創造を目指します。
2. LOCAL×GLOBAL、すなわち、質の高いものづくりと信用に支えられた LOCAL で培われた〈京都思考〉に基づき、持続可能な世界的問題を解決する GLOBAL な〈地球思考〉を併せ、新価値の創造を目指します。
3. TRADITION×INNOVATION、すなわち、京都の歴史・文化 TRADITION への深い造詣・共存と、それを基盤として磨かれた匠の技 INNOVATION を掛け合わせ、他に追従のできない信用ある新価値の創造を目指します。

○社会的使命

国立大学法人京都工芸繊維大学は、京都が持つ知と技を活用して、教育研究を展開し、新たな価値創造による次世代の社会システムを構築することにより、地球と日本の未来に、人類が「平和で豊か」な美しい社会を育むことに貢献することを社会的使命として掲げ、以下に具体的戦略をアクションとして示します。

○アクション

1. 公共財として知的資源を集約させてきた本学は、教育研究を構造的・総合的に改革・推進するシステムを配備します。
2. 本学は〈京都思考〉をベースとした、教育研究の基盤インフラであり、世界の知的機関とネットワークを構築し、人的・知的情報交換を推進するハブとなります。
3. 京都地域を牽引し、産業のつぼ〈京都バレー〉を構築し、また社会の発展を牽引すべく知的貢献を為します。
4. 産業イノベーション、未来社会構築のための、異分野横断型の新領域構築システムを揺籃し、経済社会メカニズムを転換する新たな価値を創造する駆動力となります。
5. 大学のガバナンス構造改革を進め、高い自律性を有し、内部質保証として業務の PDCA サイクルにより見える化と迅速な改革を促進します。

工芸科学部

1. 教育研究上の目的

工芸科学部は、京都工芸繊維大学の理念に基づき、幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力、リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工系高度専門技術者（TECH LEADER）を養成することを目的として設置されています。この目的に則り、学部各課程では、それぞれの専門分野に応じて目標を定め、人材育成を行っています。

2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーとは、学部・課程の教育研究上の目的を達成するために学習指導した成果である学位授与の判断のための基本的な考え方や、期待する能力を示したものです。

工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工系高度専門技術者（TECH LEADER）を養成すること」を達成するために、本学卒業生が共通に有すべき能力として、以下に掲げる「工織コンピテンシー」を定めています。また各課程において、それぞれの専門的立場からディプロマ・ポリシーを規定しています。

これらの工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った専門的知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、TECH LEADER となりうる人材と認め、「学士（工学）」（応用生物学課程においては「学士（農学）」）の学位を授与します。卒業に必要な単位数や修業年数（卒業要件）は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められています。

工織コンピテンシー（本学卒業生として有すべき能力）

■ 専門力

- ・ 自らの学習領域においての高度な専門知識・技術を有している。
- ・ データ分析活用能力を有している。
- ・ 思考力、判断力、ならびに、創造力を有している。
- ・ 新しい技術を国内外から学び、改善し発展させる能力を有している。
- ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。
- ・ 技術者としての倫理性を有している。

■ リーダーシップ

- ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。
- ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。
- ・ 専門の異なる多様な人々と、建設的な議論と相補的な協働を行い、成果へと導く能力を有している。
- ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。

■ 外国語運用能力

- ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をを行い、表現をする能力を有している。

- ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。

■ 個の確立

- ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。
- ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。
- ・ 多様化する社会の中でも揺るがない個を有している。

3. 教育プログラム編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、国際的に活躍できる理工系高度専門技術者（TECH LEADER）の育成を行うために、「3×3（スリー・バイ・スリー）」と呼ぶ教育プログラム・システムを採用しています。「3×3」は、TECH LEADER 育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。

最初の「3」にあたる学部3年次までに、専門課程での基盤となる専門力を確実に修得するとともに、英語を基本とした外国語運用能力、TECH LEADER としてのリーダーシップおよび個の確立を育むことができるよう教育プログラムを構成しています。

次の「3」は学部4年次と大学院博士前期課程（2年）の3年間を指し、学部4年次（大学院博士前期課程に進学予定の場合には、この年次を「MO（エムゼロと呼ぶ）」）は、各自が修得した専門力を基に卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）に取り組むとともに、学部4年次に大学院博士前期課程の授業科目の先行履修が可能となるよう構築されています。これにより新たに生まれる時間を、研究はもちろんのこと、さらに深い教養力を養い育てる高年次教養科目の履修や、キャリア形成に寄与するインターンシップへの参加、さらには留学・学会発表などに振り向けることにより、3年間の学部・博士前期課程において効率的・高密度な修学が可能となっています。

工芸科学部ではカリキュラム・ポリシーとして、学部ディプロマ・ポリシーに掲げる工繊コンピテンシー（専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立）と、各課程のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、以下の方針を採っています。

- (1) 外国語運用能力を身につけるため、基本とする英語の修得を義務づけるとともに、複数の初修外国語科目を開設しています。これらの科目の修得は、個の確立を育むことにも寄与します。
- (2) 理工系専門技術者としての教養を身につけるために、全学共通科目に「基盤教養科目」「実践教養科目」「高年次配当科目」の科目群を設けています。1年次から4年次に亘り、人文、社会、自然の諸分野から学修することで、主体的に思考する深い教養を培い、本学が目指す TECH LEADER の素養としての個の確立やリーダーシップを育むことを目標としています。
- (3) 各専門課程では、その専門分野で必要な基本リテラシー、専門概要・動向を学ぶために、1年次に「専門導入科目」を設け、その修得を義務づけています。
- (4) 理工系専門技術者としての基礎的な力を身につけるために、専門性の特性によって4つに分類された学域（応用生物学域、物質・材料科学域、設計工学域およびデザイン科学域）毎に「専門基礎科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。

- (5) 実践力の伴う専門職業能力を確実に身につけるために、講義だけでなく実験・実習・演習等にも重点をおいて体系化された「課程専門科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。3年次には、各課程の専門知識等を確認する判定が行われます。
- (6) 理工系専門技術者としての研究能力、開発能力を身につけるために、4年次には「卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）」の修得を義務づけています。卒業研究等を履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。
- (7) 「地域創生 Tech Program」は、各課程の一般教育プログラムに加え、各課程の専門知識および技術をベースに、地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、グローバルな視野で新産業を興すために必要な知識や、チームで協働して課題解決に取り組むリーダーシップ精神を有する人材を育成する学位プログラムです。この学位プログラムは、各課程における専門科目に加えて、地域課題をテーマとしたセミナー科目や企業と共同した課題解決型学習 PBL（Project-Based Learning）によるものづくりインターンシップ科目を履修する構成となっており、理工学の様々な専門分野を学んだ人材が協働学習する PBL に重点をおいています。地域創生 Tech Program の学生は、PBL 科目を受講したうえで卒業プロジェクトを実施します。
- (8) 教育プログラムは、授業科目にナンバリングを付すことによって科目間の関連や科目内容のレベルを表し、体系的にわかりやすく編成されています。
- また、各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により、目標の達成度に応じて評価します。

各課程では、「各課程の教育内容について」で、より詳細なカリキュラム・ポリシーが示されています。

I. 授業について

この履修要項は、令和8年度に工学科学部の1回生として入学した学生が履修すべき授業科目等の履修方法及び卒業要件等について解説したものです。

本学を卒業するためには、在学中に所定の単位を修得する必要があり、その単位数などについては通則などで規定されています。これらについては、この履修要項に記載していますので、熟読のうえ入念な履修計画を立てるよう心がけてください。

不明な点があれば、学務課に尋ねてください。

履修関係スケジュール（令和8年度）

【前学期】

令和8年	4月 7日（火）～13日（月）	前学期（第1Q、2Q）受講登録
	4月21日（火）～27日（月）	受講登録確認・修正
	5月 7日（木）	受講登録修正の再確認（確認のみ）
	5月 7日（木）～11日（月）	履修中止申請期間
	5月13日（水）	履修中止後の登録確認（確認のみ）
	6月12日（金）～16日（火）	履修中止申請期間（第2Q科目のみ）
	7月30日（木）～8月5日（水）	前学期試験

【後学期】

	9月28日（月）～10月5日（月）	後学期（第3Q、4Q）受講登録
	10月13日（火）～16日（金）	受講登録確認・修正
	10月23日（金）	受講登録修正の再確認（確認のみ）
	10月23日（金）～27日（火）	履修中止申請期間
	10月29日（木）	履修中止後の登録確認（確認のみ）
	12月 1日（火）～ 3日（木）	履修中止申請期間（第4Q科目のみ）
令和9年	2月 4日（木）～2月10日（水）	後学期試験

（注）

- 履修スケジュールは毎年4月に発表します。また、変更がある場合は学生情報ポータル等により周知しますので注意してください。

1. 一般的事項

（1）学年と学期

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。学年を分けて次の2学期とします。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

ただし、前学期及び後学期の期間、授業開始、終了の時期については、毎年度ごとに学年暦で決定するため、その期日が多少変わってくる場合がありますので、掲示を確認してください。

（2）授業時間割

① 授業時間割について

授業は、学期ごとに週単位で編成された授業時間割に従って行われます。

この週単位の時間割に入っていない科目については、集中授業として、休業中、土曜、日曜等に行われるものもあります。

授業時間割表の変更、休講、補講、集中授業の日程などは、その都度、学生情報ポータルに掲載しますので始業前に必ず確認してください。

② 授業時間について

1年を通じて授業時間は下記のとおりです。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
時間	8:50 ∪ 10:20	10:30 ∪ 12:00	12:50 ∪ 14:20	14:30 ∪ 16:00	16:10 ∪ 17:40

(3) 授業に関する連絡について

学生情報ポータル(学生・教職員専用ページ)では、受講登録や試験の日程、授業に関する連絡事項(休講、補講、講義室変更、集中授業日程、学生呼び出し)等、学生生活に欠かせない情報を掲載しています。見落とすことのないよう、日頃から注意して確認するようにしてください。

また、授業科目を受講し単位を修得するまでには、受講登録などさまざまな手続きを行うことが必要です。「学年暦」と「学生情報ポータルによる通知」に注意し、適正に手続きを行ってください。

【学生情報ポータルのURL】

- ・学生情報ポータル

<https://portal.student.kit.ac.jp/>

【ログイン】

- ・学生・教職員専用ページを見るためには、ログインが必要です。
情報基盤センターのIDとパスワードを入力してください。

※ 利用できない、表示がおかしい等がありましたら、機種名を明記の上、学務課学務調査係へお問い合わせください。
(問い合わせ先 e-mail : edu-r@kit.ac.jp)

(4) 学生証および学生番号

学生証は本学の学生であることを証明するもので、中間試験や定期試験等の受験時には必携、その他教職員から提示を求められることがありますので、常に携帯してください。学生証を紛失、破損した場合は、学務課で再発行の手続きを行ってください。学生証の再発行は有償です。

(5) 休学(復学)および退学

病気その他特別の事情により、3ヶ月以上修学することができない場合は、休学を願い出ることができます。また、やむなく退学しなければならないときは、退学を願い出ることができます。いずれも、次学期が始まるまでに、所定の手続きを行ってください。

休学手続きについては、以下の大学HPを参照するとともに、学務課へお問い合わせください。

- ・大学HP(休学・復学・退学) https://www.kit.ac.jp/campus_index/pause/

(6) 授業の欠席について

本学では、病欠、忌引き、課外活動、就職活動等を理由とする公欠の制度はありません。授業を欠席した場合は、担当教員に直接申し出てください。

(7) 心身に障害等がある方の受講について

心身の疾病・障害等により修学が困難な方は、アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター又は学務課へご相談ください。

2. 授業科目について

(1) 単位数の算定基準

大学では各授業科目について、その授業科目を履修し合格と認められれば、定められた単位を与える単位制度により授業を行っています。

各授業科目の単位数は授業の形態ごとに一定の学修時間数(注1)を基準にして次のように定めています。

- ① 講義科目については、15時間の授業をもって、1単位とする。
- ② 演習科目については、30時間の授業をもって、1単位とする。
- ③ 実験科目、実習科目および実技科目等については、45時間の授業をもって1単位とする。
(注1) 本学では、授業時間割上1コマ(90分)を2時間とします。

(2) 授業科目の区分

本学の教育課程は、下記のとおりです。

1) 全学共通科目	英語教育科目
	基盤教養科目
	実践教養科目
	高年次配当科目
2) 専門教育科目	専門導入科目
	専門基礎科目
	課程専門科目
3) 教職関係科目	
4) 学芸員資格に関する科目	

① 全学共通科目

全学的に開講される英語教育科目、基盤教養科目、実践教養科目、高年次配当科目です。

② 専門教育科目

学域ごとに開設される専門導入科目と専門基礎科目、課程ごとに開設される課程専門科目です。

専門教育科目のうち、授業形態に「実験」「実習」「演習」が含まれている科目については、他課程の学生の受講を認めません。授業形態が「講義」となっている科目についても、他課程の学生の受講を認めない場合があります。

③ 教職関係科目

教育職員免許状を取得するために必要な科目で、取得した単位は、卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト着手要件、京都府北部開講科目履修要件には含めることはできません。

④ 学芸員資格に関する科目

学芸員資格を得るために必要な科目で、取得した単位は、卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト着手要件、京都府北部開講科目履修要件に含めることはできません。

授業科目は、教育の改善・向上のために変更することがあり、現行の科目が、次年度以降廃止される可能性もあります。不合格科目として残るとGPAの数値に影響しますので、受講登録は慎重に行ってください。カリキュラム表の変更事項は学生情報ポータル(カリキュラム表・教科課程表)に毎年掲載しますので、受講登録の際に必ず確認してください。

(3) シラバスについて

本学で開設されている授業科目について、その内容や授業計画についての情報をWebに掲載しています。

履修計画、受講登録に活用してください。

シラバス検索システムURL

<https://www.syllabus.kit.ac.jp/>

(4) 単位互換による授業科目

本学では、次の大学等との間において単位互換に関する協定を締結しています。

協定締結大学等から提供された授業科目は、所定の受講願の手続きを行い（本学開講科目の受講登録手続きとは異なり、学務課学部教務係での手続きが必要です。）、受講登録が許可されれば、履修することができます。修得した単位の、卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格要件、京都府北部開講科目履修要件としての取り扱いは、課程ごとに定められています。履修規則別表第7、第11、第10を参照してください。

- ① 京都府立大学
- ② 同志社大学
- ③ 京都教育大学
- ④ 大学コンソーシアム京都（単位互換履修生制度）

(5) 「インターンシップ」について

- ① インターンシップは、専門教育科目の専門基礎科目として単位認定を受けることができます。
- ② 実施期間が、概ね5日間（30～45時間程度）のものを、インターンシップA（1単位）実施期間が、概ね10日間（60～90時間程度）のものを、インターンシップB（2単位）とします。
- ③ インターンシップ先を選択する際には、本学の授業および試験期間と重なることのないように留意してください。
- ④ インターンシップA、インターンシップBについては、受講登録をする必要はありません。
- ⑤ インターンシップ修了時には、学務課に申し出たうえで、1月末までに所定の書類を提出してください。
- ⑥ 成績評価は、「認定」となります。
- ⑦ インターンシップに参加する場合は、学生教育研究災害保険（インターンシップ参加等のオプション）加入を要します。

(6) 大学院開講科目の受講について

本学が開講する大学院（博士前期課程）科目を、下記により受講することができます。

- ① 受講資格 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者
- ② 受講できる科目 学部生が受講できる大学院科目は、学生情報ポータル（カリキュラム表・教科課程表）に掲載している最新年度の「大学院カリキュラム表」の「学部」欄に※印のある科目です。
- ③ 単位の取り扱い 取得した単位は、学部の卒業要件単位には含みません。本学大学院に入学した際に、大学院科目として取り扱います。

3. 履修手続きについて

履修する授業科目については、履修要項、シラバス(<https://www.syllabus.kit.ac.jp/>)等で授業について十分検討し、履修計画を立てて「受講登録」を行ってください。

授業科目の単位修得には、受講登録手続き、登録確認等が必要です。これらの手続きを怠ると、授業を受け受験しても合格とならず、単位が修得できません。

(1) 受講登録の期間

前学期および通年開講科目・・・前学期の受講登録期間（日程は前述の「履修関係スケジュール（令和8年度）」に記載しています。）

後学期の開講科目・・・・・・後学期の受講登録期間（日程は前述の「履修関係スケジュール（令和8年度）」に記載しています。）

※第1クォーター及び第2クォーター開講科目は前学期の受講登録期間に、第3クォーター及び第4クォーター科目は後学期の受講登録期間に、それぞれ受講登録してください。

(2) 受講登録の手順

受講登録は、Webで行います。

受講登録の手順は次のとおりです。

ログイン後の注意事項をよく読み、受講登録を行ってください。

全員が行う

受講登録（指定の期間に受講登録Webシステムにログインし、履修しようとする授業科目を選択した後、「受講登録状況を印刷」ボタンを押し、帳票を印刷する。最後に「ログアウト」ボタンを押し終了する。）



受講登録の確認（指定の期間に再度受講登録Webシステムにログインし、受講登録が正しく行われているかどうかを確認する。）



以下は誤りがあった
場合のみ行う

受講登録の修正（誤りがあれば、受講登録Webシステムで受講登録科目の追加又は取消の処理を行う。）



受講登録の再確認（受講登録再確認期間に受講登録Webシステムにログインし、誤りがないかを確認する。）

これらの手続きは、定められた期間内に行ってください。期限後は、受理されません。

受講登録WebシステムURL

<https://juko.gakumu.kit.ac.jp/AttendCourse/>

※ログインには、IDとパスワードが必要です。情報基盤センターのIDとパスワードを入力してください。

（学外からもアクセスできます）

（3）受講登録にあたっての注意事項

- ① 1年間に受講登録できる単位数【次の（4）に記載】に制限があります。1年間を通しての計画を立ててください。
- ② 同一時限に2科目以上重複しての登録はできません。1部分の重複も認められません。
- ③ 前学期の登録時には、後学期の授業時間割表の確認も行ってください。同一の通年科目でも前後期で曜日、時限が異なる場合もあります。
- ④ クラス分けがされている科目については、指定されたクラスの科目を登録してください。登録クラスを間違った場合は受講登録が認められず、単位も取得できません。
- ⑤ 専門教育科目は、各課程および履修コースにより、その修得方法が異なるので、「卒業認定に必要な単位数」等の表を参照し、また、各課程のガイダンスをよく聞き、それぞれの目的に合った履修計画を立てる必要があります。
- ⑥ 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格者は、前学期の受講登録時に「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」の登録も必要です。また、卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格者がその年度に卒業しなかった場合は翌年度に改めて「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」の登録を行わなければなりません。（履修規則第15条の3）
- ⑦ 前学期に登録した科目は、後学期に再度登録することはできません。ただし、年複数回開講する科目で、各科目の受講条件を満たす場合はこの限りではありません。
- ⑧ 通年授業科目を1つの学期に履修し、休学または授業の都合によって次学期に継続して履修できない場合は、担当教員の承認を得て、次年度以降において履修することができます。

（4）受講登録単位数の上限

本学は、一定期間内に履修できる単位を制限する「キャップ制」を採用しています。授業を受け、試験で合格点をとりさえすれば単位が得られるというような学習ではなく、授業時間外の十分な学習も含め、真の力をつけるための制度です。

1年間に受講登録できる単位数を工学科学部履修規則別表第8で定めています。ただし、3年次編入生には、この制限はありません。

制限単位数は、取得単位数（合格した単位数）ではありません。受講登録を行う単位数です。1年間の受講登録単位数ですから、前学期に多く受講登録すれば、後学期には、その残った単位数しか登録できなくなります。1年間の履修計画をしっかりと立ててください。

下記の授業科目は、受講登録単位数の上限対象授業科目から除きます。

- ① 集中授業科目
- ② 単位互換による授業科目
- ③ 教職関係授業科目
- ④ 学芸員資格に関する授業科目
- ⑤ 卒業要件外科目
- ⑥ 日本語授業科目等（日本語Ⅰ～Ⅵ、日本語と日本文化Ⅰ・Ⅱ）

前年度の成績が優秀であった学生については、定められた単位を超えて10単位を限度として、履修科目の登録が認められることがあります。（工芸科学部履修規則別表第9）

また、課程長が、教育上特に必要と認めた場合は、10単位を限度として、履修科目の登録が認められることがあります。

（5）履修の中止

受講登録した授業科目のうち、下記の授業科目以外については、定められた履修中止期間内に、履修中止を申し出ることができます。ただし、集中授業等で履修中止期間までに授業が開始される授業科目については、その授業の開始の前日まで（学務課の業務日に限ります。）とします。その後は、一切受け付けません。

- ① 必修授業科目
- ② 授業形態に「演習（全学共通科目を除く。）」、「実験」、「実習」又は「実技」が含まれている授業科目
- ③ 合格再履修授業科目

また、前学期に履修中止をした授業科目の単位数は、5単位を限度に履修授業科目として登録した単位数から除くことができます。

（例）年間登録上限単位数：50

前学期受講登録数：34

うち、履修中止単位数：8

※ 履修中止科目は5単位分のみ年間登録上限単位数から除外される

後学期受講登録可能単位数：21

$(50 - 34 = 16)$ 、 $16 + 5 = 21$

（6）合格科目の再履修

既に合格した授業科目のうちカリキュラム表の「合格再履」欄に印のある授業科目については、再度履修することを願ひ出ることができます。（受講登録に加え、所定の申請書類の提出が必要です。）

再履修授業科目の受講登録が承認されると同時に再履修前の成績は失効しますので、留意してください。

再履修前の成績が失効することにより、卒業研究又は卒業プロジェクト着手及び京都府北部開講科目履修要件の認定に影響する場合は再履修の願ひ出は認められません。

また、合格再履修授業科目の履修中止は認められません。

4. 試験・成績・卒業要件等

（1）学期試験

試験は、原則として、学期末に学期試験を行います。

試験実施期間は、学年暦で定めています。

試験時間割表は、原則として、試験開始の2週間前に発表します。

授業科目によっては、別の期日に試験を実施することがあります。

また、試験期間中でも、授業を行うことがあります。

(2) 追試験

試験当日、病気その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は願い出により、追試験を行うことがあります。

願い出は、所定の願書に医師の診断書その他これに代わる証明書を添え、欠席した試験の日を含めて3日以内（休日等を除く。）に学務課へ提出してください。

(3) 受験上の心得

- ① 試験は「受講登録」した科目に限り受験することができる。
- ② 受験する時は、必ず「学生証」を受験票として机上に呈示しなければならない。「学生証」を忘れた時には、学務課で「学籍確認票」の交付を受けなければ受験できない。
- ③ 試験開始後30分を経過するまでは、退出することができない。また、試験開始後30分を経過した後は、受験できない。
- ④ 受験（レポート、論文等を含む。）時に、不正行為を行ったと認められた者（授業科目担当教員の指示に反してレポート、論文等の課題を作成した者を含む。）については、その学期に受講登録をした全ての授業科目の成績を不合格（判定外）とする。この場合、既定の年数で卒業することが不可能となることもある。
また、本学において学士の学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚す行為があったときは、工芸科学部教授会の議を経て、当該学位の授与を取消し、学士の学位記を返還させ、かつ、その旨を公表する。
- ⑤ 自らの良識に従い、信頼を裏切ることのないよう、厳正な態度で試験に臨むこと。

(4) 成績の発表

成績の発表は、次学期が始まる前に、成績閲覧 WEB システムを通じて各人に交付します。また、保証人宛にも郵送します。

なお、成績表をダウンロードするためには、事前に授業評価アンケート（授業内容の改善に役立てるための調査）への回答及び、成績閲覧用パスワードの設定が必要です。注意してください。

【成績閲覧 WEB システム URL】
<https://record.student.kit.ac.jp/>
【授業評価アンケート回答 URL】
https://portal.student.kit.ac.jp/ead/?c=class_evaluation_list
【成績閲覧用パスワード登録 URL】
https://portal.student.kit.ac.jp/ead/?c=score_pw_setting

- ※ ログインする際に、情報基盤センターの ID とパスワードを入力してください。
- ※ アクセスは学内ネットワーク（情報基盤センター認証付き無線 LAN に接続した端末又は学内共同利用 PC）に限ります。学外からは直接アクセスできません。

成績について申し立てがある場合は、別に定める「成績評価に対する異議申立て要項」に則り、手続きを行ってください。

(5) 成績評価基準

成績評価の基準は次のとおりです。

評価	評点	評価の基準
S	90点 ~ 100点	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85点 ~ 89点	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80点 ~ 84点	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。
B+	75点 ~ 79点	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。

B	70点 ~ 74点	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。
C+	65点 ~ 69点	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60点 ~ 64点	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60点未満	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

S、A+、A、B+、B、C+及びCを合格とし、Fは不合格とします。なお、履修中止はW、単位認定を行った科目を認定と表記します。また、成績に当該学年のGPAおよび入学後の累積GPAを併記します。

(6) GPA 制度

本学ではGPA（単位あたりの評価平均値）制度を採用しています。

GPAとはGrade Point Averageの略で、受講登録した授業科目（履修中止をした授業科目を除く）の成績の8段階S、A+、A、B+、B、C+、C、Fに対し、順に、4.0、3.5、3.0、2.5、2.0、1.5、1.0、0のGrade Pointを与え、授業科目ごとの単位数にGrade Pointを乗じた合計を受講登録した授業科目の単位数の合計で割って算出した値です。

計算式は次のとおりです。

$$GPA = GPT \div \text{総登録単位数 (Fを含む)} \quad (\text{再履修した科目の登録単位数は、1回分のみを計上する})$$

$$GPT = (S\text{の修得単位数} \times 4.0) + (A+\text{の修得単位数} \times 3.5) + (A\text{の修得単位数} \times 3.0) + (B+\text{の修得単位数} \times 2.5) + (B\text{の修得単位数} \times 2.0) + (C+\text{の修得単位数} \times 1.5) + (C\text{の修得単位数} \times 1.0)$$

なお、算出の対象となる授業科目は、次に掲げる科目を除く全授業科目です。

- ① 単位互換科目
- ② 単位認定を行った科目
- ③ 卒業要件外科目

(7) 京都府北部開講科目履修資格の要件

地域創生 Tech Program の学生は、3年次後学期以降に京都府北部で開講される科目を履修することになりますが、これらの科目を履修するためには、3年次前学期終了時に、履修規則に定められた単位（履修規則別表第10）を修得していなければなりません。

(8) 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格の要件

4年次には、「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」という必修科目を履修することになりますが、これを履修するためには、3年次終了時に、履修規則に定められた単位（履修規則別表第11）を修得していなければなりません。

(9) 卒業の要件

定められた修業年数以上（通則第26条）在学し、履修規則に定められた単位（履修規則別表第7）を修得すれば卒業できます。

教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目は、免許状等取得のための授業科目であり、修得した単位は卒業要件の単位数には算入しません。

5. 科目ナンバリングに基づく体系的な学修

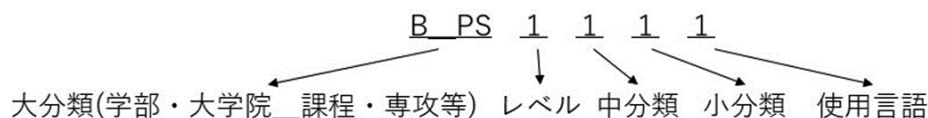
(1) 科目ナンバリングとは

本学においては、国際的に活躍できる理工系高度専門技術者（TECH LEADER）の育成を目指し、「3×3（スリー・パイ・スリー）」制度による学部・大学院一貫教育を実施しております。3×3制度では、それぞれの専門分野において、学部から大学院まで基礎的科目から専門教育科目へ体系的に途切れることなく学んでいくことが不可欠です。本学では、このような学生の体系的・計画的な学修を支援するため、授業科目のナンバリング（科目ナンバリング）を導入しています。

科目ナンバリングとは、すべての授業科目（学部の全学共通科目、専門教育科目及び大学院の専攻共通科目、専門教育科目等）を、学問の分類やレベル等に応じた番号で示すことにより、各教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みのことです。

科目ナンバリングを利用することで、学部1年次から博士課程3年次までの科目の専門性や学ぶ順序、カリキュラム構造を理解することができます。

ナンバリングコードの構成は以下のとおりです。また、各科目のナンバリングコードはシラバス (<https://www.syllabus.kit.ac.jp/>) に掲載されています。



(2) レベルコード

各科目のナンバリングコードには科目の専門性や学ぶ順序、受講に必要な前提知識の有無等を参考にして各科目の難易度（授業レベル）を示すレベルコードが付番されています。各科目には1から9までのレベルコードが振られており、ナンバリングコードの千の桁で確認することができます。それぞれのレベルコードの意味は、以下に示すとおりです。

なお、レベルコード5は、大学院（博士前期課程）の専攻共通科目および専門科目のうち、学部生が履修可能なものとなっています。3×3制度を利用して学部4年次にこれらの科目を先行履修することで、学部・大学院一貫教育における学修を効率的に進め、生み出された時間を研究、留学、インターンシップ等に有効に活用することが可能となります。

レベルコード

- 1：全学共通科目（語学上級や高年次対象科目を除く基礎的な内容の科目）
学部専門導入科目（新入生対象のゼミ・セミナーなど）
- 2：全学共通科目（語学上級、発展的な内容の高年次対象科目）
学部専門基礎科目および課程専門科目（基礎的な内容の科目）
- 3：学部専門基礎科目および課程専門科目（発展的な内容の科目）
- 4：学部専門科目（卒業研究関連科目、下履修不可の4年次専門科目、大学院と同時開講している科目）
.....
- 5：大学院（博士前期課程）の専攻共通科目および専門科目のうち、学部生が履修可能なもの
- 6：大学院（博士前期課程）の専攻共通科目および専門科目のうち、学部生が履修不可のもの（研究指導科目等）
.....
- 7：大学院（博士後期課程）専攻共通科目、専門科目（研究指導科目を含む）
.....
- 9：その他（教職専門科目、学芸員科目、レベル分けができない科目）

(3) 科目ナンバリング分類表

各教育プログラムの授業科目をナンバリングにより一覧にした科目ナンバリング分類表を本冊子の最後に掲載しています。科目ナンバリング分類表により、3×3制度による学部1年次から博士課程3年次までのカリキュラム構造を一目で把握することができます。履修する科目を選択する際には、科目ナンバリング分類表を参考に、自身の将来像を見据え、修得したい知識、技術を意識して、学修を進めてください。

なお、授業科目の配当年次とレベルコードは必ずしも一致するものではありません。受講登録に当たっては、カリキュラム表を必ず確認してください。

Ⅱ. 全学共通科目について

全学共通科目は、本学の理念、学部の教育研究上の目的および学部ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）、カリキュラム・ポリシーに基づき、国際的な理工系高度専門技術者（TECH LEADER）の基盤を培うために開設されています。科目群として、「英語教育科目」「基盤教養科目」「実践教養科目」「高年次配当科目」があり、全学的に開講されています。また、これらの科目群に配置された科目のうち、京都の地域的、歴史的、文化的特色をいかした京都ゆかりの科目については、「京都学科目」として、高校から大学への円滑な移行を図り、大学での学びや生活に適應できるようにすることを目的とした科目については、「初年次教育科目」としてそれぞれ分類しています。

1. 英語教育科目

「英語教育科目」は、工織コンピテンシーに掲げられている柔軟な外国語運用能力の獲得と個の確立の基礎を育むために開設されています。多様な場面で円滑な口頭でのコミュニケーションを図れるようになること、学術的な場面で英語を使うための基礎を固めることに加え、就職活動や大学院進学などを見据えて TOEIC 等の社会に認知された評価基準に耐えうる英語力を身につけます。

2. 基盤教養科目

「基盤教養科目」は、個の確立の基礎を育み、人間としての教養を深め、主体的・科学的に考え行動する力を養うことを目的とした科目群です。人文科学・社会科学・自然科学に対応する「人と文化」、「人と社会」、「人と自然」の3つのカテゴリーがあり、幅広い学問分野の知識や思考力・判断力・倫理性を育みます。基盤教養科目の多くは、京都府立大学、京都府立医科大学との共同化科目として開講され、「三大学教養教育共同化科目」としてカリキュラム表に記載されています。これらの科目は、一部を除き、京都府立大学下鴨キャンパス内の「稲盛記念会館」で開講され、各大学の学生が共に受講します。開講日程や受講登録、学期試験の取り扱いなど、本学の他の科目と異なる点があるため、詳細は別途配布される受講案内等を確認してください。

3. 実践教養科目

「実践教養科目」は、理工系高度専門技術者としての基礎を養い、個の確立を促すための科目群です。以下の5つのカテゴリーがあります。

「キャリア・技術者基盤」：工芸科学部の教育全体を理解し、理工系高度専門技術者に必要な基礎的リテラシーを習得します。専門分野でのキャリア形成を見据え、科学技術や社会科学の知識を学び、本学の理念である人間と環境の調和を実現するために必要な技術者としての実践的な基盤を築きます。

「リーダーシップと経営戦略」：起業家マインドや経営マインドを養い、知的財産権に関わる基礎知識の習得を通して、多様な他者と協働し、目的を達成するリーダーシップの基礎を習得します。

「心身の健康」：身体的・精神的健康に関する理論と実践を通して、多様な社会や環境の中でも健康を保つレジリエンスを身につけます。

「セミナー・プロジェクト科目」：異なる専門の学生と協働し、具体的な課題に取り組み、成果へ

と導く実践的な能力と理工系の高度な専門知識を習得します。

「言語・コミュニケーション」：受講者の目を海外に向け、多角的な視座から物事を捉え、考え、伝える力の獲得を目指します。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語の言語学習を通して、情報収集や情報発信に必要な外国語運用能力を高めるとともに、異文化への理解を深めます。

4. 高年次配当科目

「高年次配当科目」は、学域の専門基礎科目や課程の一部の専門科目の学びを踏まえた上で、理工系高度専門技術者としての幅広い知識基盤と応用力を獲得することを目的としています。他分野に関する知識を学んで多角的な視点を獲得するとともに、自分の専門分野をより深く理解し、異なる分野との連携や融合を目指して新たな発見や革新を生み出す能力を養います。

【英語外部テスト（TOEIC・TOEFL iBT）による単位認定】

英語外部テスト（TOEIC もしくは TOEFL iBT）を受験し、一定のスコア以上を獲得した場合には、単位認定の申請手続きを行うことで、次のとおり単位の認定がなされます。

	TOEIC スコア	TOEFL iBT スコア	認定単位の詳細
認定1	730～	70～	実践教養科目の「TOEIC 対策講座Ⅰ」（2単位）が受講登録の有無に関わらず「S」評価 ※「TOEIC 対策講座Ⅰ」の既修得単位の評価が「A+」以下であった場合、「S」評価に上書き
認定2	860～	83～	卒業認定に必要な全学共通科目合計（32単位）のうちの2単位として「認定」 ※卒業要件単位に含むが、GPAの算出対象外

(注1) 申請時期によりどの学期の成績として認定されるかが異なる。2月1日から7月31日までに申請のあったものは、原則として前学期の成績として、8月1日から1月31日までに申請のあったものは、原則として後学期の成績として認定される。

(注2) 本認定は、本学入学後の受験で、受験日より1年以内の申請に限って認められる。

(注3) 本認定による TOEIC スコアは、公開テスト、または、本学で実施される IP テスト（団体特別受験制度を用いたテスト）のスコアとする。

(注4) TOEFL iBT は、新バンドスコアではなく、旧スコアをもとに認定する。

(注5) 「TOEIC 対策講座Ⅰ」を受講登録した学生が、学期途中で公開もしくは IP テストを受験し、730点以上を獲得した場合、所定の単位認定申請手続きを行った時点で「認定1」が得られる。受講の継続は不要。

(注6) TOEIC の得点で「認定1」「認定2」のいずれか、または、双方の認定を受けている学生が、さらに TOEFL iBT の得点をもって、取得済みのこれらの単位認定を申請することはできない。同様に、TOEFL iBT の得点で「認定1」「認定2」のいずれか、または、双方の認定を受けている学生が、さらに TOEIC の得点をもって、取得済みのこれらの単位認定を申請することはできない。

(注7) 提出された外部テストのスコアは、統計処理を行い、教育の改善や研究のために利用する場合がある。個人が特定される形でスコア等が公表されることはない。

次の URL または QR コードから申請手続きを行ってください。

URL : <https://www.kit.ac.jp/application/view/index.php?id=305668>



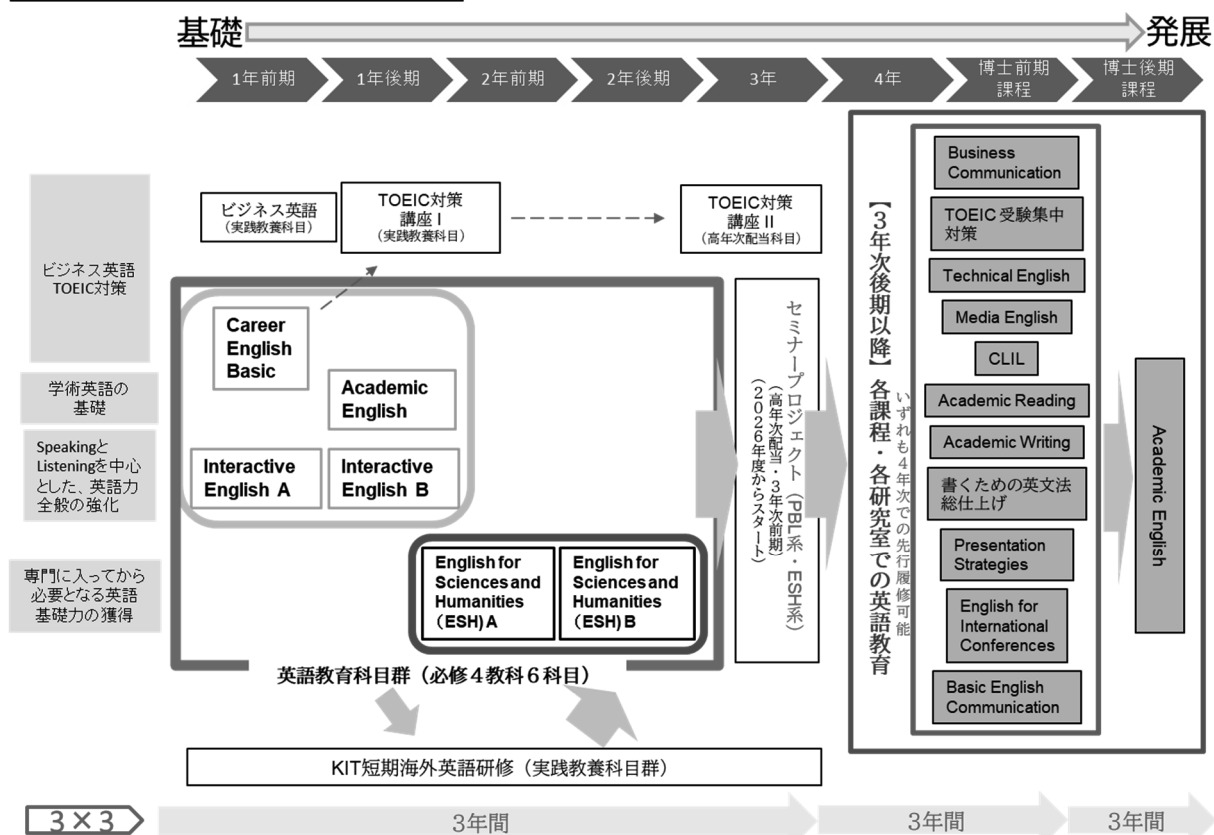
KITの英語教育：学部から大学院へと繋がる積み上げ式の英語カリキュラムの実施

京都工芸繊維大学では、学生の英語力の向上はもちろん、TECH LEADERに必要な幅広い知識と教養の涵養を目指して、学部から大学院へと繋がる一貫した英語教育プログラム—英語鍛え上げプログラム（学部）と英語鍛え直しプログラム（大学院）—を実施しています。学部では、英語必修科目として4教科6科目が提供され、英語の4技能を総合的に高めるとともに、複眼的な視点から論理的・批判的に物事を捉えていく力を養います。また、専門英語なども一部学びながら、専門分野に進んでから特に重要になるプレゼンテーション力、英語論文読解・作成力を磨きます。加えて、「ビジネス英語」や「KIT 短期海外英語研修」などの英語選択科目を受講することで、社会や生活に密着した英語を学ぶことができます。

さらに、この学部での英語教育を経て、大学院では、学術英語を中心とした授業が展開されます。英語論文の書き方や国際学会での発表の仕方、コミュニケーションの取り方などを学ぶとともに、英語論文の読解や要約などの課題にも取り組みます。

これらの授業を通して、そしてまた、授業時間外に取り組むことのできるe-learning教材や多読プログラムも活用したり、あるいは、学内TOEICを受験したりしながら、自分にとって必要な英語力を着実に身につけていきましょう。

英語科目カリキュラムツリー



基盤教養科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学系	1年次	2年次	3年次				4年次
						応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前後	前後	前後	前後				
人と文化																		
哲学	Philosophy		藤田尚志	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	※
比較宗教学	The Comparative Study of Religion		(樽田勇樹)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
宗教と文化	Religion and Culture		(竹貴友佳子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
日本史	Japanese history		(浅井 雅)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
東西文化交流史	History of East West Relations		(旗手 瞳)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
アジアの歴史と文化	Asian History and Culture		(井上直樹)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
ヨーロッパの歴史と文化	European History and Culture		(阿部拓児) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
科学技術の人間学	Anthropology of science and technology		秋富克哉	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	※
ラテン語	Latin		(松本加奈子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
西洋文化論	Western Culture		(山下太郎)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
日本近現代文学	Modern Japanese Literature		(高木 彬)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
西洋文学論	Western Literature		(山下大吾)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	
美と芸術	A Study on Beauty and Art		(船木理悠)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	※
日本近代精神史	History of Ideas in Modern Japan		藤田尚志	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	※
フランス語圏の文化とジャポニスム	French and Francophone Cultures and Japonism		吉川順子	2	講義	○	○	○	○	○	○		2				三大学教養教育共同化科目(工織大)	
医療人類学	Medical Anthropology		(竹田 響)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
認知心理学	Cognitive Psychology		(村上高至)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
京都の歴史 I	History of Kyoto I		(横内裕人) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
京都の歴史 II	History of Kyoto II		(藤本仁文) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
京都の文学 I	Literature in Kyoto I		(大塚誠也)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
京都の文学 II	Literature in Kyoto II		(本井牧子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
京の意匠	Design of Kyoto		山本 史・(下出茉莉)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工織大)	※
京都の文化と文化財	Culture and Heritage in Kyoto		(宗田好史)・(澤田美恵子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	Culture and Society of Contemporary Islamic World (Liberal Arts Seminar)		(黒田賢治)	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	Practical Philosophy of Sensitivity (Liberal Arts Seminar)		(桑子敏雄)	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)	Studies at the Kyoto Institute, Library and Archive (Liberal Arts Seminar)		(藤本仁文) 他	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	Contemporary Theories of Justice (Liberal Arts Seminar)		(瀬戸山晃一) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
禅と世界文化	Zen and World Culture	a b	(佐々木英堂)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2	2					※
文化財学	Study on Cultural Property		平芳幸浩・MARTINEZ,Alejandro・松田剛佐	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2				集中授業	
日本語と日本文化 I	Japanese and Japanese Culture I		澤田美恵子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2				留学生のみ受講可 2026年度は開講しない	
日本語と日本文化 II	Japanese and Japanese Culture II		澤田美恵子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2				留学生のみ受講可 2026年度は開講しない	

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数								備考	下履修	合格再履		
						応用生物学域	情報・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次		2年次		3年次		4年次					
								応用化学	電子	情報		機械	テザ建築	前	後	前	後	前				後	前
人と社会																							
社会学Ⅰ	Sociology I		(田島知之)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
社会学Ⅱ	Sociology II		(中谷勇哉)	2	講義	○	○	○	○	○	○		2							三大学教養教育共同化科目(府立大)			
政治学	Political Science		(西村真彦)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)			
国際政治	International Politics		(宮脇 昇) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
経済学入門	Introductory Economics		(人見光太郎)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								経済学の既修得者は履修不可 三大学教養教育共同化科目(工繊大)			
法学	Introduction to Law		上本翔大	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)			
医療と社会	Medical Sociology		(笠井敬太)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立医大)			
生活と経済	Living Economy		(小沢修司)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
こころの科学	Psychological science		西崎友規子・来田宣幸	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※	
発達心理学	Development Psychology		(上條史絵)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								集中授業 三大学教養教育共同化科目(府立医大)			
現代社会と心	Psychological Issues in Contemporary Society		(石田正浩)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
現代社会とジェンダー	Gender in Modern Society		(滝本知加) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
現代教育論	Study of Modern Education		(末岡加奈子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※	
環境と法	Environment and Law		(吉川聡美)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)			
現代医療の人間観	View of Human in Modern Medicine		(杉岡良彦)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立医大)			
食ブランディング論	Food Branding		(平本 毅)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
京都学講座(人間と社会)	Kyoto Study Lecture Series(Human and Social Studies)		(小沢修司) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
京の産業技術史	History of Industrial Technology in Kyoto		(畑 智子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)			
現代京都論	Urban Issues and Problems in Kyoto		(藤本仁文) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(府立大)			
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	Logical Thinking and Academic Writing (Liberal Arts Seminar)		(杉山東洋)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	The Social Science Literacy for Liberal Arts (Liberal Arts Seminar)		(杉山東洋)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	U.S. and China, Now and the Future (Liberal Arts Seminar)		(榎原美樹)	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1								集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	Facilitation on Current Topics (Liberal Arts Seminar)		(居神 浩)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2								集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール)	The Principle of Marketing (Liberal Arts Seminar)		(児玉英明)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○			2						三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	Presenting with Impact (Liberal Arts Seminar)		(榎原美樹)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)			
憲法	Constitutional Law		上本翔大	2	講義	○	○	○	○	○	○	2								集中授業		※	
経済学	Economics		(人見光太郎)	2	講義	○	○	○	○	○	○			2									※

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数								備考	下履修	合格再履		
						応用生物学	材料科学	設計工学域			デザイン科学	1年次		2年次		3年次		4年次					
								応用化学	電子	情報		機械	デザイン建築	前	後	前	後	前				後	前
人と自然																							
人間生物学	Human Life Science		(山下博史)	2	講義	○	○	○	○	○	○							2			三大学教養教育共同化科目(府立大)		
化学概論Ⅰ	Introduction to Chemistry I		(田嶋邦彦)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
化学概論Ⅱ	Introduction to Chemistry II		(角野広平)	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生物学概論Ⅰ	Introduction to Biology I		(伊藤雅信)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生物学概論Ⅱ	Introduction to Biology II		(伊藤雅信)	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生命科学講話	Topics of Biosciences		(塚本康浩) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									集中授業 三大学教養教育共同化科目(府立大)		
人と自然と数学αⅠ	People, Nature, and Mathematics αⅠ		峯 拓矢	1	講義	○	○	○	○	○	○	2									第1クォーター 三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
人と自然と数学αⅡ	People, Nature, and Mathematics αⅡ		峯 拓矢	1	講義	○	○	○	○	○	○	2									第2クォーター 三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
人と自然と数学β	People, Nature, and Mathematics β (Liberal Arts Seminar)		磯崎泰樹	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生物学の人間学	Human Biology		(後藤仁志) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
科学史	History and Philosophy of Science		(中条太聖)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
環境問題と持続可能な社会	Environmental Problem and Sustainable Society		(山田 悦)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
食と健康の科学	Sciences for Food and Health		(小林ゆき子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(府立大)		
キャンパスヘルス概論	Campus Health Study		牛込恵美	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※
エネルギー科学	Science of Energy		(林 康明)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
現代科学と倫理	Ethics in Contemporary Science		(岩崎豪人)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(府立大)		
医学概論Ⅰ	Introduction to Medicine I		(橋本直哉) 他	1	講義	○	○	○	○	○	○		2								第3クォーター 三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
医学概論Ⅱ	Introduction to Medicine II		(橋本直哉) 他	1	講義	○	○	○	○	○	○		2								第4クォーター 三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
やさしい看護学	Basic of Nursing		(内海桃絵) 他	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1									集中授業 三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
京都の農林業	Agriculture and Forestry in Kyoto		(中村貴子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(府立大)		
京都の防災と府民	Disaster Prevention and People in Kyoto Prefecture		(田淵敦士)・阪田弘一・松田剛佐 他	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
京都の自然	Natural Resources in Kyoto		(平山貴美子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(府立大)		
光と色彩のサイエンス	Science of light and color		(石田昭人)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	Introduction to Functional Materials (Liberal Arts Seminar)		(石田昭人)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	The World of the Plant not to Know Unexpectedly (Liberal Arts Seminar)		(松谷 茂)・井戸美里・畔柳加奈子 他	2	講義	○	○	○	○	○	○		2								三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
レーザーで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	Lasers for Future Sensing, Production and Entertainment (Liberal Arts Seminar)		(播磨 弘)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2									三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		

実践教養科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域		デザイン科学域	1年次	2年次	3年次	4年次					
						応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前後	前後	前後	前後					
キャリア・技術者基礎																			
工学科学基礎	Introduction for School of Science and Technology		学部長 他	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター		
キャリア教育基礎	Introduction for Career Education		学生支援センター長・山本以和子・アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター長 他	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター		
学習・キャリア戦略論	Strategic Planning for Learning and Career Development		山本以和子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					定員88名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。）		
情報セキュリティと情報倫理	Information Security and Ethics		榎田秀夫・永井孝幸・森 真幸	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※
生命倫理と環境倫理	Bioethics and Environmental Ethics		秋富克哉	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							
地球環境論	Global Environmental Science		布施泰朗・初 雪	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※
人権教育	Human rights education		(杉本弘幸)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※
京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり	Wisdom of Kyoto ~ Advanced manufacturing technology (monozukuri) of traditional industry		(永山富男)	2	講義	○	○	○	○	○	○			2					
リーダーシップと経営戦略																			
リーダーシップ基礎Ⅰ ～関係性を築く対話の技術	Leadership Basic I		(野村恭彦)・(内英理香)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					集中授業 定員50名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。地域創生Tech Program生の受講を優先する。）		※
リーダーシップ基礎Ⅱ ～未来をつくる共創の技術	Leadership Basic II		(野村恭彦)・(内英理香)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2				集中授業 定員50名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。地域創生Tech Program生の受講を優先する。）		※
リーダーシップ実践Ⅰ ～半径50mのSDGs実践	Leadership Practice I		(野村恭彦)・(内英理香)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					集中授業 定員50名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。地域創生Tech Program生の受講を優先する。）		
リーダーシップ実践Ⅱ ～京都市のSDGs実践	Leadership Practice II		(野村恭彦)・(内英理香)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○			2			集中授業 定員50名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。地域創生Tech Program生の受講を優先する。）		
知的財産経営論	Intellectual Property Management Theory		(塩川信明)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							
デザインとブランド	Design & Branding		(塩川信明)	2	講義	○	○	○	○	○	○			2					
プロジェクトマネジメント入門	Introductory Project Management		(大西 徹)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							
企業金融入門	Basic Corporate Finance		(吉原清嗣)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							
アントレプレナーシップ概論	Introduction of Entrepreneurship		殿井裕之	2	講義	○	○	○	○	○	○			2			集中授業 定員30名（定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。地域創生Tech Program生の受講を優先する。）		

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次
								応用化学	電子	情報		機械	テザ建築	前後				前後
心身の健康																		
大学生活とメンタルヘルス	Campus Life and Mental Health		三好智子	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター	
コミュニケーションの心理学	Psychology of Communication		来田宣幸	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター	
健康体力科学	Science of Health and Physical Fitness		山下直之・(芳田哲也)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2						※
生体行動科学A	Science of Human Performance A		来田宣幸・幸田仁志	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター	※
生体行動科学B	Science of Human Performance B		来田宣幸・幸田仁志	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第3クォーター	※
スポーツ科学Ⅰ	Lecture and Seminar on Sports Science I	a	山下直之・(芳田哲也)・(道端明子)・(満石寿)	2	講義・演習						○	2						
		b	山下直之・(芳田哲也)・(道端明子)・(満石寿)							○								
		c	来田宣幸・(高山優子)・(水島克己)・(伊藤千草)			○	○											
		d	来田宣幸・(高山優子)・(水島克己)・(伊藤千草)					○	○									
		e	山下直之・(佐竹敏之)・(打谷昌紀)					○										
スポーツ科学Ⅱ	Lecture and Seminar on Sports Science II	a	山下直之・(芳田哲也)・(道端明子)・(満石寿)	2	講義・演習						○	2						
		b	山下直之・(芳田哲也)・(道端明子)・(満石寿)							○								
		c	幸田仁志・(高山優子)・(水島克己)・(伊藤千草)			○	○											
		d	幸田仁志・(高山優子)・(水島克己)・(伊藤千草)					○	○									
生涯スポーツ	Lecture and Seminar on Lifetime Sports	a	山下直之・(佐竹敏之)・(打谷昌紀)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2						
		b	山下直之・(佐竹敏之)・(打谷昌紀)					○	○	○	○				2			
		c	山下直之・(佐竹敏之)・(打谷昌紀)			○	○		○					2				
セミナー・プロジェクト科目																		
大学導入セミナー	Introduction Seminar		基盤教育学域教員	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター 2026年度は開講しない	
実践問題解決セミナー	Practical Problem Solving Seminar		基盤教育学域教員	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター 2026年度は開講しない	
健康と地域探訪セミナー	Health and Regional Exploration Seminar		来田宣幸・山下直之・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第3クォーター	
パフォーマンス分析セミナー	Performance Analysis Seminar		来田宣幸・山下直之・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第4クォーター	
質問調査法セミナー	Questionnaire Survey Method Seminar		来田宣幸・西崎友規子	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第3クォーター	
実験心理学セミナー	Experimental Psychology Seminar		梶村昇吾	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第4クォーター	
国際理解	International Understanding	a	国際センター長 他	1	演習	○	○	○	○	○	○	2					集中授業	
		b											2					
地域連携プロジェクトⅠ	Regional collaboration project I		大谷章夫・桑原教彰・崔重殷	1	演習	○	○	○	○	○	○	2					集中授業、定員若干名、地域創生TechProgram生は履修不可	
地域連携プロジェクトⅡ	Regional collaboration project II		大谷章夫・桑原教彰	2	演習	○	○	○	○	○	○	4					集中授業、定員若干名、地域創生TechProgram生は履修不可	

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次			
						応生	応用化学	電子	情報	機械	テザ建築	前	後	前				後	前	後	
言語・コミュニケーション																					
異文化コミュニケーション	Cross-cultural Communication		(清水貴恵)	1	講義	○	○	○	○	○	○	1					集中授業。海外留学や海外勤務を考えている者は積極的に受講すること。受講者数上限25名。登録者2名以下の場合は不開講。				
ビジネス英語	Business Communication		(三重遼一)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					集中授業				
TOEIC対策講座 I	TOEIC Preparation I	a	林千恵子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2									
		b	(椿和千春)										○	○	○	○	○	○			
社会文化概説(アメリカ) I	Socio-Cultural Studies (Americas) I		林千恵子	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									
社会文化概説(アメリカ) II	Socio-Cultural Studies (Americas) II		林千恵子	2	講義	○	○	○	○	○	○	2									
KIT短期海外英語研修	KIT English Short-term Study Abroad Program	a	英語担当教員	2	実習	○	○	○	○	○	○	6					集中授業、定員10名程度、受講に係る費用は自己負担 ※その他注意事項は欄外を参照				
		b	英語担当教員	2	実習	○	○	○	○	○	○	6									
ドイツ語 I A (初級)	Elementary German I A	a	(南 剛)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2									
		b	(中川一成)																		
		c	(甲斐浩一)																		
		d	(甲斐浩一)																		
		e	(紀之定真理恵)																		
		f	(渡辺恭彦)																		
		g	(江川英明)																		
		h	(江川英明)																		
		i	(小松紀子)																		
		j	(小松紀子)																		
ドイツ語 I B (初級)	Elementary German I B	a	(南 剛)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					ドイツ語 I A (初級)の修得を要す				
		b	(中川一成)																		
		c	(甲斐浩一)																		
		d	(甲斐浩一)																		
		e	(紀之定真理恵)																		
		f	(渡辺恭彦)																		
		g	(江川英明)																		
		h	(江川英明)																		
		i	(小松紀子)																		
		j	(小松紀子)																		
ドイツ語 II A (中級)	Intermediate German II A	a	(中川一成)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					ドイツ語 I B (初級)の修得を要す				
		b	(南 剛)																		
ドイツ語 II B (中級)	Intermediate German II B	a	(中川一成)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					ドイツ語 II A (中級)の修得を要す				
		b	(南 剛)																		

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次
								応用化学	電子	情報		機械	テザ建築	前後				前後
フランス語ⅠA(初級)	Elementary FrenchⅠA	a (谷口永里子) b (大山明子) c 吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2						※	
フランス語ⅠB(初級)	Elementary FrenchⅠB	a (谷口永里子) b (大山明子) c 吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2						フランス語ⅠA(初級)の修得を要す	※
フランス語ⅡA(中級)	Intermediate FrenchⅡA	吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2						フランス語ⅠB(初級)の修得を要す	※
フランス語ⅡB(中級)	Intermediate FrenchⅡB	吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2					フランス語ⅡA(中級)の修得を要す	※
中国語ⅠA(初級)	Elementary ChineseⅠA	a (水野義道) b (伊藤令子) c (馮 心鶴) d (伊藤令子) e (水野義道) f (馮 心鶴) g (武 清陽) h (武 清陽)	2	講義・演習	○						2							※
中国語ⅠB(初級)	Elementary ChineseⅠB	a (伊藤令子) b (伊藤令子) c (水野義道) d (水野義道) e (馮 心鶴) f (武 清陽) g (馮 心鶴) h (武 清陽)	2	講義・演習	○						2						中国語ⅠA(初級)の修得を要す	※
中国語ⅡA(中級)	Intermediate ChineseⅡA	(水野義道)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2					中国語ⅠB(初級)の修得を要す	※
中国語ⅡB(中級)	Intermediate ChineseⅡB	(水野義道)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○			2				中国語ⅡA(中級)の修得を要す	※
日本語Ⅰ	JapaneseⅠ	(岩村万里)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2						留学生のみ受講可	
日本語Ⅱ	JapaneseⅡ	(岩村万里)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2						留学生のみ受講可	
日本語Ⅲ	JapaneseⅢ	伊藤翼斗	1	演習	○	○	○	○	○	○	2						留学生のみ受講可	
日本語Ⅳ	JapaneseⅣ	伊藤翼斗	1	演習	○	○	○	○	○	○	2						留学生のみ受講可	
日本語Ⅴ	JapaneseⅤ	(水野義道)	1	演習	○	○	○	○	○	○		2					留学生のみ受講可	※
日本語Ⅵ	JapaneseⅥ	(水野義道)	1	演習	○	○	○	○	○	○			2				留学生のみ受講可	※

「KIT短期海外英語研修」に関する注意事項

- ・派遣先、研修期間、派遣人数、受講申込期間、受講申込方法等の詳細については、学生情報ポータル等で告知されるので、受講希望者は確認すること。
- ・受講に当たって、受講登録期間中に受講登録する必要はない。本科目の受講登録（本研修への参加）の可否は選考（書類選考と面接）により決定される。
- ・受講登録が認められた学生は、事前研修（4回程度）及び報告会への参加が義務付けられる。
- ・本科目の評価は、海外の研修機関から提供される評価に基づいて、本学の英語担当教員が行う。
- ・本科目の成績は、「認定」と表記し、GPAの算出対象としない。
- ・過去の研修については、学生情報ポータル等を参照すること。

高年次配当科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分						週授業時間数								備考	下履修	合格再履							
						応用生物学域		物質・材料科学域		設計工学域		デザイン科学域		1年次		2年次		3年次					4年次						
						応生	応用化学	電	情報	機械	デザイン建築	前	後	前	後	前	後	前	後										
ものづくりと生命物質科学	Monozukuri and Material and Life Science	a b	応用生物学域・物質・材料科学域教員	2	講義	×	×	○	○	○							2												
ものづくりと設計工学	Monozukuri and Engineering Design	a b	設計工学域教員	2	講義												2												
ものづくりとデザイン科学	Monozukuri and Design Science	a b	デザイン科学域教員	2	講義	○	○										2												
環境マネジメント	Environmental Management		布施泰朗	1	講義	○	○	○	○	○	○							1								集中授業	※		
ビジネスと知的財産活用	Intellectual Property with Business		(塩川信明)	2	講義	○	○	○	○	○	○										2								
ベンチャー企業経営学	Venture Businesses		(上野敬寛)	2	講義	○	○	○	○	○	○											2							
人と運動 (教養セミナー)	Humans and Movement (Liberal Arts Seminar)		山下直之・某	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○											2					第3クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。 2026年度は開講しない		
科学と宗教 (教養セミナー)	Science and Religion (Liberal Arts Seminar)		秋富克哉・入江信一郎	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○										2						第2クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。		
人と環境 (教養セミナー)	Humans and Environment (Liberal Arts Seminar)		山下直之・某	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○											2						第4クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。 2026年度は開講しない	
ポスト・グローバル化社会を生きる (教養セミナー)	Living in the Post-Globalization World (Liberal Arts Seminar)		林千恵子	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○											2						第2クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	
科学技術と社会 (教養セミナー)	Science, Technology, Society (Liberal Arts Seminar)		秋富克哉	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○												2						第3クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。
社会と経済 (教養セミナー)	Society and Economics (Liberal Arts Seminar)		某・入江信一郎	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○												2						第4クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。 2026年度は開講しない
教育と社会 (教養セミナー)	Education and Society (Liberal Arts Seminar)		伊佐夏美	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○												2						第3クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。 2026年度は開講しない
テキストと社会 (教養セミナー)	Text and Society (Liberal Arts Seminar)		竹井智子	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○												2						第4クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分						週授業時間数								備考	下履修	合格再履					
						応用生物学域		物質・材料科学域		設計工学域		デザイン科学域		1年次		2年次		3年次					4年次				
						応生	応用化学	電子	情報	機械	デザ建築	前	後	前	後	前	後	前	後				前	後			
ジェンダーと文化(教養セミナー)	Gender and Culture (Liberal Arts Seminar)		藤田尚志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第1クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。			
科学と哲学(教養セミナー)	Science and Philosophy (Liberal Arts Seminar)		藤田尚志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第3クォーター院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。			
京のまち	Urbanscape of Kyoto		笠原一人・中山利恵・三宅拓也・松田剛佐・Fabienne Helfenberger	2	講義	○	○	○	○	○	○															※	
科学技術と地域社会	Science, Technology, and Community		基盤教育学域教員	2	講義	○	○	○	○	○	○													集中授業、地域創生TechProgram生以外は履修不可			
身体運動のバイオメカニクスA	Human Biomechanics A		来田宣幸・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第1クォーター集中授業			
身体運動のバイオメカニクスB	Human Biomechanics B		来田宣幸・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第1クォーター集中授業			
生体行動科学特論A	Science of Human Performance, Advanced A		来田宣幸・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第3クォーター集中授業			
生体行動科学特論B	Science of Human Performance, Advanced B		来田宣幸・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○													第4クォーター集中授業			
映画で学ぶ英語と文化	Learning English and Cultures through Films		(後藤 篤)	2	講義	○	○	○	○	○	○													三大学教養教育共同化科目(府立大)			
映画で学ぶドイツ語と文化	Learning German and Cultures through Films		(杉山東洋)	2	講義	○	○	○	○	○	○													三大学教養教育共同化科目(府立大)			
英語で京都	Let's talk about Kyoto in English		(山口エレノア)	2	講義	○	○	○	○	○	○													三大学教養教育共同化科目(府立大)			
TOEIC 対策講座Ⅱ	TOEIC Preparation II		竹井智子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○																
セミナー・プロジェクト(PBL/CLIL)	Seminar Project (PBL/CLIL)	a	深田 智	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○																
		b	サンドラ ヒーリ																								
ドイツ語(文化・文学・思想)A	German (Culture, Literature, Philosophy) A		(南 剛)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○													ドイツ語ⅠA・ⅠBを履修済みであること。			※
ドイツ語(文化・文学・思想)B	German (Culture, Literature, Philosophy) B		(南 剛)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○													ドイツ語ⅠA・ⅠBを履修済みであること。			※
フランス語(文化・文学・思想)A	French (Culture, Literature, Philosophy) A		吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○													フランス語ⅠA・ⅠBを履修済みであること。			※
フランス語(文化・文学・思想)B	French (Culture, Literature, Philosophy) B		吉川順子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○													フランス語ⅠA・ⅠBを履修済みであること。			※
国際連携プロジェクトⅠ	International Collaboration Project Ⅰ	a	国際センター長・高橋和生 他	1	演習	○	○	○	○	○	○													集中授業申し出により、3回生の履修を認めることがある。			
		b																									
国際連携プロジェクトⅡ	International Collaboration Project Ⅱ	a	国際センター長・高橋和生 他	2	演習	○	○	○	○	○	○													集中授業申し出により、3回生の履修を認めることがある。			
		b																									

(再掲) 京都学科目 (20科目)

※京都の地域的、歴史的、文化的特色をいかした京都ゆかりの科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						応用生物学	物質・材料科学	設計工学域	デザイン科学	1年次	2年次	3年次	4年次								
										前	後	前	後	前				後	前	後	
基盤教養科目から再掲																					
宗教と文化	Religion and Culture		(竹貴友佳子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)				
京都の歴史 I	History of Kyoto I		(横内裕人) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京都の歴史 II	History of Kyoto II		(藤本仁文) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京都の文学 I	Literature in Kyoto I		(大塚誠也)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京都の文学 II	Literature in Kyoto II		(本井牧子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京の意匠	Design of Kyoto		山本 史・(下出茉莉)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※		
京都の文化と文化財	Culture and Heritage in Kyoto		(宗田好史)・澤田美恵子 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)				
資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)	Studies at the Kyoto Institute, Library and Archive		(藤本仁文) 他	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)				
禅と世界文化	Zen and World Culture	a b	(佐々木英堂)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2 2							※		
文化財学	Study on Cultural Property		平芳幸浩・MARTINEZ,Alejandro・松田剛佐	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○		2				集中授業				
京都学講座(人間と社会)	Kyoto Study Lecture Series(Human and Social Studies)		(小沢修司) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)				
京の産業技術史	History of Industrial Technology in Kyoto		(畑 智子)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)				
現代京都論	Urban Issues and Problems in Kyoto		(藤本仁文) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京都の農林業	Agriculture and Forestry in Kyoto		(中村貴子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
京都の防災と府民	Disaster Prevention and People in Kyoto Prefecture		(田淵敦士)・阪田弘一・松田剛佐 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)				
京都の自然	Natural Resources in Kyoto		(平山貴美子) 他	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)				
実践教養科目から再掲																					
京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり	Wisdom of Kyoto ~ Advanced manufacturing technology (monozukuri) of traditional industry		(永山富男)	2	講義	○	○	○	○	○	○			2							
高年次配当科目から再掲																					
京のまち	Urbanscape of Kyoto		笠原一人・中山利恵・三宅拓也・松田剛佐・Fabienne Helfenberger	2	講義	○	○	○	○	○	○				2						※
科学技術と地域社会	Science, Technology, and Community		基盤教育学域教員	2	講義	○	○	○	○	○	○				2				集中授業、地域創生TechProgram生以外は履修不可		
英語で京都	Let's talk about Kyoto in English		(山口エレノア)	2	講義	○	○	○	○	○	○				2				三大学教養教育共同化科目(府立大)		

(再掲) 初年次教育科目 (19科目)

※高校から大学への円滑な移行を図り、大学での学びや生活に適應できるようにすることを目的とした科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						応用化学	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次	
								電	情	機		前	後	前				後	前
大学での第一歩を踏み出す																			
工芸科学基礎	Introduction for School of Science and Technology		学部長 他	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター		
大学導入セミナー	Introduction Seminar		基盤教育学域教員	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター 2026年度は開講しない		
実践問題解決セミナー	Practical Problem Solving Seminar		基盤教育学域教員	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター 2026年度は開講しない		
コミュニケーションの心理学	Psychology of Communication		来田宣幸	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第1クォーター		
自分を知る・将来を考える																			
キャリア教育基礎	Introduction for Career Education		学生支援センター長・山本以和子・アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター長 他	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター		
大学生生活とメンタルヘルス	Campus Life and Mental Health		三好智子	1	講義	○	○	○	○	○	○	2					第2クォーター		
キャンパスヘルス概論	Campus Health Study		牛込恵美	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※
学習・キャリア戦略論	Strategic Planning for Learning and Career Development		山本以和子	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					定員88名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。)		
健康と地域探訪セミナー	Health and Regional Exploration Seminar		来田宣幸・山下直之・幸田仁志	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第3クォーター		
学びの土台を作る																			
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	Logical Thinking and Academic Writing (Liberal Arts Seminar)		(杉山東洋)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	Facilitation on Current Topics (Liberal Arts Seminar)		(居神 浩)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	The Social Science Literacy for Liberal Arts (Liberal Arts Seminar)		(杉山東洋)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	Presenting with Impact (Liberal Arts Seminar)		(榎原美樹)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
質問調査法セミナー	Questionnaire Survey Method Seminar		来田宣幸・西崎友規子	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2					第3クォーター		
社会とつながる力を育てる																			
環境問題と持続可能な社会	Environmental Problem and Sustainable Society		(山田 悦)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生命倫理と環境倫理	Bioethics and Environmental Ethics		秋富克哉	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							
地球環境論	Global Environmental Science		布施泰朗・初 雪	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※
人権教育	Human Rights Education		(杉本弘幸)	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※
情報セキュリティと情報倫理	Information Security and Ethics		柵田秀夫・永井孝幸・森 真幸	2	講義	○	○	○	○	○	○	2							※

Ⅲ. 各課程の教育内容について

応用生物学域

1. 学域の紹介

応用生物学域は、1899年設立の農商務省京都蚕業講習所が前身であり、本学発祥の母体でもあります。養蚕業は、明治期から昭和初期において日本の貿易輸出額の要を占め、日本の近代化に大きく貢献しました。戦後、本学の新制大学としてのスタートにともない養蚕関連の学科となり、その後応用生物学に名称を変更し、幅広いバイオテクノロジー分野を教育・研究する部門になりました。バイオテクノロジーは、先進医療、再生医療、食料、地球温暖化に伴う環境変化などの課題に極めて有効な持続可能な未来融合的テクノロジーで、医療や農業の分野で活用されています。本学域では、遺伝子、細胞、個体、集団レベルと多岐に渡るレベルでのバイオテクノロジーに関する基礎・応用・実践力を身につけ、グローバルな技術者・研究者の養成を目指します。

1年次と2年次では、自然科学全般（生物学、化学、物理学、数学、情報科学）を専門基礎科目として履修し、広く自然科学の基礎知識を身につけます。これらの科目は、主に2年次から始まる課程専門科目を学ぶための基礎になります。3年次後学期からは、研究室に配属されて最先端生命科学研究の一端に触れ、4年次の卒業研究へとつなげます。本学域は、学部として応用生物学課程、大学院博士前期課程として応用生物学専攻、大学院博士後期課程としてバイオテクノロジー専攻で構成されています。

2. 教育研究上の目的（育成する人材像）

人類は有史以前から、生物機能を利用し穀物栽培、家畜飼育、養蚕、醸造などを行い生活に役立ててきました。しかし、20世紀後半からヒトを含む様々な生物のゲノム情報、つまり生命の設計図が明らかにされ生命科学は劇的に発展しました。このような生命科学の発展にともない、バイオテクノロジーも深化し、その成果は、医療・農業などの分野で応用され、我々の生活に役立っています。例えば、抗体医薬、有用物質の生産、iPS細胞による細胞・組織の再生、ゲノム編集による品種改良、新しいタイプのワクチン開発などが進み、人類の生活を大きく変化させようとしています。科学の進歩は私たちの生活を豊かにしましたが、一方で地球の温暖化と環境汚染、人口増加による食糧不足、高齢化・社会の複雑化によるアレルギー・がん・脳疾患などの老化関連疾患の増加をもたらしました。これらの諸問題を解決できるきわめて有効な方法の一つはバイオテクノロジーです。このような社会背景に鑑み、本学域では、生体分子から細胞・個体レベルに至る広範な領域の基礎生命科学とバイオテクノロジーに関する高度な知識・技術・展開能力を有し、諸課題を解決し社会に還元することで、安全で幸福な持続的社会的の実現に貢献できるグローバルな先端技術者・研究者を養成します。

応用生物学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、本課程では、幅広い生命科学の基礎知識とバイオテクノロジーに対する知識・技術を有し、バイオテクノロジーを駆使して人類のベターライフに関わる技術開発が出来る能力を身につけることを目標とします。

- A. 生物の生体構成分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）の構造と機能を理解している。
- B. 生命現象の基本（代謝、遺伝、発生、生理、行動）を理解している。
- C. バイオテクノロジー（遺伝子操作、細胞培養、酵素活性測定、顕微鏡等のナノテクノロジーなど）に関する知識と技術を修得している。
- D. 生命科学とバイオテクノロジーに関して、論理的な文章の記述、プレゼンテーション、討論が出来る。
- E. 社会の諸問題を、データ分析を活用しつつバイオテクノロジーによって解決することができる思考力・判断力・創造力を有し、バイオ産業に貢献できる能力を有している。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学部および課程のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本課程では次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。

- A. 生命科学の基礎となる生体構成分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）の構造と機能、および生命現象の基本（代謝、遺伝、発生、生理、行動）を細胞・個体レベルで理解する講義プログラムを提供します。【専門力】
- B. 多様な生物種（哺乳動物・昆虫・微生物・植物）の特徴と機能、これら生物種を用いたバイオテクノロジーに関する講義プログラムを提供します。【専門力、外国語運用能力】
- C. 生命現象をミクロからマクロレベルで実践的に学び、生命科学やバイオテクノロジーの基本的な知識と技術を修得する実験・実習プログラムを提供します。【専門力、外国語運用能力】
- D. 論理的な文章の記述とプレゼンテーション能力、及び技術者・研究者としてグローバルに活躍できる能力を身につけるプログラムを、2年次の英語演習、3年次後学期の基礎研究・演習および4年次の卒業研究で提供します。【個の確立、リーダーシップ】

3. 教育プログラムの実施方針

1年次は、主に「英語教育科目」「基盤教養科目」「実践教養科目」「専門基礎科目」が開講されます。「英語教育科目」では英語の運用能力、「基盤教養科目」「実践教養科目」では理工系高度専門技術者としての幅広い教養と高い倫理性を修得します。「専門基礎科目」は各専門分野の背景を支える知の体系である科学 (science) を構成する数学、物理学、化学、生物学等の基礎的な内容から成ります。これらは、専門課程への準備と同時に、現代社会を豊かに生きるための基本的な素養を提供します。「専門導入ゼミ」、「自然観察学」などの導入科目により、生物や自然環境に対する興味や関心を喚起する教育を行います。

主に2年次で開講されるコア科目群では、細胞・生理・微生物・遺伝などの生物機能を深く理解するために必須の講義科目を提供するとともに、生物化学や分子生物学などによって生物構成成分に対する理解を深めます。また、2、3年次に集中して行われる学生実験と演習によって、専門基礎科目およびコア科目で履修した知識を確認します。さらに、英文専門書や論文の講読演習を通して、グローバルに活躍するために必要な生物英語を学ぶと同時に専門知識を深めます。

3年次後学期から研究室に配属され、基礎研究・演習および卒業研究を実践することにより、研究者・技術者に要求される素養を身に付けます。また大学院に進学して研究を行うための基礎的能力を培います。卒業研究に着手するためには、3年次終了までに定められた単位を修得しておく必要があります（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）。また、地域創生 Tech Program の学生は、3年次前学期終了までに定められた単位を修得しておく必要があります。研究室配属や卒業研究の内容については、3年次前学期に説明します。

4年次4月、3年次末における専門基礎科目並びに課程専門科目などの成績を参考に専門的知識の学修度合を評価し、本学大学院3×3特別推薦入試の推薦者を決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を実質上の修士初年次「MO（エムゼロ）」として大学院工学科学研究科博士前期課程（修士課程）と合わせて3年間一貫したプログラムによる教育・研究を行います。

「インターンシップ A、B」は、それぞれ30～45時間と60～90時間、関連分野の企業等での職業体験（研修）を行うことにより、これらの分野での実践的な知識や技能を修得することを目的としています。また、将来、大学院に進学する場合、および職業を選択する場合の参考となる体験的知識の習得も目的としています。

履修計画の参考のために、「専門科目のカリキュラムツリー」を課程専門科目のカリキュラム表の後に示します。

専門教育科目

応用生物学域

専門導入科目（応用生物学域）

履修区分欄の●は必修科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
専門導入ゼミ	Introductory Seminar	応生	応用生物学課程関係教員	2	講義	●	●	2										
地域課題導入セミナーⅠ	Introduction Seminar with Regional Challenges I	応生	大谷草夫・桑原教彰・崔重殷・来田宣幸	1	演習	×	●	2							集中授業			
地域課題導入セミナーⅡ	Introduction Seminar with Regional Challenges II	応生	大谷草夫・桑原教彰・崔重殷	2	演習	×	○		4						集中授業			

専門基礎科目（応用生物学域）

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次					
								前	後	前	後				前	後
数 学																
基礎解析Ⅰ	Basic Calculus Ⅰ	応生a	(大川 領)	2	講義	☆	☆	2						maと同時開講		
		応生b	(高尾尚武)			☆	☆						mbと同時開講			
		応生c	武石拓也			☆	☆						mcと同時開講			
		応生d	(清水翔之)			☆	☆		2				同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。md、pd、dcと同時開講			
基礎解析Ⅱ	Basic Calculus Ⅱ	応生a	(渡辺聡美)	2	講義	☆	☆	2					ma、daと同時開講			
		応生b	(高尾尚武)			☆	☆					mbと同時開講				
		応生c	(大倉弘之)			☆	☆					mcと同時開講				
線形代数学Ⅰ	Linear Algebra Ⅰ	応生a	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2					同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。mc、pe、dcと同時開講			
		応生b	(清水翔之)			☆	☆	2								
線形代数学Ⅱ	Linear Algebra Ⅱ	応生	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2								
物 理 学																
物理学Ⅰ	Physics Ⅰ	応生	(木曾田賢治)	2	講義	☆	☆	2								※
物理学Ⅱ	Physics Ⅱ	応生	(木曾田賢治)	2	講義	☆	☆	2								※
物理学基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	応生a	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・藤原進・(鶴谷直樹)・(厳樫昌弘)	2	実験	☆	☆		6					maと同時開講		
		応生b	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・藤原進・(鶴谷直樹)・(厳樫昌弘)			☆	☆		6					mbと同時開講		
化 学																
化学Ⅰ	Fundamental Chemistry Ⅰ	応生	中 建介	2	講義	☆	☆	2								※
化学Ⅱ	Fundamental Chemistry Ⅱ	応生	麻生祐司	2	講義	☆	☆	2								※
有機化学Ⅰ	Organic Chemistry Ⅰ	応生	志波智生・岸川淳一	2	講義	☆	☆		2							※
有機化学Ⅱ	Organic Chemistry Ⅱ	応生	(原田繁春)	2	講義	☆	☆		2							※
無機化学Ⅰ	Inorganic Chemistry Ⅰ	応生	朱 文亮・菅原 徹	2	講義	☆	☆		2					maと同時開講	※1	※
化学基礎実験	Laboratory Work in Basic Chemistry	応生	応用生物学課程関係教員	2	実験	●	●		6							
生 物 学																
生物学Ⅰ	Biology Ⅰ	応生a	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	●	●	2						同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。		※
		応生b	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治			●	●	2								
生物学Ⅱ	Biology Ⅱ	応生	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	●	●	2								※
生物学基礎実験A	Laboratory Work in Fundamental Biology A	応生	応用生物学課程関係教員	2	実験	●	●		6							

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履			
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次							
								前	後	前	後	前	後	前	後						
情報																					
情報処理演習	Seminar in Information Processing	応生	岸川淳一・都丸雅敏	2	講義・演習	●	●	2													
学術国際情報	World Science Information	応生	応用生物学課程関係教員	2	講義・演習	●	●		2												
AI・データサイエンスⅠ	AI & Data Science I		山本高至・馬 強	1	講義	☆	☆	2									第3クォーター集中授業				
AI・データサイエンスⅡ	AI & Data Science II		山本高至・馬 強	1	講義	☆	☆	2										第4クォーター定員70名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。)			
その他																					
地学	Earth Science	応生	(紺谷吉弘)	2	講義	*	*	2										卒業要件外科目(教職用)	※	※	
地球惑星科学入門	Introductory Earth and Planetary Science	応生	(中西一郎)	2	講義	*	*		2									卒業要件外科目(教職用)	※	※	
地学実験	Laboratory Work in Earth Science	応生	(風間卓仁)	1	講義・実験	*	*			2								卒業要件外科目(教職用)集中授業定員20名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。上回生の受講を優先する。)			地学及び地球惑星科学入門を履修していることが望ましい
インターンシップA	Internship A	応生	課程長	1	実習	○	○				3							30~45時間を目安とする。	※		
インターンシップB	Internship B	応生	課程長	2	実習	○	○					6						60~90時間を目安とする。	※		
繊維科学																					
繊維科学基礎	Basics of Fiber Science	応生	綿岡 勲	2	講義	☆	☆				2								※	※	
生物繊維材料学	Biofiber materials	応生	麻生祐司・綿岡勲・岡久陽子	2	講義	☆	☆					2							※	※	
染色科学	Dyeing Science	応生	安永秀計	2	講義	☆	☆					2							※	※	
地域創生 Tech Program																					
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	応生	桑原教彰(辻 愛里)	2	講義	×	○						4					第4クォーター集中授業			
地域感性デザイン論	Community-Based Kansei Design	応生	崔 董殷	2	講義	×	○						4					第4クォーター集中授業			
地域プロジェクトマネジメント	Community Project Management	応生	崔 董殷	2	講義	×	○						4					第4クォーター集中授業			
複合材料科学	Composite Materials Science	応生	大谷章夫	2	講義	×	○						4					第4クォーター集中授業			
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	応生	大谷章夫	2	講義	×	○						4					第4クォーター集中授業			

※1 地域創生Tech Programの学生のみ下履修可

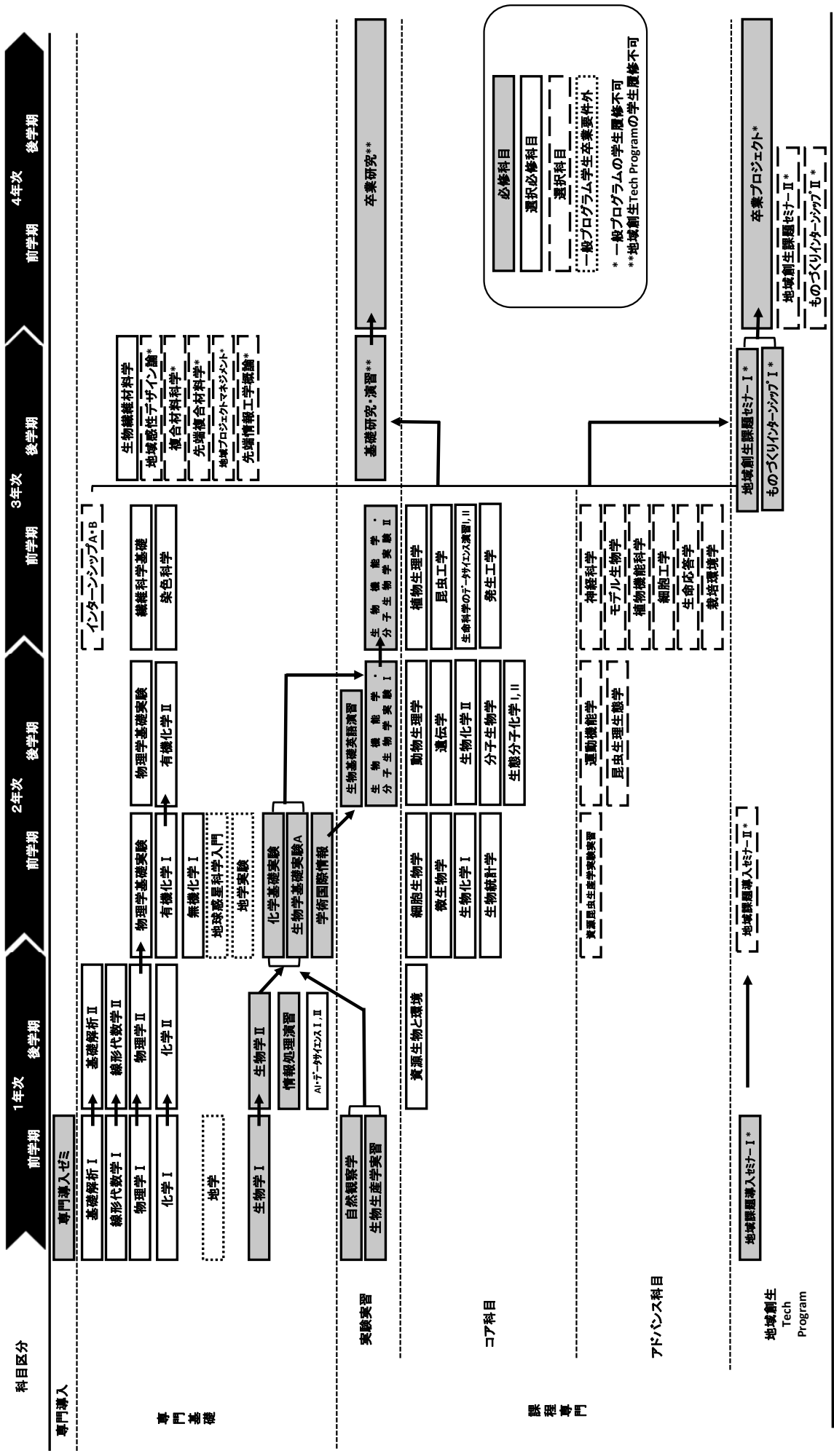
課程専門科目

応用生物学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						一般	地域	1年次 前後	2年次 前後	3年次 前後	4年次 前後					
必修科目（応用生物学実験実習）																
自然観察学	Field Observation and Survey of Living Nature		秋野順治・堀元栄枝・都丸雅敏・長岡純治	1	講義・演習	●	●	2								
生物生産学実習	Field Work in Agriculture		秋野順治・堀元栄枝・長岡純治	2	講義・実習	●	●	4								
生物基礎英語演習	Seminar in Basic Biology with English Text		応用生物学課程関係教員	2	講義・演習	●	●			2					生物学および刊を履修していることが望ましい	
生物機能学・分子生物学実験Ⅰ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology I		応用生物学課程関係教員	4	実験	●	●				12					
生物機能学・分子生物学実験Ⅱ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology II		応用生物学課程関係教員	4	実験	●	●					12				
基礎研究・演習	Basic Research and Seminar		応用生物学課程関係教員	6	実験・演習	●	×						12		集中授業 全学共通科目と専門教育科目の総取得単位数が100以上であること。ただし、当該年度の3年次編入者については課程長の判断により履修を許可することがある。	
卒業研究	Thesis Research	応生	応用生物学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10		
選択必修科目（応用生物学コア科目） * 22単位以上を選択必修する。																
資源生物と環境	Bioresorce and Environment	応生	秋野順治・長岡純治・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	☆	☆	2							maと同時開講	※
動物生理学	Animal Physiology		吉村亮一	2	講義	☆	☆			2						※
細胞生物学	Cell Biology		井沢真吾・市川 明	2	講義	☆	☆			2						※ ※
微生物学	Microbiology		井沢真吾	2	講義	☆	☆			2						※ ※
遺伝学	Genetics		加藤容子	2	講義	☆	☆			2						※ ※
植物生理学	Plant Physiology		半場祐子	2	講義	☆	☆				2					※ ※
生物化学Ⅰ	Biological Chemistry I	応生	志波智生・岸川淳一	2	講義	☆	☆			2						※ ※
生物化学Ⅱ	Biological Chemistry II	応生	片岡孝夫	2	講義	☆	☆				2					※ ※
分子生物学	Molecular Biology	応生	市川 明・北島佐紀人・井沢真吾	2	講義	☆	☆				2					※ ※
生態分子化学Ⅰ	Ecological Chemistry I		秋野順治	1	講義	☆	☆				2				第3クォーター	※ ※
生態分子化学Ⅱ	Ecological Chemistry II		秋野順治	1	講義	☆	☆				2				第4クォーター	※ ※
昆虫工学	Insect Biotechnology		小谷英治・高木圭子	2	講義	☆	☆				2					※ ※
発生工学	Developmental Bioengineering		野村 真・東島沙弥佳	2	講義	☆	☆				2					※ ※
生命科学のデータサイエンス演習Ⅰ	Exercises in Bioinformatics I		北島佐紀人	1	講義・演習	☆	☆				2				第1クォーター	※ ※
生命科学のデータサイエンス演習Ⅱ	Exercises in Bioinformatics II		北島佐紀人	1	講義・演習	☆	☆				2				第2クォーター	※ ※
生物統計学	Biostatistics		来田宣幸・加藤容子	2	講義・演習	☆	☆			2					集中授業	※
選択科目（応用生物学アドバンス科目）																
資源昆虫生産学実験実習	Field and Laboratory Work in Applied Entomology		秋野順治・長岡純治・小谷英治・高木圭子	2	講義・実習	○	○				4				集中授業	※
神経科学	Neuroscience		佐藤正晃	2	講義	○	○					2				※ ※
モデル生物学	Model Organisms		吉田英樹・川口耕一郎	2	講義	○	○					2				※ ※
植物機能科学	Plant Function Science		北島佐紀人	2	講義	○	○					2				※ ※
昆虫生理生態学	Insect Physiology and Ecology		秋野順治・長岡純治	2	講義	○	○					2				※ ※
細胞工学	Cell Technology		片岡孝夫	2	講義	○	○					2			2027年度限り廃止	※ ※
運動機能学	Kinesiology		来田宣幸・幸田仁志	2	講義	○	○					2				※ ※
生命応答学	Mechanisms of Biological Response		杉江 淳	2	講義	○	○					2				※ ※
栽培環境学	Agro-Enviromental Sciences		堀元栄枝	2	講義	○	○					2				※ ※
地域創生Tech Program（京都府北部開講科目）																
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	応生	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 重殷・来田宣幸	2	演習	×	●						8		集中授業	
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	応生	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷	2	演習	×	○							8	第1クォーター	
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	応生	大谷章夫・桑原教彰・来田宣幸・（塩川信明）	4	実習	×	●						20		集中授業	
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	応生	大谷章夫・桑原教彰・SIRIARAYA PANOTE	1	実習	×	○							5	第2クォーター	
卒業プロジェクト	Thesis Project	応生	応用生物学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●							10	10	

応用生物学課程カリキュラムツリー



履修規則別表第7

卒業認定に必要な単位数 ■ 応用生物学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考				
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目			課程専門科目				専門 教育 科目 合計	総合計		
						必修	選択	合計	必修	選択	卒業 研究 ・ 卒業 プロジェクト 必修				課程 専門 科目 合計	
応用生物学課程	一般 プログラム	8	6	10	2	32	2	12	24	36	19	22	8	92	134 [*]	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	3	12	24	36	19	22	8	92	134 [*]	

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。
 注3. 大学院授業科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第 1 1

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数 ■ 応用生物学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考	
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目		課程専門科目			専門 教育 科目 合計		総合 合計
						必修	選択 必修	必修	選択 必修	卒業 研究・ 卒業 プロジェクト 必修			
応用生物学課程	一般 プログラム	8			26	2	8	14	24	16	18	66	110
	地域創生 Tech Program	8			28	3	8	24	32	17	20	84	119

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。

注2. 教職関係科目及び学芸科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第10

京都府北部開講科目履修のために必要な単位数 ■ 応用生物学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考	
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次配当科目	専門導入科目	専門基礎科目		課程専門科目			専門教育科目合計		
						選択必修	選択	必修	選択必修	選択			卒業研究・卒業プロジェクト必修
応用生物学課程 地域創生Tech Program	8				3	8	24		11	20		78	116
				28					32				

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸科目は、総計には含まれない。

物質・材料科学域

1. 学域の紹介

今日、私たちの身の回りにはさまざまな物質や材料があり、それらは最先端科学を支える物質や材料、エネルギーの生産・貯蔵・輸送を担う物質や材料、環境に優しい物質や材料、さらには生体分子など生命とつながりをもつ物質や材料など多岐にわたっています。将来の物質科学や材料科学、さらには生命科学の発展には、革新的な物質や材料の創製が必要不可欠なものとなっています。さらに、それらの科学領域が相互に結び付くことが、私たちの社会生活を支えるナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境テクノロジーの発展へと繋がっています。このような背景のもと、本学域では、原子・分子レベルの理解から最先端の材料開発まで、基礎・応用・実践を通じた幅広い教育研究により知的好奇心と探究心を育み、基礎科学の深掘りと多彩な挑戦的コラボレーションを通じて、高度な工学センスを有する研究者・技術者の育成を目指します。

2. 教育研究上の目的（育成する人材像）

本学域では、物質・材料の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身に着けた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成します。

具体的には、「基礎力」「応用・実践力」「異分野融合力」「国際化」の四つの視点に基づいて、以下に記す人材の育成を目指します。

●基礎力

原子・分子レベルの理解から高精度な材料設計まで、知的好奇心と探究心を原動力とする物質・材料科学分野の基礎科学の深掘りによって、幅広い知識と洞察力を備えた人材を育成します。

●応用・実践力

本物志向と時代に即した柔軟な対応という京都ならではの価値観に基づき、物質・材料科学研究分野における社会課題の解決に貢献する応用力・実践力を備え、オリジナリティの高い科学技術の創生を追求する人材を育成します。

●異分野融合力

異分野どうしの積極的な交流により、個々の基礎分野の相互理解を深め、知識と技術を相互活用・融合させることによって、新しい研究分野を創出することのできる人材を育成します。

●国際化

海外との積極的な交流とグローバルな情報発信能力の開発によって、物質・材料科学分野の次代を担う国際的視野を有する研究者・技術者となる人材を育成します。

応用化学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学部のディプロマ・ポリシーに加えて、

- A. 幅広い教養と高い倫理性を備え、物質・材料の化学と工学について高度な専門知識と応用力を身につけていること
- B. ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境・エネルギーテクノロジーの技術革新を促進する物質・材料の専門知識と課題解決能力を備えていること
- C. 将来の地球環境、国際社会、地域産業に関する課題解決に貢献できる人材としての素養を有していること

がすべて認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。そしてその認定は、科目群毎に設定された応用化学課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たしていることと、卒業研究又は卒業プロジェクトの成果によって判定されます。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学部及び課程のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本課程では、以下の学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。

- A. 幅広い教養と高い倫理性を備え、物質・材料の化学と工学について高度な専門知識と応用力を身につけていること
 - (1) 数学・物理学・化学・生物学・情報などについて高度な専門知識を有する【専門力】
 - (2) 高い倫理性をもって、高度な専門知識を先端機能材料の開発と探究に応用できる能力を有する【専門力、リーダーシップ】
- B. ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境・エネルギーテクノロジーの技術革新を促進する物質・材料の専門知識と課題解決能力を備えていること
 - (1) 上記テクノロジーを支える物質・材料に関する幅広い知識（総合力）を有する【専門力】
 - (2) 修得した幅広い専門知識を上記テクノロジーの技術革新に応用するための課題解決能力、すなわち、柔軟な思考力、創造力、コミュニケーション能力を有する【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力】
- C. 将来の地球環境、国際社会、地域産業に関する課題解決に貢献できる人材としての素養を有していること
 - (1) 先端科学技術によって解決すべき地球規模の課題について現状を理解し、その解決にチャレンジする能力を有する【リーダーシップ】
 - (2) 国際的な場での研究交流能力や研究発表能力を有する【外国語運用能力】
 - (3) 地域産業の現状と課題を理解する【個の確立】

3. 教育プログラムの実施方針

1年次および2年次において、専門基礎科目として自然科学の基礎（化学・有機化学・物理化学・

無機化学・分析化学・化学工学・生物学・物理学・数学・情報など）を提供しています。これらを履修することによって、広く自然科学の基礎知識を修得します。並行して、「化学基礎実験」、「物理学基礎実験」、「応用化学序論Ⅰ、Ⅱ」が提供されており、それらの実験や講義を通じて実験操作や専門的理解の基礎を築きます。

2年次後学期より、次に示す4つのコースのいずれか1つを自コースとして選択し、学習する体制をとります。コースを選択するには所定の単位数を修得する必要があります。各コースのおもな学習内容は、下記の通りです。

◆高分子材料デザインコース

高分子材料は、一次元状のファイバー（繊維）、二次元状の膜やフィルム、これらを基に構築した三次元構造のいずれにも加工できる特徴を有しています。高分子のもつフレキシビリティの基となる構造、そこから発現する性能、機能、物性を学習します。

◆材料化学デザインコース

無機化学、物理化学をベースとして、セラミックス、ガラスなどの無機材料が発現する機能、物性について理解し、無機材料の材料設計に必要な総合的学力を習得します。

◆分子化学デザインコース

有機低分子および高分子化合物の合成法、化学的および物理的性質、反応性などに関する基礎的事項を系統的に学んだのちに、有機分子を自在に合成するための有機合成法、分子構造とその機能性ととの相関性、機能性有機材料の分子設計法などについて学習します。

◆機能物質デザインコース

生体分子の構造、機能、作用機序、さらにその分析法、利用法などを学び、生体メカニズムを基に新しい機能物質を創成し、医療や環境問題等の解決に貢献する化学と工学を学習します。

2年次後学期以降では、物質および材料の成り立ちから応用までを俯瞰できるようになるために、「応用化学実験Ⅰ、Ⅱ」、「コースゼミ」、「卒業研究」（地域創生 Tech Program では「応用化学実験Ⅰ」、「卒業プロジェクト」）などをコース共通の必修科目として履修します。

本学大学院の3×3特別推薦入試に対する応用化学課程からの推薦者は、TOEIC スコアと GPA を参考にして決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を「MO（エムゼロ）」とみなし修士課程の2年間と合わせた3年間の一貫したプログラムによる学修および研究活動を行います。

4年次になると、卒業研究のために研究室への配属を実施します。配属後は、教員の指導のもと、高度な最先端の研究を行うことにより、理工系高度専門技術者としての素養を身につけます。なお、卒業研究に着手するためには、3年次終了までに定められた単位を修得しておく必要があります（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）。3年次の終わりに卒業研究の内容や研究室配属についての説明があります。研究室配属については、基本的に学生の希望に基づいて行われますが、その詳細は年度ごとに別途配付する実施要領により定めます。

履修計画をたてる際の参考として、コース毎の「カリキュラムツリー」を課程専門科目のカリキュラム表の後に示します。

地域創生 Tech Program の学生に関しては、3 年次後学期から 4 年次前学期にかけて京都府北部でのカリキュラムを履修するため、3 年次前学期までに必要な単位数を修得し終える独自の履修区分と履修の流れを設けています。

専門教育科目
物質・材料科学域

専門導入科目（物質・材料科学域）

履修区分欄の●は必修科目、×は履修不可科目を示す。

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数								備 考	下 履 修	合 格 再 履	
						一 般	地 域	1年次		2年次		3年次		4年次					
								前	後	前	後	前	後	前	後				
地域課題導入セミナーⅠ	Introduction Seminar with Regional Challenges I	ma	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷・来田宣幸	1	演習	×	●	2									集中授業		
地域課題導入セミナーⅡ	Introduction Seminar with Regional Challenges II	ma	大谷章夫・桑原教彰・ 崔 重殷	2	演習	×	○		4								集中授業		

専門基礎科目（物質・材料科学域）

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履		
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次						
								前	後	前	後	前	後	前	後					
基礎解析Ⅰ	Basic Calculus I	ma	(大川 領)	2	講義	☆	☆	2									応生aと同時開講			
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										応生bと同時開講			
		mc	武石拓也			☆	☆											応生cと同時開講		
		md	(清水翔之)			☆	☆		2									同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生d、pd、dcと同時開講		
基礎解析Ⅱ	Basic Calculus II	ma	(渡辺聡美)	2	講義	☆	☆	2									応生a、daと同時開講			
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										応生bと同時開講			
		mc	(大倉弘之)			☆	☆										応生cと同時開講			
線形代数学Ⅰ	Linear Algebra I	ma	(中川義行)	2	講義	☆	☆	2									同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生b、pe、dcが同時開講			
		mb	(中川義行)			☆	☆													
mc	(清水翔之)	☆	☆	2																
線形代数学Ⅱ	Linear Algebra II	ma	(中川義行)	2	講義	☆	☆	2												
		mb	(中川義行)			☆	☆													
数学演習Ⅰ	Exercises in Mathematics I	ma	(大川 領)	2	講義・演習	☆	☆	2										同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。pd、dcと同時開講		
		mb	(高尾尚武)			☆	☆													
		mc	武石拓也			☆	☆													
		md	(清水翔之)			☆	☆		2											
数学演習Ⅱ	Exercises in Mathematics II	ma	(渡辺聡美)	2	講義・演習	☆	☆	2									daと同時開講			
		mb	(高尾尚武)			☆	☆													
		mc	(大倉弘之)			☆	☆													
解析学Ⅰ	Calculus I	ma	奥山裕介	2	講義	☆	☆			2								※		
解析学Ⅱ	Calculus II	ma	(柴山允瑠)	2	講義	☆	☆				2					pbと同時開講		※		
統計数理	Mathematical Statistics	ma	武石拓也	2	講義	☆	☆			2						pa、daと同時開講				
応用解析	Applied Analysis	ma	奥山裕介	2	講義	☆	☆			2						pdと同時開講				
応用数理	Mathematics for Application	ma	磯崎泰樹	2	講義	☆	☆					2								
データサイエンスの数理	Mathematics for Data Science	ma	磯崎泰樹	2	講義	○	○							2			下履修は、3回生のみを対象とし、履修希望者は担当教員の承認を得ること。院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※	

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数				備 考	下 履 修	合 格 再 履	
						一 般	地 域	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次				
								前 後	前 後	前 後	前 後				
物理学															
物理学 I	Physics I	ma	辰巳創一	2	講義	☆	☆	2							※
		mb	八尾晴彦			☆	☆								
		mc	橋本雅人			☆	☆								
物理学 II	Physics II	ma	山雄健史	2	講義	☆	☆	2							※
		mb	山雄健史			☆	☆								
物理学基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	ma	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・藤原進・鶴谷直樹・(厳樫昌弘)	2	実験	●	☆		6					応生aと同時開講	
		mb	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・藤原進・鶴谷直樹・(厳樫昌弘)			●	☆		6			応生bと同時開講			
化 学															
化学 I	Fundamental Chemistry I	ma	高廣克己・金折賢二	2	講義	●	●	2						同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。	※
		mb	高廣克己・金折賢二			●	●	2							
化学 II	Fundamental Chemistry II		金折賢二・若杉 隆	2	講義	●	●	2							※
物理化学 I A	Physical Chemistry I A		若杉隆・町田真二郎・木梨憲司	1	講義	●	●		2					第1クォーター	※1 ※
物理化学 I B	Physical Chemistry I B		若杉隆・町田真二郎・木梨憲司	1	講義	●	●		2					第2クォーター	※1 ※
物理化学 II A	Physical Chemistry II A		金折賢二・高廣克己	1	講義	●	☆		2					第1クォーター	※1 ※
物理化学 II B	Physical Chemistry II B		金折賢二・高廣克己	1	講義	●	☆		2					第2クォーター	※1 ※
物理化学 III	Physical Chemistry III	ma	中西英行・則末智久	2	講義	☆	☆			2					※1 ※
		mb	若杉隆・野々口斐之			☆	☆								
物理化学演習	Exercises in Physical Chemistry	ma	則末智久・中西英行・町田真二郎・若杉隆・野々口斐之・金折賢二	2	講義・演習	●	☆			2					※
mb	則末智久・中西英行・町田真二郎・若杉隆・野々口斐之・金折賢二	●	☆												
有機化学 I	Organic Chemistry I	ma	清水正毅・今野 勉	2	講義	●	●	2							※
		mb	山田重之・浅岡定幸			●	●								
有機化学 II	Organic Chemistry II	ma	今野勉・森末光彦	2	講義	●	☆		2						※1 ※
		mb	大村智通・柳川隆博			●	☆								
有機化学演習	Exercise in Organic Chemistry	化a	池上 亨・井本裕顕・松尾和哉	2	講義・演習	●	●		2						
		化b	森末光彦・鳥越 尊・安井基博			●	●								
化学工学 I	Chemical Engineering I		熊田陽一・堀内淳一	2	講義	○	○		2						※ ※
無機化学 I	Inorganic Chemistry	ma	朱 文亮・菅原 徹	2	講義	●	☆		2					応生と同時開講	※1 ※
高分子化学	Polymer Chemistry	ma	坂井 互・本柳 仁	2	講義	☆	☆			2					※
		mb	箕田雅彦・足立 馨			☆	☆								
分析化学	Analytical Chemistry		吉田裕美	2	講義	☆	☆	2							※
化学基礎実験	Laboratory Work in Basic Chemistry	ma	応用化学課程関係教員	2	実験	●	●		6						
		mb	応用化学課程関係教員			●	●		6						
環境化学	Environmental Chemistry	ma	布施泰朗・初 雪	2	講義	☆	☆				2				※ ※
生物学															
生物学 I	Biology I	ma	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2							※
生物学 II	Biology II	ma	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2							※
資源生物と環境	Bioresorce and Environment	ma	秋野順治・長岡純治・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	☆	☆	2						応生と同時開講	※
生物学基礎実験 A	Laboratory Work in Fundamental Biology A		応用生物学課程関係教員	2	実験	*	*				6			卒業要件外科目(教職用)	

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次							
								前	後	前	後				前	後		
情報																		
情報データリテラシー演習	Seminar in Information Processing	ma	和久友則・三宅祐輔	2	講義・演習	●	●	2										
		mb	坂井 亙・西川幸宏			●	●											
		mc	足立 馨・細川三郎			●	●											
学術国際情報	World Science Information	ma	木梨憲司	2	講義・演習	●	●				2							
		mb	朱 文亮			●	●											
		mc	MARIN Elia			●	●											
AI・データサイエンスⅠ	AI & Data Science Ⅰ		山本高至・馬 強	1	講義	○	○	2						第3クォーター集中授業				
AI・データサイエンスⅡ	AI & Data Science Ⅱ		山本高至・馬 強	1	講義	○	○	2							第4クォーター定員70名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。)			
その他																		
地学	Earth Science Ⅰ	応生	(紺谷吉弘)	2	講義	*	*	2							卒業要件外科目(教職用)		※	
地球惑星科学入門	Introductory Earth and Planetary Science	応生	(中西一郎)	2	講義	*	*		2						卒業要件外科目(教職用)	※	※	
地学実験	Laboratory Work in Earth Science	応生	(風間卓仁)	1	講義・実験	*	*		2						卒業要件外科目(教職用)集中授業定員20名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。上回生の受講を優先する。)地学及び地球惑星科学入門を履修していることが望ましい			
インターンシップA	Internship A	ma	課程長	1	実習	☆	☆				3				30~45時間を目安とする。		※	
インターンシップB	Internship B	ma	課程長	2	実習	☆	☆				6				60~90時間を目安とする。		※	
繊維科学																		
サステナブルマテリアル	Sustainable Materials	ma	青木隆史・田中知成	2	講義	○	○				2						※	※
繊維科学基礎	Basics of Fiber Science	ma	綿岡 勲	2	講義	○	○				2						※	※
生物繊維材料学	Biofiber Materials	ma	麻生祐司・綿岡 勲・岡久陽子	2	講義	○	○				2						※	※
染色科学	Dyeing Science	ma	安永秀計	2	講義	○	○				2						※	※
地域創生 Tech Program																		
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	ma	桑原教彰(辻 愛里)	2	講義	×	○					4			第4クォーター集中授業			
地域感性デザイン論	Community-Based Kansei Design	ma	崔 童殷	2	講義	×	○					4			第4クォーター集中授業			
地域プロジェクトマネジメント	Community Project Management	ma	崔 童殷	2	講義	×	○					4			第4クォーター集中授業			
複合材料科学	Composite Materials Science	ma	大谷章夫	2	講義	×	○					4			第4クォーター集中授業			
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	ma	大谷章夫	2	講義	×	○					4			第4クォーター集中授業			

※1 地域創生Tech Programの学生のみ下履修可

課程専門科目

応用化学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
コース共通																		
応用化学序論ⅠA	Introduction of Applied Chemistry I A		応用化学課程関係教員	1	講義	●	●		2						第3クォーター			
応用化学序論ⅠB	Introduction of Applied Chemistry I B		応用化学課程関係教員	1	講義	●	●		2						第4クォーター			
応用化学序論ⅡA	Introduction of Applied Chemistry II A		応用化学課程関係教員	1	講義	●	●			2					第1クォーター			
応用化学序論ⅡB	Introduction of Applied Chemistry II B		応用化学課程関係教員	1	講義	●	●			2					第2クォーター			
コースゼミ	Introductory Seminar, Advanced	化A	応用化学課程関係教員	2	講義・演習	●	○					2			※2			
		化B				●	○				2							
		化C				●	○				2							
		化D				●	○				2							
応用化学実験Ⅰ	Laboratory Work in Applied Chemistry I		応用化学課程関係教員	2	実験	●	●				6							
応用化学実験Ⅱ	Laboratory Work in Applied Chemistry II	化A	応用化学課程関係教員	2	実験	●	○					6			※1			
		化B				●	○				6							
		化C				●	○				6							
		化D				●	○				6							
卒業研究																		
卒業研究	Thesis Research	化A	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10				
卒業研究	Thesis Research	化B	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10				
卒業研究	Thesis Research	化C	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10				
卒業研究	Thesis Research	化D	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10				
A群（高分子材料デザインコース）																		
高分子物性	Introduction to Polymer Physics		西川幸宏	2	講義	●	☆				2				※3		※2	
高分子材料化学	Polymer Materials Chemistry		坂井 亙	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
高分子分子物性	Molecular Characterization of Polymers		則末智久	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
高分子レオロジー	Rheology		加藤和明	2	講義	☆	☆				2				2026年度は開講しない		※ ※	
高分子合成化学	Polymer Synthetic Chemistry		神林直哉	2	講義	☆	☆				2				2026年度は開講しない		※ ※	
環境と高分子	Human Environment and Polymers		橋本雅人	2	講義	☆	○				2						※ ※	
有機材料設計	Molecular Design for Organic Materials		浅岡定幸・某	2	講義	☆	○				2				2026年度は開講しない		※ ※	
高分子構造学	Structures in Solid State Polymers		橋本雅人・櫻井伸一・丸林弘典	2	講義	☆	○				4				第3クォーター		※ ※	
振動・波動	Oscillation and Wave Motion		藤原 進	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
統計物理学	Statistical Mechanics		八尾晴彦	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
シミュレーション物理学	Simulational Physics		藤原 進	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
ナノ材料物理化学	Physical Chemistry for Nano-materials		中西英行・山雄健史	2	講義	☆	○				2						※ ※	
B群（材料化学デザインコース）																		
無機化学Ⅱ	Inorganic Chemistry II		細川三郎	2	講義	●	☆				2				※3		※2 ※	
無機化学演習	Exercise in Inorganic Chemistry		朱 文亮・菅原 徹・細川三郎	2	講義・演習	☆	☆				2				無機化学Ⅰの既修得を要す、かつ、無機化学Ⅱの既修得又は同時履修を要す。			
材料機器分析概論A	Instrumental Analysis for Inorganic Materials A		岡田有史・若杉 隆・朱文亮	1	講義	☆	☆				2				第1クォーター		※ ※	
材料機器分析概論B	Instrumental Analysis for Inorganic Materials B		朱 文亮・MARIN Elia・菅原 徹	1	講義	☆	☆				2				第2クォーター		※ ※	
無機材料科学Ⅰ	Inorganic Materials Science I		菅原 徹・朱 文亮	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
無機材料科学Ⅱ	Inorganic Materials Science II		MARIN Elia・(塩野剛司)	2	講義	☆	○				2						※ ※	
固体物性論	Materials Science		湯村尚史	2	講義	☆	☆				2						※ ※	
分子量子化学	Molecular Quantum Chemistry		湯村尚史・本柳 仁	2	講義	☆	○				2						※ ※	
固体熱力学	Solid State Thermodynamics		若杉 隆	2	講義	☆	○				2						※ ※	
金属材料学	Metallic Materials		(奥 健夫)	2	講義	☆	○				2				集中授業		※ ※	

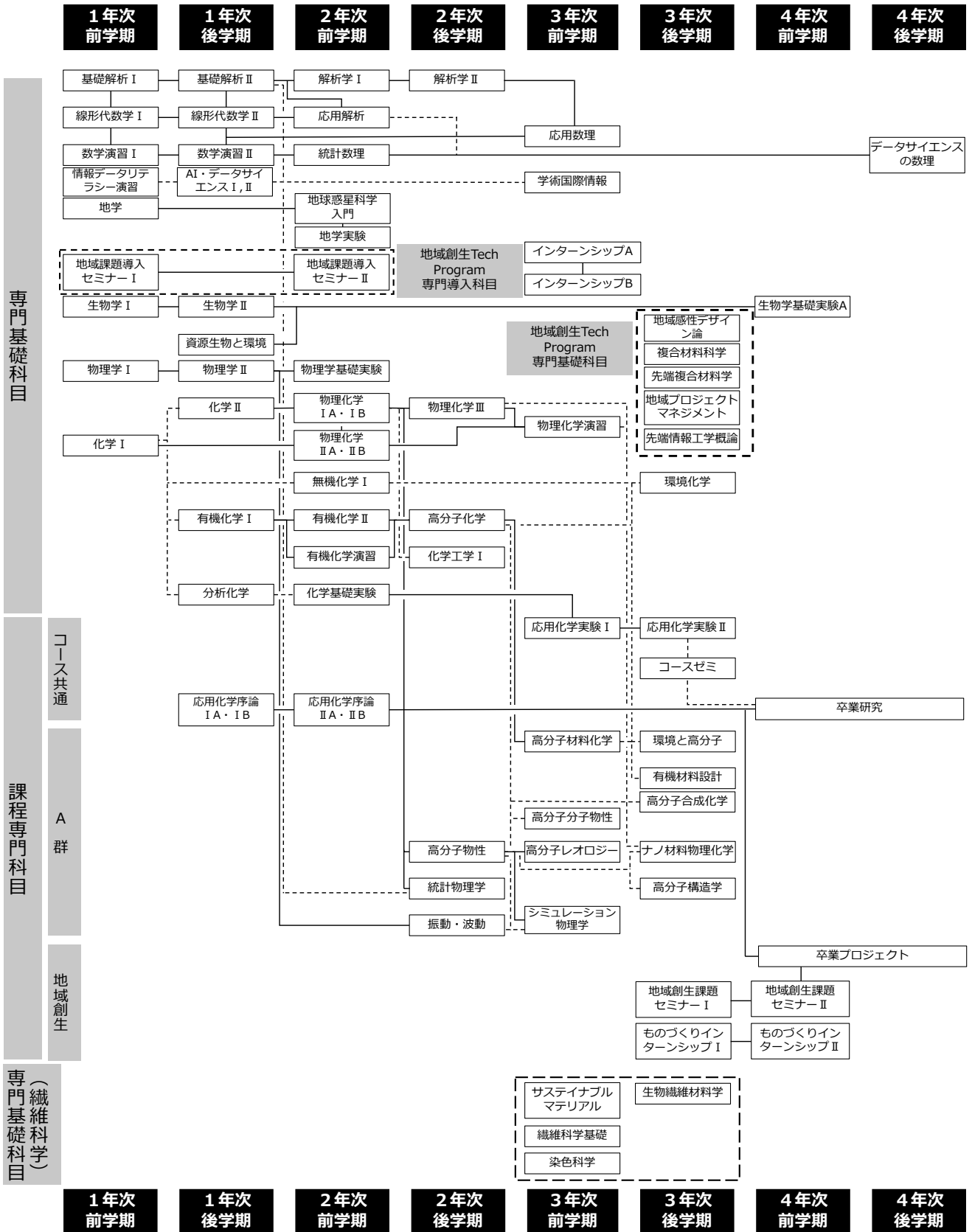
授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
C群（分子化学デザインコース）																		
無機化学Ⅱ	Inorganic Chemistry II		細川三郎	2	講義	☆	☆				2					※2	※	
無機化学演習	Exercise in Inorganic Chemistry		朱文亮・菅原 徹・細川三郎	2	講義・演習	☆	☆				2						無機化学Ⅰの既修得を要す、かつ、無機化学Ⅱの既修得又は同時履修を要す。	
生化学Ⅰ	Biochemistry I		黒田浩一・竹内道樹	2	講義	☆	☆				2					※2	※	
有機化学Ⅲ	Organic Chemistry III		中 建介・井本裕顕	2	講義	●	☆				2					※3	※	
高分子材料化学	Polymer Materials Chemistry		坂井 亙	2	講義	☆	☆				2						※	
有機機器分析	Spectrometric Identification of Organic Compounds		山田重之・楠川隆博	2	講義	☆	☆				2						※	
有機化学Ⅳ	Organic Chemistry IV		櫻井庸明・安井基博	2	講義	☆	○				2						※2	
有機反応化学	Organic Reactions		池上 亨・岩本貴寛	2	講義	☆	○					2					※	
精密合成化学	Fine Synthetic Chemistry		清水正毅・今野 勉	2	講義	☆	○					4				第3クォーター	※2	
精密材料化学	Precision Materials Chemistry		箕田雅彦・中 建介	2	講義	☆	○					2					※	
有機金属化学	Organometallic Chemistry		大村智通・鳥越 尊	2	講義	☆	○					2					※	
D群（機能物質デザインコース）																		
生化学Ⅰ	Biochemistry I		黒田浩一・竹内道樹	2	講義	●	☆				2					※3	※2	
生化学Ⅱ	Biochemistry II		北所健悟	2	講義	☆	☆				2						※	
生化学Ⅲ	Biochemistry III		小堀哲生	2	講義	☆	○				2						※	
有機化学Ⅲ	Organic Chemistry III		中 建介・井本裕顕	2	講義	☆	○				2						※	
応用分析化学	Practical Analytical Chemistry		吉田裕美	2	講義	☆	☆				2						※	
機能分子化学Ⅰ	Functional Molecular Chemistry I		小堀哲生・和久友則	2	講義	☆	☆				2						※	
機能分子化学Ⅱ	Functional Molecular Chemistry II		三宅祐輔・外間進悟・吉田裕美	2	講義	☆	○					4				第3クォーター	※	
生体分子工学	Biomolecular Engineering of Proteins		黒田浩一・北所健悟	2	講義	☆	☆				2						※	
化学工学Ⅱ	Chemical Engineering II		熊田陽一・堀内淳一	2	講義	☆	☆				2						※	
生物化学工学	Biochemical Engineering		熊田陽一・堀内淳一	2	講義	☆	○					2					※	
地域創生Tech Program（京都府北部開講科目）																		
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	応化	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 董殷・来田宣幸	2	演習	×	●					8					集中授業	
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	応化	大谷章夫・桑原教彰・崔 董殷	2	演習	×	○						8				第1クォーター	
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	応化	大谷章夫・桑原教彰・来田宣幸・(塩川信明)	4	実習	×	●					20					集中授業	
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	応化	大谷章夫・桑原教彰・SIRIARAYA PANOTE	1	実習	×	○						5				第2クォーター	
卒業プロジェクト	Thesis Project	応化	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●						10	10				

※1 地域創生Tech Programの学生は、京都府北部開講科目履修のために必要な単位数を満たしていない者のみ履修可

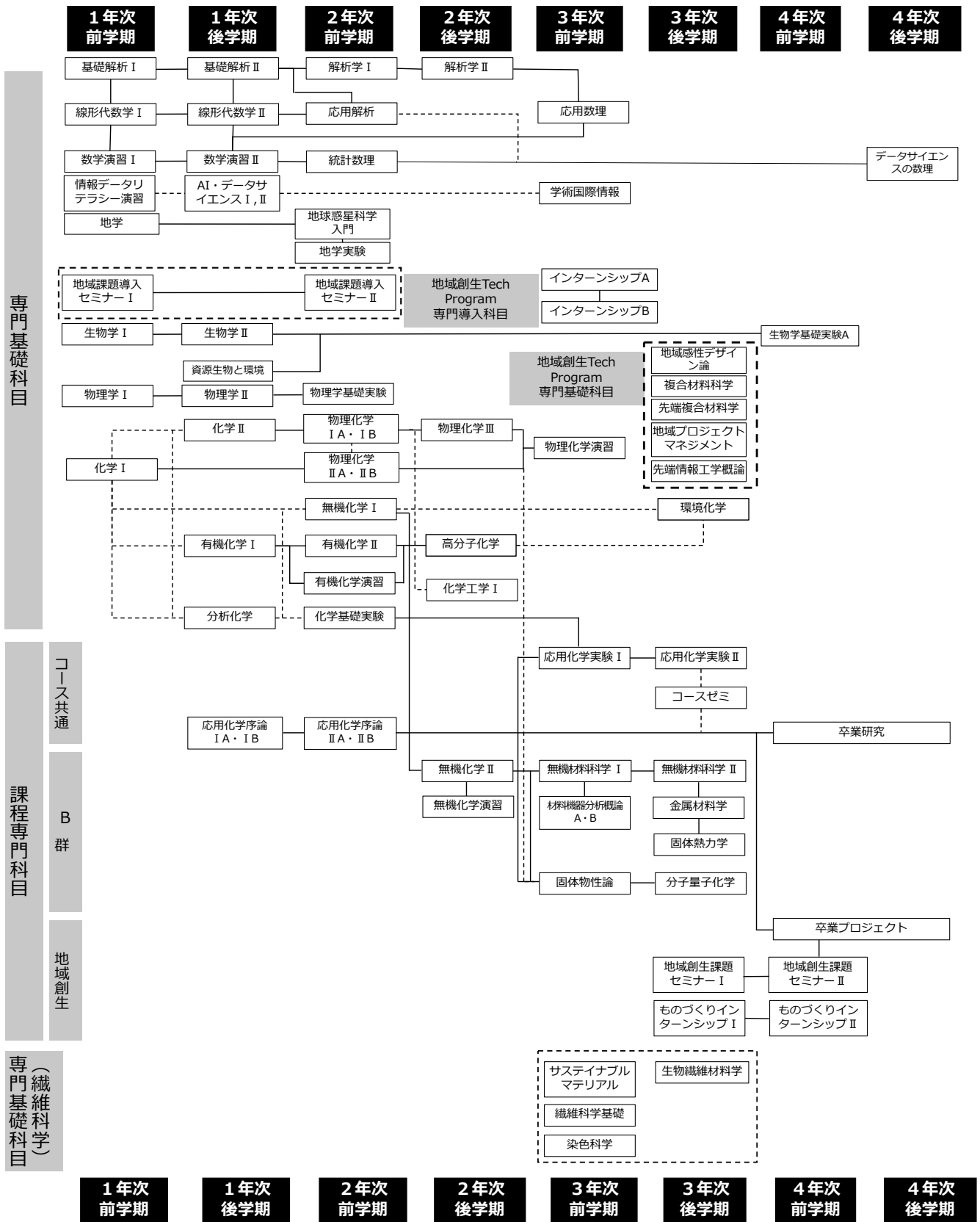
※2 地域創生Tech Programの学生のみ履修可

※3 当該コースを選択した一般の学生は必修。なお、他コースの一般の学生については選択必修として取り扱う。

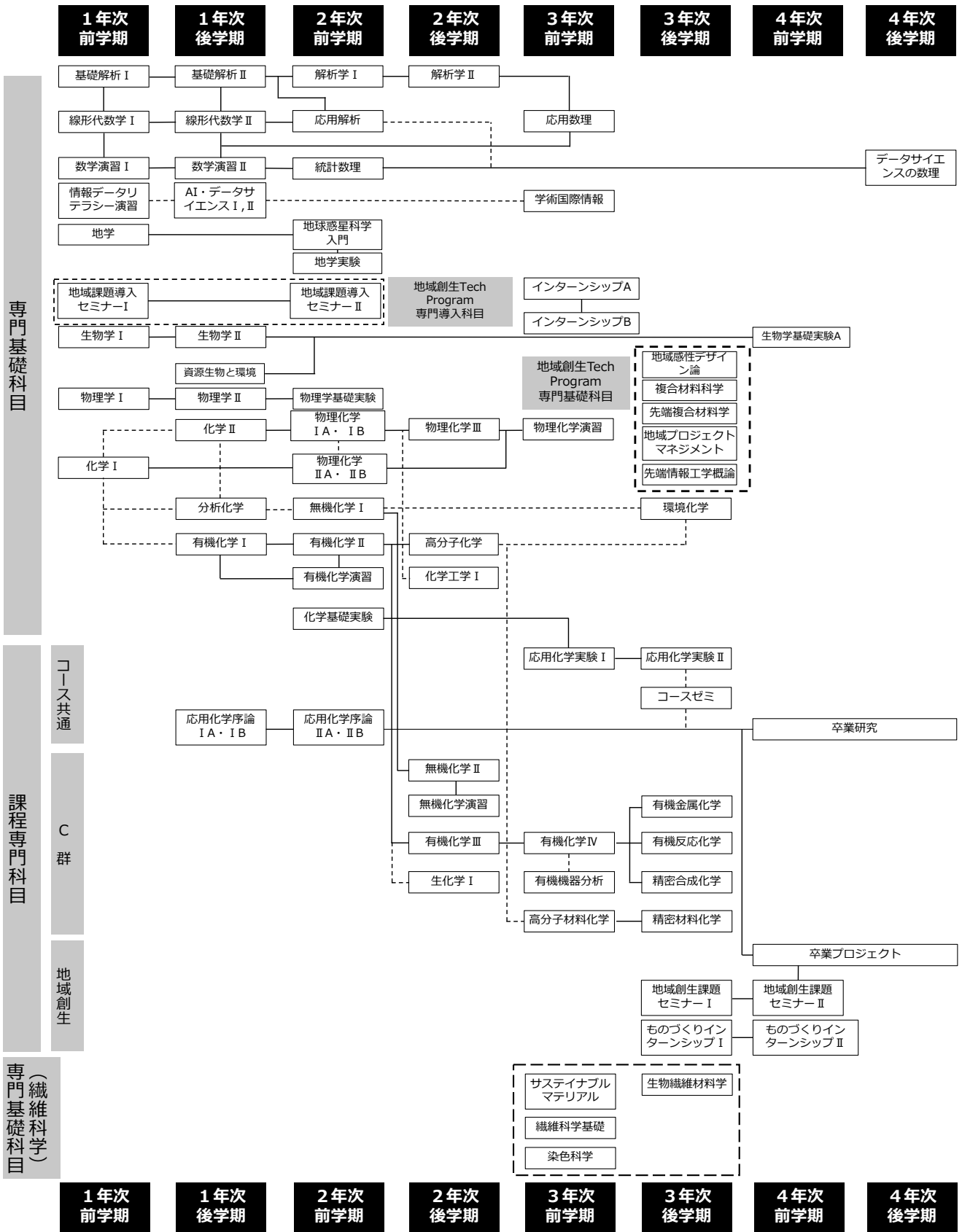
応用化学課程（高分子材料デザインコース）カリキュラムツリー



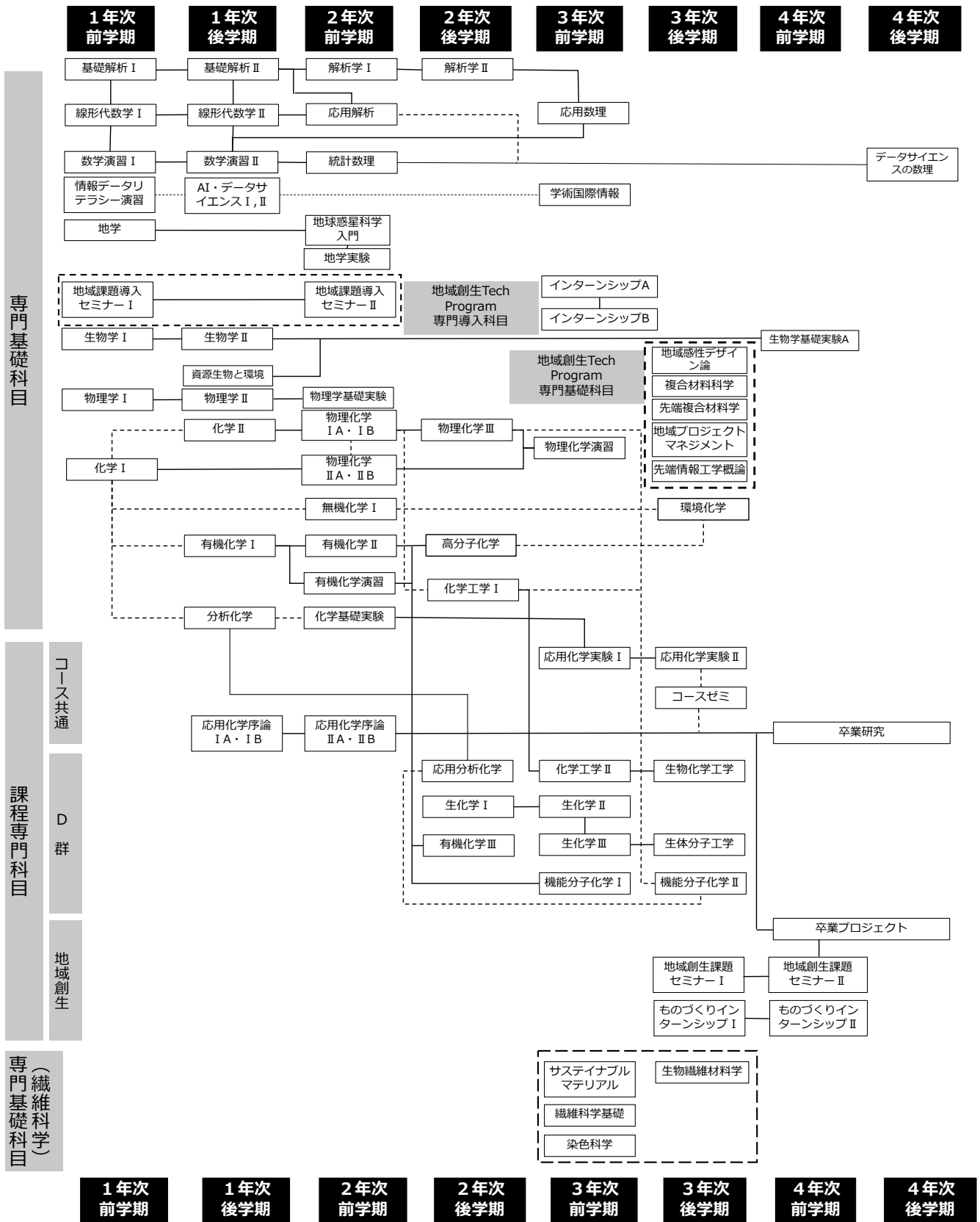
応用化学課程（材料化学デザインコース）カリキュラムツリー



応用化学課程（分子化学デザインコース）カリキュラムツリー



応用化学課程（機能物質デザインコース）カリキュラムツリー



履修規則別表第7

卒業認定に必要な単位数 ■物質・材料科学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考			
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門 導入 科目 必修	専門基礎科目			課程専門科目			専門 教育 科目 合計	総合 合計	
							必修	選択	合計	必修	選択				合計
応用化学課程	一般 プログラム	6	10	2	32	26	10	36	12	12(自コース科目) 6(他コース科目)	8	92	134*	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を定めることができる。	
	地域創生 Tech Program	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	16	20	36	12	6(自コース科目) 4(他コース科目)	8	92	134*		

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。

注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。

注3. 大学院授業科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第 1 1

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数 ■物質・材料科学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考	
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目		課程専門科目			専門 教育 科目 合計		総合計
						専門 導入 科目	選択 必修	選択 必修	必修	選択 必修			
応用化学課程	一般 プログラム	3年次までに配当されている以下の必修科目の全単位 英語必修6科目、物理学基礎実験、化学基礎実験、情報テータリテラシー演習、学術国際情報、コースゼミ 応用化学実験Ⅰ、応用化学実験Ⅱ（注3）											112 *
	地域創生 Tech Program	3年次までに配当されている以下の必修科目の全単位 英語必修6科目、地域課題導入セミナーⅠ、化学基礎実験、情報テータリテラシー演習、学術国際情報、 応用化学実験Ⅰ、地域創生課題ゼミナーⅠ、ものづくりインターンシップⅠ（注3）											119 *

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。

注2. 教職関係科目及び学芸科目は、総合計には含まれない。

注3. 科目及びその名称は、入学時のもの。次年度以降、変更する場合は、掲示等に留意すること。

設計工学域

1. 学域の紹介

現在、エネルギー問題、地球温暖化、超高齢化社会、災害に強い社会の構築など多くの課題が顕在化しています。設計工学域は、新価値の創造を通じて各種課題を解決し、社会へ貢献する人材の育成を目指して教育研究活動を推進しています。本学域は、電子システム工学、情報工学および機械工学の3つの分野から構成されています。各分野では、体系化された教育プログラムに基づき、学部1～3年（専門基礎形成段階）、学部4年／大学院修士課程（専門実践修練段階）および博士課程（専門自立実践段階）の各3年を区切りとして、より高次の専門知識を習得して行きます。学部教育では、電子システム工学課程、情報工学課程および機械工学課程のいずれかに所属し、それぞれの分野で核となる専門知識を学ぶと共に、実験や演習さらには卒業研究を通じて専門的基盤を固めます。

2. 教育研究上の目的（育成する人材像）

本学域の目的は、歴史都市「京都」が育んだ知と技の下で、未来へ向けて工学的な新価値を創造する高度専門技術者や研究者を育成することにあります。工学とは、数学や物理学等の基礎理論あるいは自然原理に基づき、社会に役立つ事物を具現化し、さらには安全で快適な環境を構築するための応用的学問です。しかし、すでに英知を結集して工学的発展を遂げた今日において、新価値を継続的に生み出すことは容易ではありません。これを実現するためには、①数学や物理学を基礎とする専門知識（電子システム工学、情報工学および機械工学）の習得だけでなく、②自身の分野を超えて異なる視点から種々の着想を統合させる力の育成が必要です。同時に、③豊かな想像力から発して新しい製品やシステムを自ら思い描き、それを具現化する行動力が求められます。さらには、④自身の国籍に拘ることなく、多様性の受容と柔軟なコミュニケーションを通じた世界変化の洞察力が必要となります。本学域では、上記①～④の素養を身に着けた人材を体系化された教育プログラムを通じて育成します。以下に、本学域の3課程それぞれで育成する具体的な人材像を示します。

- ▶ 電子システム工学課程：電子システム工学分野に関する幅広い知識と技術に基づいた高度な専門性を身につけ、社会を支える基幹産業で活躍するとともに、電子システム工学分野にブレイクスルーをもたらす課題探求能力と課題解決能力に優れており、かつ、論理的な思考力とコミュニケーション能力を備えた人材を育成します。
- ▶ 情報工学課程：製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支えるICT分野でリーダーシップを取って活躍する人材、および、ICTを活用した先進的なシステムの開発やサービスの創出・提供によって持続可能かつ豊かな情報社会の構築に貢献する人材を育成します。
- ▶ 機械工学課程：機械工学の基礎的学問である材料力学、流体力学、熱力学、機械力学の知識と技術に立脚し、社会基盤を支えると共により良い生活を実現する先進的機能を有する機械の創出を担うことができる高度専門技術者や研究者を育成します。

電子システム工学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、本課程では、次のような能力の修得を目標とします。

- A. 自然科学や工学と社会との関わりを理解し技術者としての社会的役割を認識できる
- B. 専門分野に関する幅広い基礎学力を身につけている
- C. 専門知識を応用する基礎技術と経験を身につけている
- D. 課題解決のための論理的思考力およびコミュニケーション能力を身につけている

これらは、授業科目区分ごとに設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第 4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学部および課程のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本課程では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。

- A. 自然科学や工学と社会との関わりを理解し技術者としての社会的役割を認識できる
教養を深めて地球的視点で考え行動する力を培い、専門分野にとらわれず幅広い学問分野の知識を養うとともに、グローバル化時代に必要不可欠な語学力を身につけるためのプログラムが全学共通科目として用意されています。【個の確立、外国語運用能力】
- B. 専門分野に関する幅広い基礎学力を身につける
電磁気学、電気回路、物理学などの基礎科目を修得した上で、電子システム工学分野の専門的な基礎学力を身につけるために、デバイス、エレクトロニクス、通信、エネルギー、制御、プログラミングの幅広い分野において、基礎から応用までを系統的に修得できるプログラムを提供します。【専門力】
- C. 専門知識を応用する基礎技術と経験を身につける
講義、演習および学生実験を関連させ、理論と実践の両面から理解を深めることができる相補的教育を実施します。【専門力】
- D. 課題解決のための論理的思考力およびコミュニケーション能力を身につけている
表現力や論理的説明能力を磨くため、セミナーや学生実験の場でプレゼンテーションの機会を設けています。また卒業研究においては、教員の指導を受けて研究テーマ設定など自ら課題探求能力を培い、履修した専門知識を駆使して課題解決に適用させる能力を修得させます。
【リーダーシップ】

3. 教育プログラムの実施方針

数学や物理学の専門基礎科目は、必修および選択必修科目として、1年次と2年次に配当されています。また、電気回路、電磁気学、数理計算、プログラミングなどの基礎となる課程専門科目は必修となっています。これらの必修科目は、1年次と2年次に配当されています。実験科目の物理学実験法及び基礎実験（2年次配当）、電子システム工学実験（2年次後学期から3年次に配当）は必修科

目です。これらは卒業研究（4年次の必修科目）を進めるための基礎となるものです。

また、電子システム工学セミナーⅠを必修科目として入学直後の1年次前学期に、さらに、電子システム工学セミナーⅡを選択科目として3年次に配し、思考力、表現力、発表力を身につけ、少人数で教員と直接討論すると同時に、最先端の研究にふれる機会を設けています。

4年次から卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。卒業研究では、学生自身が主体性をもつよう指導しています。なお、研究室配属においては、成績に加えて修得単位数も考慮しているので、GPAを上げるために受講科目を絞るといったことのないように留意してください。

履修計画の参考のために、「専門科目のカリキュラムツリー」を課程専門科目のカリキュラム表の後に示します。また、専門科目間の関係図を課程のホームページに掲載しています。

情報工学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本課程では、「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、学部のディプロマ・ポリシーに加えて、次のような能力を修得していることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

- A. エンジニアリングデザイン能力：限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、リーダーシップを持って他者と協働し未来志向の新しいシステムを創出できる。
- B. 専門知識と応用力：コンピュータ科学(CS)およびコンピュータ工学(CE)分野の専門知識をもち、それに基づいて持続可能な超スマート社会を実現するハードやソフトを創造し、分析、構築することができる。
- C. コミュニケーション能力：自らの確固たる文化的背景と専門知識を基盤として、国内外の異なる文化や習慣を持つ人々との共同作業ができる。
- D. 学習習慣と情報収集・分析力：技術の爆発的進歩、変化への対応のため、さらにそれらによる将来の社会変化に適応できるように、継続的な学習習慣を持ち、ICT (Information and Communication Technology) を活用した効率的な情報収集や情報分析を自律的に行うことができる。
- E. 技術者教養・倫理：日本および諸外国の文化理解や環境問題に対する深い洞察に基づいて、技術者の社会的責任を認識し、倫理的に行動できる。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学部および課程のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得し課程の教育目標を達成するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。

- (1) ICT に関する知識と技能を修得するために、ICT を扱うための基礎を学ぶコンピュータ科学（CS）と、基礎を応用して新しいシステムの創出を目指すコンピュータ工学（CE）の両方をカバーしています。【専門力】
- (2) 理論と実践的技法を修得できるように、講義と実験・演習を密接に連携させています。【専門力】
- (3) コミュニケーション能力を向上させるための方策の一つとして、実験・演習科目等でグループ活動を取り入れています。【リーダーシップ、個の確立】
- (4) 講義と実験・演習科目は、卒業研究を除いて、3年次までに配当されています。4年次に大学院科目を履修し、大学院進学後の時間を研究、インターンシップ、あるいは海外留学などに利用し、知識・技能の深化あるいはコミュニケーション力などの技術者素養の向上を行うことを想定しています。【専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立】

3. 教育プログラムの実施方針

1年次には、必修の専門導入科目として、専門分野の教員と少人数で直接討論できる場である「情報工学セミナー」を入学直後の前期に配当しています。また、情報系基礎科目（「情報工学概論」、「情報・データリテラシー概論」、「プログラミングⅠ」、「ソフトウェア演習Ⅰ」）が必修科目として、さ

らに専門への基礎科目としての数学（「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」）が選択必修科目として配当されています。数学については、最初は情報工学の専門分野の勉強とのつながりが把握しにくいですが、3、4年次に専門の本格的な勉強が始まると、その必要性が痛感されます。

2年次では「プログラミングⅡ」、「ソフトウェア演習Ⅱ」、「情報システムプログラミング」、3年次では「ネットワークプログラミング」、「言語処理プログラミング」が必修科目として配当されます。また、2、3年次には、多くの専門科目が選択必修科目として配当され、さらに実験科目（「プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「物理学実験法及び基礎実験」）は必修科目として配当されます。これらは卒業研究（4年次の必修科目）を進めるための基礎となるものです。特に、「プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」では、ディプロマ・ポリシーに掲げる本課程卒業生が身につけるべき能力を獲得するために、チームによる対話型、発表型、探求型実習を段階的かつ系統的に行います。

なお、地域創生 Tech Program では、地域の課題を把握し、それに情報工学の専門知識をいかに活かしていくかを実践的に学ぶために、3年次後学期から4年次にかけて「地域創生課題セミナー」や「ものづくりインターンシップ」といった科目が必修科目として配当されます。

課程専門科目ではありませんが、1年次には多くの英語科目が必修科目として配当されています。また、本学の大学院博士前期課程（修士課程）進学には TOEIC の受験が必要ですが、TOEIC 等の問題形式を利用する科目も2年次向けに開設されています。これらは、4年次の卒業研究や大学院に進学してからの研究、また、就職後に研究開発業務を進めるにあたって必須となる英語能力（読み／書き／聞き／話す能力）の土台を形成するものです。

4年次の4月初めに、学生に事前にガイダンスを行い、3年次後学期までの成績等に基づき本学大学院情報工学専攻へ進学するための推薦入試推薦資格の有無を判定します。この判定結果と本人からの希望に基づいて、本学大学院情報工学専攻の3×3特別推薦入試に対する課程からの推薦者を決定します。本学大学院進学希望者に対しては、学部4年次を実質上の「MO（エムゼロ）」として修士課程と合わせて3年間一貫した教育プログラムを提供します。

4年次から卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。卒業研究は、大学における学習・研究の最終的総合的集約の意義があり、学生が主体的力量を発揮する重要な場です。また、卒業研究により、単に与えられた問題を解決するだけでなく、問題点を自ら発見し、課題を設定する力を身につけることができます。本課程では、基本的に情報工学課程を担当する教員の指導のもとに、学生が自ら選んだ研究テーマに基づいて研究を行います。卒業研究の配属は、4年次の4月初旬に決定され、卒業研究報告書の提出とその審査は後学期の2月下旬に行われます。

卒業研究を満身に遂行できるかどうかは、3年次までに修得した授業科目に依存しますから、履修科目の選択は慎重に考える必要があります。授業科目の履修にあたっては、学ぶ主体が学生自身であることを十二分に自覚する必要があります。

履修計画の参考のために、「専門科目のカリキュラムツリー」を課程専門科目のカリキュラム表の後に示します。なお、課程のプログラムに加えて、Basic SecCap コンソーシアムが提供しているプログラムを受講することで、サイバーセキュリティ分野の実践的能力を身につけることができます。詳しくは、「Basic SecCap コースについて」を参照してください。

Basic SecCap コースについて

Basic SecCap コースは、実践的なセキュリティ人材の育成を目的とする産学協同の教育プログラムで、14の大学（以下、「連携校」という。）と企業が連携して講義及び演習を「基礎推奨科目」「専門科目」「演習科目」「先進演習科目」として開講しています。本学は参加校として参画しており、連携校が提供する様々な科目を受講することで、実践的人材育成の教育を受けることが可能です。詳細は、Basic SecCap のHP (<https://www.seccap.jp/basic/seccap.html>) をご確認ください。

●修了要件等

本学で提供される以下の「基礎推奨科目」のうち、4単位以上取得した学生が、連携校で提供される「専門科目」「演習科目」「先進演習科目」を受講することができます。連携校で提供される「専門科目」「演習科目」「先進演習科目」の開講日時等の詳細については、Basic SecCap のHP (https://www.seccap.jp/basic/seccap_curriculum.html) をご確認ください。所定の科目を受講し、要件を満たした学生に、Basic SecCap コンソーシアムから修了認定証（取得単位数に応じて3種類）が発行されます。連携校で提供される科目を受講希望の方は、学務課へ申し出てください。ただし、連携校で取得した単位は、本学の卒業要件単位として認定されません。成績証明書等にも掲載されません。

（基礎推奨科目）

- ・ソフトウェア工学（2年前期）
- ・情報理論（2年前期）
- ・情報セキュリティ（2年後期）
- ・情報ネットワーク（3年前期）

※情報工学課程以外の学生が本コースを取得することも可能です。

（イメージ図）



機械工学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本課程では、工学的新価値を創造する高度専門技術者や研究者の育成を目的として、次のディプロマ・ポリシーを定めており、全ての事項を求められる水準で習得したと認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

- A. 豊かな教養と地球的視点の習得と社会的責任の認識
- B. 幅広い基礎学力と専門知識の習得
- C. 国際的に通用する表現力と論理性の習得
- D. 自律的判断と問題解決の能力の習得

学位授与の可否は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たしているかどうかと、卒業研究の成果によって判定されます。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに定められた4つの事項の達成に導くため、各事項に対して以下の学習・教育到達目標を定めており、これに基づいて専門基礎形成段階の教育プログラムが編成されています。

【学習・教育到達目標】

- A. 豊かな教養と地球的視点を備え、技術者の社会的責任を認識できる。
 - (1) スポーツや芸術に慣れ親しみ、人間性豊かな思考のできる教養を備える。【個の確立】
 - (2) 地球的視点で物事を考える素養と能力を有する。【専門力、個の確立】
 - (3) 科学技術の発展とそれが自然環境、生命、社会などに及ぼす効果や影響を理解できる。【専門力、個の確立】
- B. 幅広い基礎学力と専門知識を備える。【専門力】
 - (1) 数学・物理・情報技術などの基礎学力を有する。
 - (2) 伝統的機械工学の専門知識を修得している。
 - (3) 幅広い専門知識を応用して、時代や社会の変化と要求に対応した新たな機械システムを構築できる能力を有する。
- C. 国際的に通用する表現力と論理性を備える。
 - (1) 国際的な場でのコミュニケーション能力を有する。【外国語運用能力】
 - (2) 日本語によって論理的な記述、発表、討論ができる。【専門力】
- D. 自律的に判断し、問題を解決する能力を有する。
 - (1) 継続的に学習し、能力開発を自発的に行うことができる。【個の確立、専門力】
 - (2) 種々の条件の下で問題解決の可能性を追求し、計画的に目標を達成することができる。【専門力】
 - (3) チームを構成してリーダーシップを発揮できる。【リーダーシップ、専門力】

上記の各目標に対して達成度総合評価基準が定められています。この基準を達成するために、達成度評価対象が定められ、その達成度評価方法と評価基準が規定されています。

3. 教育プログラムの実施方針

エネルギー／材料・加工／知能機械システムをキーワードに、次の4つの系統に分かれた専門分野を中心に教育プログラムを構成しており、学生各自が自分の興味に沿った授業科目を選択し履修できるようになっています。

熱工学・流体工学系：エネルギー変換や熱・流動現象を主題とする教育を行います。授業科目は、「熱力学」、「熱エネルギー輸送現象」、「流体力学」などです。

材料強度学系：力に対する材料の物性と強度を主題とする教育を行います。授業科目は「工業材料学」、「材料強度学」、「材料力学」、「有限要素法」などです。

材料加工学系：各種材料の加工法の開発、加工機構の解明、機械設計法などを主題として教育を行います。授業科目は、「切削・研削加工学」、「塑性加工学」、「機械設計学」などです。

計測・制御工学系：計測・信号解析、システムの制御、機械振動の解析などを主題として教育を行います。授業科目は、「計測基礎学」、「システム制御理論」、「ロボティクス」、「機械力学」などです。

上記4系に共通して要求される基礎知識は、数学と物理学であり、特に最近は数学的、あるいは、数理物理的な考え方や手法が機械工学の教育・研究に取り入れられる傾向にあります。このような事情に対応するために、「基礎解析」、「線形代数学」、「解析学」、「統計数理」、「工業力学」、「物理学」、「物理学実験法及び基礎実験」など、幅広い科目が準備されています。また、課程専門科目の中で代表的な基礎科目である「熱力学」、「流体力学」、「材料力学」、「機械力学」は講義と演習を一体化し、学習の効率化を図るとともに、将来、どの機械専門分野に進む場合でも重要な授業科目として必修としています。さらに、機械関係の技術者として必要な資質を備えるため、「機械工学実験」、「機械加工法及び実習」、「機械製図法」、「創造設計製図演習」、「データサイエンス」、「卒業研究」などの必修科目を設けています。

3年次までは、機械工学全般にわたる素養を具備することを主目的とし、4年次では卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。学生は、卒業研究を実施することによって、さらに専門知識を積み重ね、また問題解決能力やデザイン能力を養うことになります。卒業研究では、学生自身が主体性をもつよう指導しています。この研究室配属は3年次の11月下旬に決定され、4年次の卒業研究までの間に研究に必要な基礎知識を各研究室で学びます。研究室配属については、基本的に学生の希望と成績に基づいて行われますが、詳細については3年次の後学期に開催される説明会で示されます。なお、本学大学院の3×3特別推薦入試に対する推薦者は、3年次後学期までの成績等により決定します。

専門教育科目
設計工学域

専門導入科目（設計工学域）

履修区分欄の●は必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分			週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						設計工学域			1年次	2年次	3年次	4年次					
						一般		地域									
						電子	情報	機械	電子	情報	機械	前				後	前
電子システム工学セミナーⅠ	Electronic Engineering Seminar I		電子システム工学課程関係教員・(角江 崇)	2	講義	●		●			2						電子システム工学課程の学生のみ履修可
電子システム工学セミナーⅡ	Electronic Engineering Seminar II		電子システム工学課程関係教員	2	講義	○		○					2				
情報工学セミナー	Information Science Seminar		情報工学課程関係教員	2	講義	●		●			2						
情報工学概論	Introductory Laboratory in Information Science		崔 恩静・西浦生成	2	講義・演習	●		●			2						
エンジニアのためのリテラシー	Literacy for Engineers	a b	機械工学課程関係教員	2	講義・演習		●		●		2						
地域課題導入セミナーⅠ	Introduction Seminar with Regional Challenges I	pa	大谷章夫・桑原教彰・崔董殷・来田宣幸	1	演習	×	×	×	●	●	●	2					集中授業
地域課題導入セミナーⅡ	Introduction Seminar with Regional Challenges II	pa	大谷章夫・桑原教彰・崔董殷	2	演習	×	×	×	○	○	○		4				集中授業

専門基礎科目（設計工学域）

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、無記入は他課程科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分						週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						設計工学域														
						一般			地域			1年次		2年次					3年次	
電子	情報	機械	電子	情報	機械	前	後	前	後	前	後	前	後							
基礎解析 I	Basic Calculus I	pa	(朝田 衛)	2	講義	●		●												
		pb	室谷岳寛			☆			☆			2								
		pc	(村井 実)					●			●									
		pd	(清水翔之)			●	☆	●	●	☆	●			2						同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生d、md、dcと同時開講
基礎解析 II	Basic Calculus II	pa	(佐々木建祐郎)	2	講義	☆		☆										dbと同時開講		
		pb	(朝田 衛)			☆			☆			2							dcと同時開講	
		pc	(村井 実)					☆		☆										
線形代数学 I	Linear Algebra I	pa	森 隆大	2	講義	●		●												
		pb	(神 貞介)			☆			☆			2								
		pc	(清水翔之)					●			●									
		pd	(清水翔之)					●			●									
		pe	(清水翔之)			●	☆	●	●	☆	●			2						同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生b、mc、dcと同時開講
線形代数学 II	Linear Algebra II	pa	(岩塚 明)	2	講義	☆		☆												
		pb	(難波隆弥)			☆			☆			2								
		pc	(清水翔之)					☆		☆										
		pd	(塚本千秋)					☆		☆										
数学演習 I	Exercises in Mathematics I	pa	(朝田 衛)	2	講義・演習	●		●												
		pb	室谷岳寛			☆			☆			2								
		pc	(村井 実)					○		○										
		pd	(清水翔之)			●	☆	○	●	☆	○			2					同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。md、dcと同時開講	
数学演習 II	Exercises in Mathematics II	pa	(佐々木建祐郎)	2	講義・演習	☆		☆										dbと同時開講		
		pb	(朝田 衛)			☆			☆			2							dcと同時開講	
		pc	(村井 実)					○		○										
解析学 I	Calculus I	pa	(柴山允瑠)	2	講義	☆		☆												
		pb	(柴山允瑠)			○			○			2								
		pc	峯 拓矢					☆		☆										
解析学 II	Calculus II	pa	(柴山允瑠)	2	講義	○	○	○	○			2						maと同時開講		
		pb	(柴山允瑠)			○		○												
統計数理	Mathematical Statistics	pa	武石拓也	2	講義	○		○										ma、daと同時開講		
		pb	森 隆大			○	☆		○	☆			2						dbと同時開講	
		pc	磯崎泰樹					●		●										
応用解析	Applied Analysis	pa	(岩塚 明)	2	講義	☆		☆												
		pb	井川 治			○			○			2								
		pc	井川 治					☆		☆										
		pd	奥山裕介			☆	○	☆	☆	○	☆									maと同時開講
応用幾何	Applied Geometry	pa	(大川 領)	2	講義	☆	○	☆	○				2							
		pb	奥山裕介					☆		☆										
数理解析	Analysis in Mathematical Sciences	pa	奥山裕介	2	講義	☆	○	☆	☆	○	☆			2						
応用数理	Mathematics for Application	pa	磯崎泰樹	2	講義	○	○	☆	○	○	☆				2					

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						設計工学域					1年次	2年次	3年次	4年次						
						一般	地域	電子	情報	機械	前後	前後	前後	前後						
数理応用代数	Algebra and its Applications	pa	奥山裕介	2	講義	○	○	○	○	○				2			院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。大学院機械物理学専攻及び機械設計学専攻において、数学の教育職員免許状（専修免許状）の取得を希望する者は、大学院科目の下履修又は大学院進学後に取得することを推奨する。2027年度は開講しない。		※	
数理応用幾何	Geometry and its Applications	pa	井川 治	2	講義	○	○	○	○	○				2			下履修は、電子・機械の3回生のみを対象とし、履修希望者は担当教員の承認を得ること。院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。大学院機械物理学専攻及び機械設計学専攻において、数学の教育職員免許状（専修免許状）の取得を希望する者は、大学院科目の下履修又は大学院進学後に取得することを推奨する。	※	※	
数理応用解析	Mathematical Analysis and its Applications	pa	峯 拓矢	2	講義	○	○	○	○	○				2			院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。大学院機械物理学専攻及び機械設計学専攻において、数学の教育職員免許状（専修免許状）の取得を希望する者は、大学院科目の下履修又は大学院進学後に取得することを推奨する。	※	※	
データサイエンスの数理	Mathematics for Data Science	pa	磯崎泰樹	2	講義	○	○	○	○	○				2			院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。大学院機械物理学専攻及び機械設計学専攻において、数学の教育職員免許状（専修免許状）の取得を希望する者は、大学院科目の下履修又は大学院進学後に取得することを推奨する。	※	※	
物理学																				
物理学 I	Physics I	pa	蓮池紀幸	2	講義	☆			☆									daと同時開講		
		pb	三浦良雄			○			○			2								
		pc	(裏 升吾)					☆			☆									
物理学 II	Physics II	pa	蓮池紀幸	2	講義			☆			☆							daと同時開講		
		pb	西尾弘司			○			○			2								
物理学実験法及び基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	pa	三瓶明希夫・高橋和生	1	講義・実験	●			●				2					第1クォーター		
		pb	三瓶明希夫・高橋和生			●			●			2				第2クォーター				
		pc	西尾弘司・(一色俊之)			●			●			2				第1クォーター				
		pd	西尾弘司・(一色俊之)			●			●			2				第2クォーター				
		pe	蓮池紀幸・西尾弘司			●			●			2				第3クォーター				
pf	蓮池紀幸・西尾弘司	●			●			2				第4クォーター								
力学	Mechanics	pa	三浦良雄	2	講義	☆			☆				2				daと同時開講	※		
量子力学	Quantum Mechanics	pa	高橋和生	2	講義	☆	○		☆	○				2				※	※	
		pb	三瓶明希夫					☆			☆									
熱力学	Thermodynamics	pa	三浦良雄	1	講義	☆	○		☆	○				2				第3クォーター	※	※
統計力学	Statistical Mechanics	pa	三浦良雄	1	講義	☆	○	☆	☆	○	☆			2				第4クォーター	※	※
生物学																				
生物学 I	Biology I	pa	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	○			○				2							
生物学 II	Biology II	pa	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	○			○				2							
情報																				
情報・データリテラシー概論	Introduction to Computer and Data Literacy	pa	崔 恩滯・西浦生成	2	講義	●			●				2							
AI・データサイエンス I	AI & Data Science I		山本高至・馬 強	1	講義	○	●	○	○	●	○			2					第3クォーター	
その他																				
新先端ファイブ科学	New Advanced Fibro-Science	pa	先端ファイブ科学専攻関係教員	2	講義			○			○			2					daと同時開講	
インターンシップA	Internship A	pa	課程長	1	実習	○			○						3				30~45時間を目安とする。	※
		pb	課程長			○			○											
		pc	課程長			○			○											
インターンシップB	Internship B	pa	課程長	2	実習	○			○						6				60~90時間を目安とする。	※
		pb	課程長			○			○											
		pc	課程長			○			○											
地域創生 Tech Program																				
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	pa	桑原教彰・辻 愛里	2	講義	×	×	×	○	○	○			4					第4クォーター集中授業	
地域感性デザイン論	Community-Based Kansei Design	pa	崔 童般	2	講義	×	×	×	○	○	○			4					第4クォーター集中授業	
地域プロジェクトマネジメント	Community Project Management	pa	崔 童般	2	講義	×	×	×	○	○	○			4					第4クォーター集中授業	
複合材料科学	Composite Materials Science	pa	大谷章夫	2	講義	×	×	×	○	○	○			4					第4クォーター集中授業	
先端複合材料科学	Advanced Composite Materials Science	pa	大谷章夫	2	講義	×	×	×	○	○	○			4					第4クォーター集中授業	

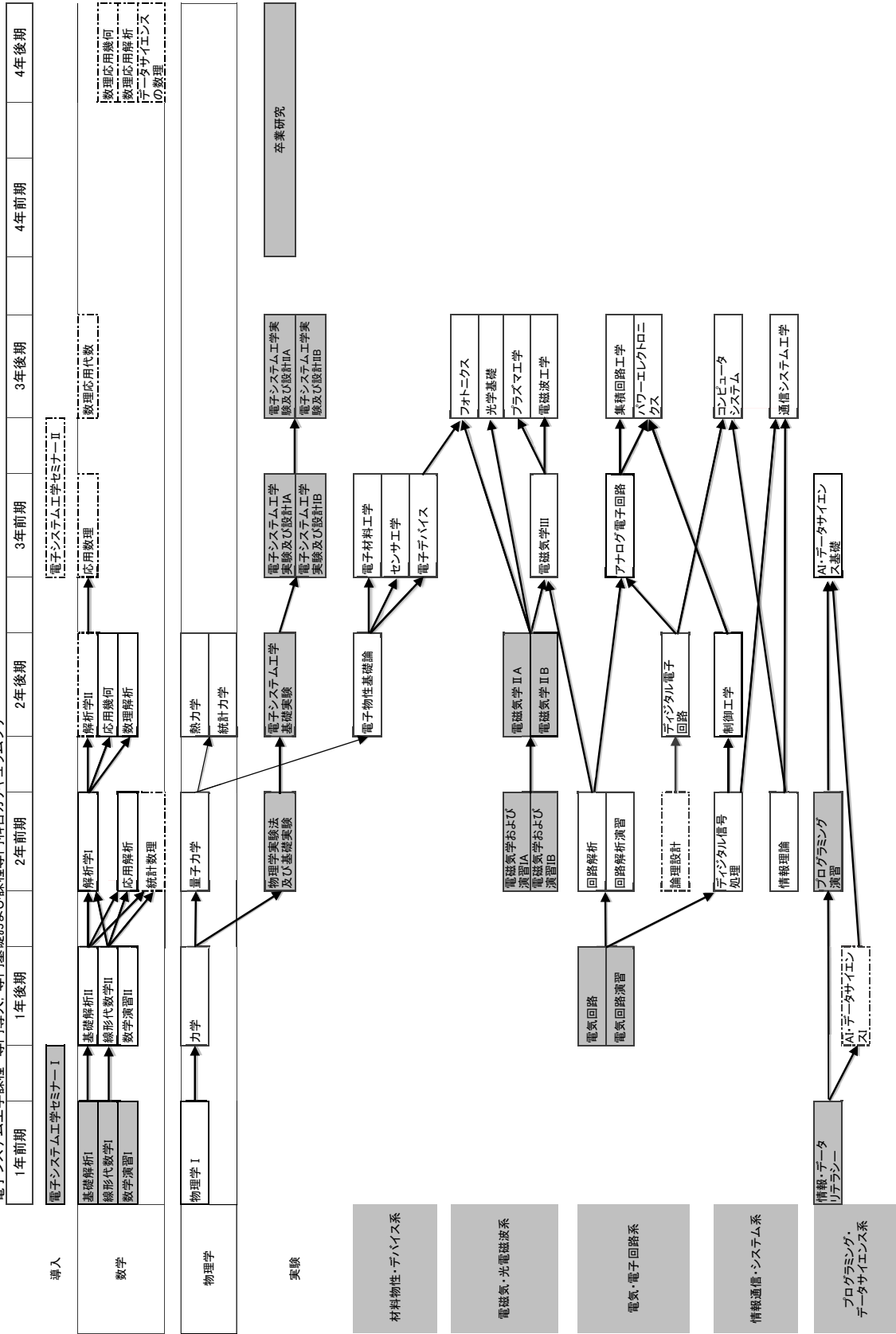
課程専門科目

電子システム工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						一般	地域	1年次 前後	2年次 前後	3年次 前後	4年次 前後						
電気回路	Electric Circuits	a b	山下 馨	2	講義	●	☆	2									
電気回路演習	Exercises in Electric Circuits		田村安彦・高橋 駿	2	講義・演習	●	☆	2									
電磁気学および演習ⅠA	Classical Electrodynamics I A and Exercise		粟辻安浩	2	講義・演習	●	☆		4								第1クォーター
電磁気学および演習ⅠB	Classical Electrodynamics I B and Exercise		田村安彦	2	講義・演習	●	☆		4								第2クォーター
電磁気学ⅡA	Classical Electrodynamics II A		山下兼一	1	講義	●	☆		2								第3クォーター
電磁気学ⅡB	Classical Electrodynamics II B		今田早紀	1	講義	●	☆		2								第4クォーター
電磁気学Ⅲ	Classical Electrodynamics III		上田哲也	2	講義	☆	☆			2							※ ※
情報・データリテラシー	Information and Data Literacy		黒澤裕之・鐘ヶ江一孝	2	演習	●	●	4									
プログラミング演習	Programming		井上純一・CARL FREDERIK WERNER	2	演習	●	●		4								
電子システム工学基礎実験	Introductory Laboratory in Electronic Systems Engineering		電子システム工学課程関係教員	2	実験	●	●			6							
電子システム工学実験及び設計ⅠA	Laboratory in Electronic Systems Engineering I A		電子システム工学課程関係教員	1	実験	●	●			6							第1クォーター
電子システム工学実験及び設計ⅠB	Laboratory in Electronic Systems Engineering I B		電子システム工学課程関係教員	1	実験	●	●			6							第2クォーター
電子システム工学実験及び設計ⅡA	Laboratory in Electronic Systems Engineering II A		電子システム工学課程関係教員	1	実験	●	×			6							第3クォーター
電子システム工学実験及び設計ⅡB	Laboratory in Electronic Systems Engineering II B		電子システム工学課程関係教員	1	実験	●	×			6							第4クォーター
回路解析	Linear Circuit Analysis		新谷道広	2	講義	☆	☆		2								※
回路解析演習	Exercise for Linear Circuit Analysis		山下 馨	2	講義・演習	☆	☆		2								※
論理設計	Logic Design	電	平田博章	2	講義	○	☆		2								※ ※
デジタル電子回路	Digital Electronic Circuits	電	小林和淑・(道正志郎)	2	講義	☆	☆			2							※ ※
アナログ電子回路	Analog Electronic Circuits		高井伸和	2	講義	☆	☆			2							※ ※
集積回路工学	Integrated Circuits		小林和淑・(熊代成孝)・(道正志郎)	2	講義	☆	○				2						
デジタル信号処理	Digital Signal Processing	電	杜 偉薇・西中浩之	2	講義	☆	☆		2								※
制御工学	Control Engineering		(森 禎弘)	2	講義	☆	☆			2							※ ※
通信システム工学	Digital Communications		島崎仁司	2	講義	☆	☆				2						※ ※
パワーエレクトロニクス	Power Electronics		新谷道広・高山 創	2	講義	☆	☆			2							※ ※
電磁波工学	Electromagnetic Waves		上田哲也	2	講義	☆	☆			2							※ ※
プラズマ工学	Plasma Science and Technology		三瓶明希夫	2	講義	☆	☆			2							※ ※
光学基礎	Fundamentals of Optics		粟辻安浩	2	講義	☆	☆			2							※ ※
フォトニクス	Photonics		山下兼一・高橋 駿	2	講義	☆	☆			2							※ ※
電子物性基礎論	Electronic Science and Engineering		高橋和生	2	講義	☆	☆			2							※ ※
電子デバイス	Electron Devices		西中浩之	2	講義	☆	☆			2							※ ※
電子材料工学	Electronic Material Science		今田早紀	2	講義	☆	☆			2							※ ※
センサ工学	Sensor Engineering		高橋和生・西中浩之	2	講義	☆	☆			2							※ ※
AI・データサイエンス基礎	Fundamentals of AI and Data Science	電	高井伸和・高山創	2	講義	☆	☆			2							※ ※
情報理論	Information Theory	電	梅原大祐・山本高至	2	講義	☆	☆		2								※ ※
コンピュータシステム	Computer Systems	電	平田博章	2	講義	☆	☆			2							※ ※
卒業研究	Thesis	電	電子システム工学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10				
地域創生Tech Program (京都府北部開講科目)																	
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	電	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 重殷・来田宣幸	2	演習	×	●					8					集中授業
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	電	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷	2	演習	×	○						8				第1クォーター
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	電	大谷章夫・桑原教彰・来田宣幸・(塩川信明)	4	実習	×	●					20					集中授業
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	電	大谷章夫・桑原教彰・SIRIARAYA PANOTE	1	実習	×	○					5					第2クォーター
卒業プロジェクト	Thesis Project	電	電子システム工学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●							10	10		

電子システム工学課程 専門導入、専門基礎および課程専門科目カリキュラムツリー



地球創生Tech Programの学生は次の通り上記のツリー内に記載された科目を読み替えて下さい
 ・必修科目は情報・データリテラシー、プログラミング演習、物理学実験法及び基礎実験、電子システム工学基礎実験、電子システム工学実験及び設計A、電子システム工学実験及び設計Bのみ
 ・3年後期以降の選択科目、選択必修科目のうち、受講したい科目(電子システム工学実験及び設計HAおよび電子システム工学実験IBを除く)を3年前期までに履修して下さい。

選択科目

選択必修科目

必修科目

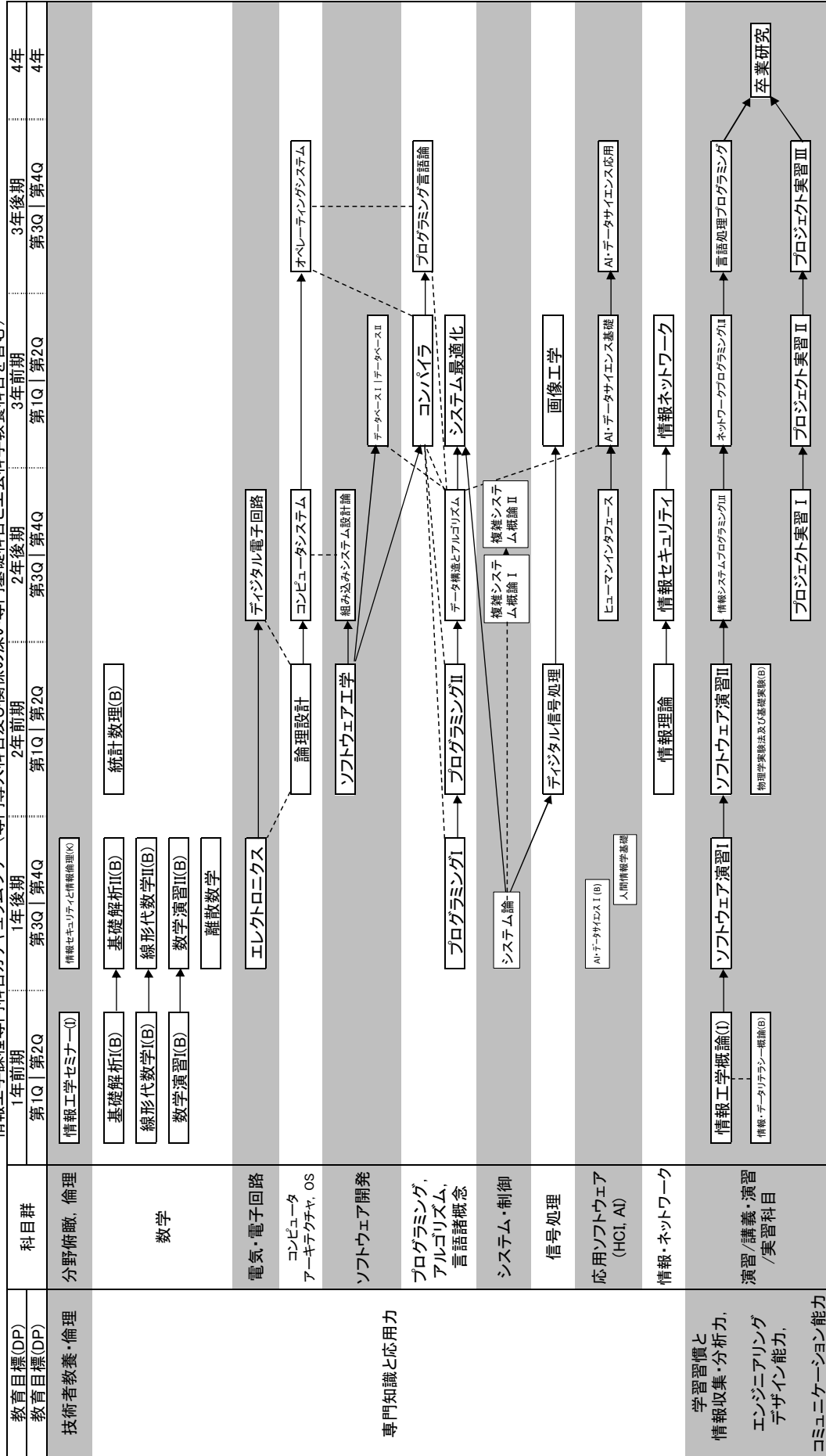
課程専門科目
情報工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
プログラミングⅠ	Programming I		野宮浩揮	2	講義	●	●	2										
プログラミングⅡ	Programming II		梅原大祐・稲葉宏幸	2	講義	●	●		2									
データ構造とアルゴリズム	Data Structures and Algorithms		稲葉宏幸・梅原大祐	2	講義	☆	☆			2				※	※			
システム最適化	Optimization		飯間 等	2	講義	☆	☆				2			※	※			
論理設計	Logic Design	情	平田博章	2	講義	☆	☆		2					※	※			
コンピュータシステム	Computer Systems	情	平田博章	2	講義	☆	☆			2				※	※			
オペレーティングシステム	Operating Systems		布目 淳	2	講義	☆	☆				2			※	※			
ソフトウェア工学	Software Engineering		水野 修・崔 恩溍	2	講義	☆	☆		2					※	※			
組み込みシステム設計論	Design Methodology for Embedded Systems		福澤理行	2	講義	○	○			2				※	※			
データベースⅠ	Databases I	a	馬 強・野宮浩揮	1	講義	☆	☆				2			第1クォーター	※	※		
		b	馬 強・野宮浩揮	1	講義	☆	☆					2			第3クォーター 同年度の第1クォーターに不合格となった者が履修することができる。	※	※	
データベースⅡ	Databases II	a	馬 強・野宮浩揮	1	講義	☆	☆				2			第2クォーター	※	※		
		b	馬 強・野宮浩揮	1	講義	☆	☆					2			第4クォーター 同年度の第2クォーターに不合格となった者が履修することができる。	※	※	
コンパイラ	Compiler		水野 修	2	講義	☆	☆				2			※	※			
プログラミング言語論	Programming Languages		澁谷 雄	2	講義	○	○				2			※	※			
ヒューマンインタフェース	Human Interface		澁谷 雄・西崎友規子	2	講義	☆	☆			2				※	※			
AI・データサイエンス基礎	Fundamentals of AI and Data Science	情	延原章平・山本高至	2	講義	☆	☆				2			※	※			
AI・データサイエンス応用	Application of AI and Data Science		延原章平・山本高至	2	講義	☆	☆				2			※	※			
人間情報学基礎	Fundamentals of Human Informatics		西崎友規子・SIRIARAYA PANOTE	1	講義	☆	☆	2						第4クォーター	※	※		
離散数学	Discrete Mathematics		(難波隆弥)	2	講義	☆	☆	2							※	※		
情報理論	Information Theory	情	梅原大祐・山本高至	2	講義	☆	☆		2					※	※			
情報セキュリティ	Information Security		稲葉宏幸・樹田秀夫	2	講義	☆	☆			2				※	※			
情報ネットワーク	Data Networks	情	樹田秀夫・永井孝幸・梅原大祐	2	講義	☆	☆				2			※	※			
システム論	Systems Approach		飯間 等	1	講義	☆	☆	2						第3クォーター	※	※		
複雑システム概論Ⅰ	Introduction to Complex Systems I		村上 久	1	講義	○	○			2				第3クォーター	※	※		
複雑システム概論Ⅱ	Introduction to Complex Systems II		村上 久	1	講義	○	○			2				第4クォーター	※	※		
デジタル信号処理	Digital Signal Processing	情	杜 偉薇・西中浩之	2	講義	○	○		2					※	※			
画像工学	Image Engineering		福澤理行・杜 偉薇	2	講義	○	○				2			※	※			
エレクトロニクス	Electronics		福澤理行	2	講義	☆	☆	2							※	※		
デジタル電子回路	Digital Electronic Circuits	情	小林和淑・(道正志郎)	2	講義	○	○			2				※	※			
プロジェクト実習Ⅰ	Project-based Learning I		情報工学課程関係教員	2	実験	●	●			6								
プロジェクト実習Ⅱ	Project-based Learning II		情報工学課程関係教員	2	実験	●	●				6							
プロジェクト実習Ⅲ	Project-based Learning III		情報工学課程関係教員	2	実験	●	×					6						
ソフトウェア演習Ⅰ	Software Exercise I		澁谷 雄・杜 偉薇・SIRIARAYA PANOTE	2	演習	●	●	4										
ソフトウェア演習Ⅱ	Software Exercise II		水野 修・澁谷 雄・布目 淳・SHE WAN-JOU	2	演習	●	●		4									
情報システムプログラミングⅠ	Information System Programming I		馬 強・DUAN YIJUN・LIU YUN	1	講義・演習	●	☆			2				第3クォーター				
情報システムプログラミングⅡ	Information System Programming II		馬 強・DUAN YIJUN・LIU YUN	1	講義・演習	●	☆			2				第4クォーター				
ネットワークプログラミングⅠ	Network Programming I		稲葉宏幸・山本高至	1	講義・演習	●	☆				2			第1クォーター				
ネットワークプログラミングⅡ	Network Programming II		稲葉宏幸・山本高至	1	講義・演習	●	☆				2			第2クォーター				
言語処理プログラミング	Programming Language Processing		水野 修	2	講義・演習	●	☆				2				※1			
卒業研究	Thesis	情	情報工学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10					
地域創生Tech Program (京都府北部開発科目)																		
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	情	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 重殷・来田宣幸	2	演習	×	●					8		集中授業				
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	情	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷	2	演習	×	○					8		第1クォーター				
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	情	大谷章夫・桑原教彰・来田宣幸・(塩川信明)	4	実習	×	●				20			集中授業				
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	情	大谷章夫・桑原教彰・SIRIARAYA PANOTE	1	実習	×	○					5		第2クォーター				
卒業プロジェクト	Thesis Project	情	情報工学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●					10	10					

※1 地域創生Tech Programの学生のみ履修可

情報工学課程専門科目カリキュラムツリー(専門導入科目及び関係の深い専門基礎科目と工学科学教養科目を含む)



(K): 関係の深い実践教養科目
実線矢印は望ましい履修順序を示す

(B): 関係の深い専門基礎科目
点線は関係の深い科目を表す

無印: 情報工学課程専門科目
演習・実習科目, 数学科目と他科目との関係線は省略されている

課程専門科目

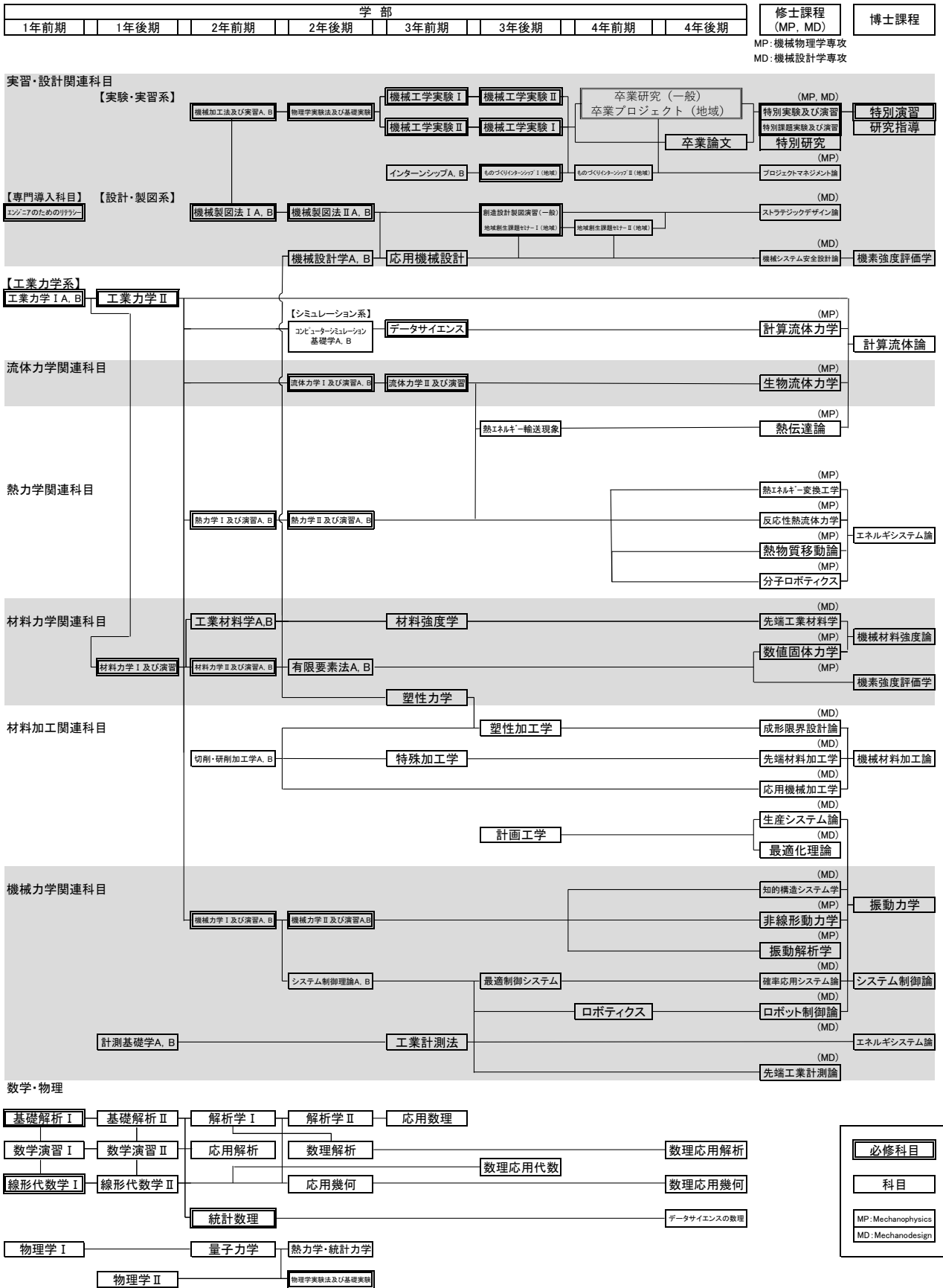
機械工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						一般	地域	1年次 前後	2年次 前後	3年次 前後	4年次 前後				
工業力学ⅠA	Engineering Mechanics I A		射場大輔	1	講義	●	●	2					第1クォーター		※
工業力学ⅠB	Engineering Mechanics I B		射場大輔	1	講義	●	●	2					第2クォーター		※
工業力学Ⅱ	Engineering Mechanics II		射場大輔	2	講義	●	●	2							※
材料力学Ⅰ及び演習	Strength of Materials I and Exercise		武末翔吾	2	講義	●	●	2							※
材料力学Ⅱ及び演習A	Strength of Materials II and Exercise A		高木知弘	1	講義	●	●		2				第1クォーター 2027年度開設予定		※
材料力学Ⅱ及び演習B	Strength of Materials II and Exercise B		高木知弘	1	講義	●	●		2				第2クォーター 2027年度開設予定		※
熱力学Ⅰ及び演習A	Thermodynamics I and Exercise A		巽 和也	1	講義	●	●		2				第1クォーター		※
熱力学Ⅰ及び演習B	Thermodynamics I and Exercise B		巽 和也	1	講義	●	●		2				第2クォーター		※
熱力学Ⅱ及び演習A	Thermodynamics II and Exercise A		西田耕介	1	講義	●	●		2				第3クォーター		※
熱力学Ⅱ及び演習B	Thermodynamics II and Exercise B		西田耕介	1	講義	●	●		2				第4クォーター		※
機械力学Ⅰ及び演習A	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems I and Exercise A	a	三浦奈々子	1	講義	●	●		2				第1クォーター 2027年度開設予定		※
		b								2			第3クォーター 2027年度開設予定 同一年度の第1クォーターに不合格となった者が履修することができる。		
機械力学Ⅰ及び演習B	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems I and Exercise B	a	三浦奈々子	1	講義	●	●		2				第2クォーター 2027年度開設予定		※
		b								2			第4クォーター 2027年度開設予定 同一年度の第2クォーターに不合格となった者が履修することができる。		
機械力学Ⅱ及び演習A	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems II and Exercise A		増田 新	1	講義	●	●		2				第3クォーター 2027年度開設予定		※
機械力学Ⅱ及び演習B	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems II and Exercise B		増田 新	1	講義	●	●		2				第4クォーター 2027年度開設予定		※
流体力学Ⅰ及び演習A	Fluid Dynamics I and Exercise A		山川勝史	1	講義	●	●		2				第3クォーター		※
流体力学Ⅰ及び演習B	Fluid Dynamics I and Exercise B		山川勝史	1	講義	●	●		2				第4クォーター		※
流体力学Ⅱ及び演習	Fluid Dynamics II and Exercise		福井智宏	2	講義	●	●			2					※
機械加工法及び実習A	Machining Processes and Machinshop Practice A		機械工学課程関係教員	1	講義・実習	●	●		3				第1クォーター		
機械加工法及び実習B	Machining Processes and Machinshop Practice B		機械工学課程関係教員	1	講義・実習	●	●		3				第2クォーター		
データサイエンス	Data Science	機a	山川勝史・北川石英・福井智宏・坂根慎治・小林祐生・早川雅之	1	演習	●	●				2				
		機b													
		機c													
機械製図法ⅠA	Mechanical Drawing I A		機械工学課程関係教員	1	講義・演習	●	●		2				第1クォーター		
機械製図法ⅠB	Mechanical Drawing I B		機械工学課程関係教員	1	講義・演習	●	●		2				第2クォーター		
機械製図法ⅡA	Mechanical Drawing II A		機械工学課程関係教員	1	講義・演習	●	●			2			第3クォーター 2027年度開設予定		
機械製図法ⅡB	Mechanical Drawing II B		機械工学課程関係教員	1	講義・演習	●	●			2			第4クォーター 2027年度開設予定		
創造設計製図演習	Exercise in Creative Design	a	機械工学課程関係教員	2	演習	●	×					4			
		b													
機械工学実験Ⅰ	Mechanical Engineering Laboratory I	a	機械工学課程関係教員	1	実験	●	●					4			
		b					×				4				
機械工学実験Ⅱ	Mechanical Engineering Laboratory II	a	機械工学課程関係教員	1	実験	●	×					4			
		b									4				
		c					×	●			4				
計測基礎学A	Fundamentals of Measurement Technology A		田中洋介	1	講義	○	○	2					第3クォーター		※
計測基礎学B	Fundamentals of Measurement Technology B		田中洋介	1	講義	○	○	2					第4クォーター		※
工業材料学A	Engineering Materials A		森田辰郎	1	講義	○	○	2					第1クォーター 2027年度開設予定		※

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
工業材料学B	Engineering Materials B		森田辰郎	1	講義	○	○			2					第2クォーター 2027年度開設予定	※		
切削・研削加工学A	Mechanics of Cutting & Grinding A		山口桂司	1	講義	○	○			2					第1クォーター	※		
切削・研削加工学B	Mechanics of Cutting & Grinding B		山口桂司	1	講義	○	○			2					第2クォーター	※		
コンピュータシミュレーション基礎学A	Introduction to Computer Simulation A		山川勝史	1	講義	○	○			2					第3クォーター	※		
コンピュータシミュレーション基礎学B	Introduction to Computer Simulation B		山川勝史	1	講義	○	○			2					第4クォーター	※		
材料強度学	Fracture and Strength of Materials		森田辰郎	2	講義	○	○				2					※		
有限要素法A	Finite Element Method A		坂根慎治	1	講義	○	○			2					第3クォーター 2027年度開設予定	※		
有限要素法B	Finite Element Method B		坂根慎治	1	講義	○	○			2					第4クォーター 2027年度開設予定	※		
工業計測法	Industrial Instrumentation		田中洋介	2	講義	○	○				2					※		
システム制御理論A	Control Theory of Dynamical Systems A		澤田祐一	1	講義	○	○			2					第3クォーター	※		
システム制御理論B	Control Theory of Dynamical Systems B		澤田祐一	1	講義	○	○			2					第4クォーター	※		
機械設計学A	Mechanical Engineering Design A		射場大輔	1	講義	○	○			2					第3クォーター 2027年度開設予定	※		
機械設計学B	Mechanical Engineering Design B		射場大輔	1	講義	○	○			2					第4クォーター 2027年度開設予定	※		
熱エネルギー輸送現象	Transport Phenomena of Thermal Energy		北川石英	2	講義	○	○				2					※		
最適制御システム	Optimal Control Systems		澤田祐一	2	講義	○	○				2					※		
塑性力学	Engineering Plasticity		飯塚高志	2	講義	○	○				2					※		
特殊加工学	Non-Traditional Machining		江頭 快	2	講義	○	○				2					※		
応用機械設計	Practical Mechanical Design		射場大輔 他	2	講義	○	○				2					※		
塑性加工学	Metal Forming Processes		飯塚高志	2	講義	○	○				2					※		
計画工学	Optimization		軽野義行	2	講義	○	○				2					※		
ロボティクス	Robotics		某	2	講義	○	○					2			2026度は開講しない	※		
卒業論文	Thesis		機械工学課程関係教員	1	卒業研究等	○	○						1					
卒業研究	Research	機	機械工学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10				
地域創生Tech Program (京都府北部開講科目)																		
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	機	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 董殷・来田 宣幸	2	演習	×	●					8			集中授業			
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	機	大谷章夫・桑原教彰・崔 董殷	2	演習	×	○					8			第1クォーター			
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	機	大谷章夫・桑原教彰・来田 宣幸・(塩川信明)	4	実習	×	●				20				集中授業			
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	機	大谷章夫・桑原教彰・SIRIARAYA PANOTE	1	実習	×	○					5			第2クォーター			
卒業プロジェクト	Thesis Project	機	機械工学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●						10	10				

機械工学課程科目間相互関係図



履修規則別表第7

卒業認定に必要な単位数

授業科目区分 課程		全学共通科目					専門教育科目							備考		
		英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目		課程専門科目				専門 教育 科目 合計		総合計	
							必修	選択 必修	必修	選択 必修	卒業 研究・ 卒業 プロジェクト 必修	課程 科目 合計				
																必修
専門 導入 科目	必修	選択 必修	選択	必修	選択 必修	必修	選択 必修									
電子システム工学課程	一般 プログラム	8	6	10	2	32	2	7	12	22	20	36	8	92	134	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	3	7	12	22	14	40	8	92	134	
情報工学課程	一般 プログラム	8	6	10	2	32	4	4	10	24	20	24	8	92	134	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	5	4	10	24	18	26	8	92	134	
機械工学課程	一般 プログラム	8	6	10	2	32	2	7	14	24	31	25	8	92	134	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	3	7	14	24	35	20	8	92	134	

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。
 注3. 大学院授業科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第 1 1

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数 ■ 設計工学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目										備考	
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目			課程専門科目				専門 教育 科目 合計	総合 計		
						必修	選択 必修	選択	必修	選択必修	選択	卒業 研究・ 卒業 フロン ト 必修				課程 専門 科目 合計
電子システム工学課程	一般 プログラム	4	8		26	2	7	12	20	20	24			70	114 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	4	10		28	3	7	12	14	24			70	114 *		
情報工学課程	一般 プログラム	4	8		26	4	4	8	20	20	20			72	114 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program	4	10	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	28	5	4	8	18	22			72	114 *		
機械工学課程	一般 プログラム	6	8		28	2	7	8	18	27			67	110 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。	
	地域創生 Tech Program	6	10		28	3	7	8	18	31			67	110 *		

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。
注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第10

京都府北部開講科目履修のために必要な単位数 ■ 設計工学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考		
	英語教育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目		課程専門科目			専門 教育 科目 合計		総合計	
						必修	選択 必修	必修	選択 必修	卒業 研究・ 卒業 プロジェクト 必修				課程 専門 科目 合計
電子システム工学課程 地域創生 Tech Program	8	4	10 内、リーダーシップと経営戦略より4		28	5	4	8	20	12	22	66	108 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。 *を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
情報工学課程 地域創生 Tech Program	6	6	10		28	3	7	8	18	24	60	103 *		
機械工学課程 地域創生 Tech Program	6	6	10		28	3	7	8	18	24	60	103 *		

注1. 表中の数字は、最低個必要な修得単位数を示す。
注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。

デザイン科学域

1. 学域の紹介

現代社会は、資源やエネルギーの循環、既存社会・既存空間の再生、グローバル化の進展や社会・経済の複雑化にともなう多様性を受け入れる社会の構築といった新たな諸問題に直面しています。持続可能な未来社会を実現すべく、広い概念としての「デザイン」の力は、これまで以上に求められるようになってきています。本学域は、歴史と先端、ローカルとグローバルが同居する京都という歴史的都市において、こうした社会情勢を踏まえて「デザイン」を学びそれを実践へと生かす活動を行う場です。デザイン学と建築学の2つの専門を、それぞれの特性を生かしながら一体として教育研究を行っており、工学的ものづくり基盤を生かしながら、未来社会を新たな方法論で創造すること、あるいは新たにモノや建築物を創り出すための技術に加え、既存の建築や都市の再生を目指しています。

学部はデザイン・建築学課程の1課程からなり、デザイン学と建築学を一体として捉えた教育を基盤としつつ、1年次後学期からは実習をデザインコースと建築コースに分け、それぞれの専門を深く学びます。

大学院は、博士前期課程についてはデザイン学専攻、建築学専攻に加え、タイのチェンマイ大学とのジョイント・ディグリープログラムである京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻の3専攻からなります。これらのうちデザイン学専攻内ではロンドン芸術大学とのダブル・ディグリープログラムとして「Global Collaborative Design Practice」を実施しており、建築学専攻内には特別教育プログラムとして「建築・都市保存再生学コース」を設置しています。博士後期課程については、デザイン学専攻、建築学専攻の2専攻を設置し教育研究を行っています。

2. 教育研究上の目的（育成する人材像）

本学域は、歴史と先端、地域性と国際性、芸術と科学が同居する京都という地において、デザイン学と建築学を一つの視野の下にとらえ、デザインによる社会問題の解決を目指す教育研究をおこなっています。その教育研究の対象は、地球から人間までの広がりを持つ自然・都市・建築環境、プロダクトやヴィジュアルあるいは建築物などのものづくり、社会・経済構造や人の意識・感性といった人間・社会関係、といった多様なスケールと対象に及びます。

現代社会が直面する複雑な諸問題を解決するためには、対象を一元的に捉えるのではなく、横断的あるいは多元的にとらえるための視野が不可欠です。また、諸問題の解決は、短期で意味を失うものであってはならず、過去から未来への時間軸を意識した未来への耐性のある解決でなければなりません。これらの問題に対し、京都という地に学ぶ3つの思考、すなわち既存社会や既存物からなる文脈に対しし物質や価値の循環を思考する〈循環思考〉、歴史に対する深い理解のもとで未来を考える〈歴史思考〉、異なるもの間を絶えず横断し、融合を目指す〈融合思考〉によってアプローチしていきます。

本学域では、Pluriversal（多元的）な自然と社会の創造をめざし、〈京都思考〉を思考の基盤に据えながら、Future Proof Design（未来への耐性があるデザイン）によって社会問題を解決する人材を育成します。

デザイン・建築学課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デザイン・建築の制作・製作に関わる基本工学技術を踏まえ、アイデアをモノ・コトに展開する実現力（表現力）や経営的知識・工学的知識・技術といった基礎を身につけた上で、PBL教育の展開によってディレクション能力やコミュニケーション能力、マネジメント能力といった応用的能力に関する素養を身に付けていることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

具体的には、次のような能力の修得を目標とします。

- A. デザインや建築の制作・製作のための基本技術を有している。
- B. 柔軟な感性と創造力及びビジネスマインドを有している。
- C. 科学的な思考力と判断力を有している。
- D. デザイン、マネジメント、エンジニアリングを横断した広い視野を有している。
- E. 社会構造・生活環境・経済環境についての広範な知識を有している。

2. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学部及び課程のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本課程では、次のような学修・教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。

I. デザインコース

- (1) デザイン理論・芸術理論とデザイン実習、さらにマネジメントやエンジニアリング系の理論や演習を通して、生活をデザインの力によって形成していく広範な知識と技術の修得【専門力】
- (2) プロダクト、ヴィジュアル、スペース等ものづくりに関わる専門的デザイン能力を修得すると同時に、産業構造の変化等を見据え、時代に応じて変化する社会的な課題に対し、新たなサービスの創造や社会実装化を率先して実現できる能力の修得【リーダーシップ、個の確立】
- (3) 新旧が共存する京都という地の中で、歴史と先端の融合をデザイン・エンジニアリング・マネジメント・キュレーションの観点で昇華させ、新たな価値を創造できる能力の醸成【個の確立、外国語運用能力】

II. 建築コース

- (1) 建築をとりまく住環境・都市環境・自然環境に関する知識、その価値の理解や共生に向けた生態学や歴史学的な知識、またこうした知識を基礎にして具体的な都市や建築を構想するために必要な建築設計技術としての設計製図・計画・環境制御・構造・生産技術等に関わる能力の習得【専門力】
- (2) 個々の専門的知識や技術を、より高い創造性と社会性の中で総合的にマネジメントし、固有の風土や歴史、文化を持った都市や地域に根差す優れた建築物として結実させる能力の修得【リーダーシップ、個の確立】
- (3) 我が国の一級建築士資格のみならず建築実務における職能の国際推奨基準を獲得でき、そして国内のみならず広く海外で活躍できる言語力・表現力の習得【外国語運用能力】

3. 教育プログラムの実施方針

専門科目のカリキュラムは、必修の専門導入科目、専門基礎科目（選択必修科目と選択科目で構成されます）に加え、A群科目（建築系）、B群科目（デザイン系）、C群科目（芸術系&マネジメント系&エンジニアリング系）、D群科目（制作実習・演習）の選択必修科目、幅広い分野にわたる選択科目、そして必修の卒業研究があります。これらの科目をバランスよく学習すれば、21世紀社会の暮らしを心から豊かにする総合的構想力を、デザインや建築の実習とその基礎となる造形理論、人文社会科学、工学を学びながら、着実に身につけることができるように設計されており、将来、デザインや建築の専門家、またデザインマインドやビジネスマインドをもった実践家・技術者・研究者になる人にとって有益なプログラムとなっています。

本課程の特長は、他の国公立工科系大学に比して圧倒的に充実した実習教育にあると言えます。1年次前学期の「デザイン・建築基礎実習」では幅広く造形とマネジメントやエンジニアリングに関する基礎教育が提供されます。この実習を通して、デザイン・建築学の全体的な視野を獲得し、個々の学生が将来進むべき方向を明確にすることを目指しています。1年次後学期以降は、デザインコース、建築コースに分かれ、それぞれの実習・演習を選択して履修することになります。各コースへの割り当ては、学生の志望を重視して行われますが、効果的な指導を行うためにコース毎の上限人数も設定されており、希望通りにならないこともあります。

1年次後学期は、デザイン系、建築系いずれかの「デザイン・建築表現演習」、加えてデザインコースでは「ソーシャルインタラクションデザイン演習」を、2年次の実習では、「プロジェクトデザインⅠ・Ⅱ」あるいは「建築設計実習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかを、そして3年次は「プロジェクトデザインⅢ・Ⅳ」あるいは「建築設計実習Ⅲ・Ⅳ」のいずれかを行うこととなります（なお、二級建築士を希望する学生のために「建築設計製図Ⅰ・Ⅱ」も用意されています）。

それぞれの実習・演習の特徴は以下のとおりです。

- ① デザイン実習：モノづくりの技術的・制度的な仕組みや社会実装化までを総合的に実践できる素養を身につけることを目的とした、デザイン、マネジメント、エンジニアリング、キュレーションに関する教育プログラムを通して、身のまわりのモノや情報、生活・社会環境までの広い範囲を対象としたデザインに関する考え方や手法を習得していきます。
- ② 建築実習：小規模施設から都市設計に至るまでの建築設計課題を通じて、都市・建築計画・意匠設計、建築保存・再生計画・設計、環境工学・建築設備設計、建築構造設計など、建築に関する様々な技術を習得していきます。

3年次の「プロジェクトデザインⅢ・Ⅳ」と「建築設計実習Ⅳ」、および4年次の「デザイン・建築学演習」では、デザイン・建築学の多数の専門分野ごとの実習課題が提供され、これらの中のいずれかの専門分野の課題に取り組むこととなります。各課題への割り当ては、コース分けと同様に学生の志望を重視して行われますが、効果的な指導を行うために課題毎の上限人数も設定されており、希望通りにならないこともあります。また、卒業研究は、原則的に、3年次以降の指導教員のゼミで行うこととなります。

本学大学院の3×3特別推薦入試受験希望者については、3年次末までの成績（GPA）等を参考にして、課程からの推薦者を決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を「MO（エムゼロ）」とみなし修士課程の2年間と合わせた3年間の一貫したプログラムによる学修およ

び研究を行います。

卒業研究を履修するための単位修得の要件（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）には十分注意しておいてください。また、卒業後、建築士の受験資格を得るためには、建築士試験指定科目を履修する必要があります。

専門教育科目
デザイン科学域

専門導入科目（デザイン科学域）

履修区分欄の●は必修科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
ソーシャルインタラクシ ンデザイン概論	Introduction to Social Interaction Design		デザイン・建築学課程 関係教員	2	講義	●	●	2										
デザイン・建築基礎実習	Basic of Architecture and Design		デザイン・建築学課程 関係教員	2	実習	●	●	6										
地域課題導入セミナーⅠ	Introduction Seminar with Regional Challenges Ⅰ	da	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷・来田宣幸	1	演習	×	●	2										集中授業
地域課題導入セミナーⅡ	Introduction Seminar with Regional Challenges Ⅱ	da	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷	2	演習	×	○		4									集中授業

専門基礎科目（デザイン科学域）

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
数 学																		
基礎解析 I	Basic Calculus I	da	(佐々木建祀郎)	2	講義	☆	☆	2										
		db	(渚 勝)		講義	☆	☆											
		dc	(清水翔之)		講義	☆	☆	2								同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生d、md、pdと同時開講		
基礎解析 II	Basic Calculus II	da	(渡辺聡美)	2	講義	☆	☆	2									応生a、maと同時開講	
		db	(佐々木建祀郎)		講義	☆	☆								paと同時開講			
		dc	(朝田 衛)		講義	☆	☆									pbと同時開講		
線形代数学 I	Linear Algebra I	da	(大倉弘之)	2	講義	☆	☆	2										
		db	(大倉弘之)		講義	☆	☆											
		dc	(清水翔之)		講義	☆	☆	2								同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。応生b、mc、peと同時開講		
線形代数学 II	Linear Algebra II	da	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2										
数学演習 I	Exercises in Mathematics I	da	(佐々木建祀郎)	2	講義・演習	☆	☆	2										
		db	(渚 勝)		講義・演習	☆	☆											
		dc	(清水翔之)		講義・演習	☆	☆	2								同一年度の前学期に不合格となった者が履修することができる。md、pdと同時開講		
数学演習 II	Exercises in Mathematics II	da	(渡辺聡美)	2	講義・演習	☆	☆	2									maと同時開講	
		db	(佐々木建祀郎)		講義・演習	☆	☆									paと同時開講		
		dc	(朝田 衛)		講義・演習	☆	☆									pbと同時開講		
統計数理	Mathematical Statistics	da	武石拓也	2	講義	☆	☆	2									ma、paと同時開講	
		db	森 隆大		講義	☆	☆									pbと同時開講		※
物理学																		
物理学 I	Physics I	da	三浦良雄	2	講義	☆	☆	2									pbと同時開講	
物理学 II	Physics II	da	西尾弘司	2	講義	☆	☆	2									pbと同時開講	
力学	Mechanics	da	三浦良雄	2	講義	☆	☆	2									paと同時開講	
化学																		
化学 I	Fundamental Chemistry I	da	中 建介	2	講義	☆	☆	2										
化学 II	Fundamental Chemistry II	da	麻生祐司	2	講義	☆	☆	2										
環境化学	Environmental Chemistry	da	布施泰朗・初雪	2	講義	☆	☆					2						
生物学																		
生物学 I	Biology I	da	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2										
生物学 II	Biology II	da	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2										
造形基礎																		
絵画実習	Drawing		(中塚裕子)・(木原千衣子)	1	実習	○	○	3										

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
情報																		
情報リテラシー概論	Introduction to Computer Literacy		三村 充	2	講義	☆	☆	2										
AI・データサイエンスⅠ	AI & Data Science I		山本高至・馬 強	1	講義	○	○	2									第3クォーター集中授業	
AI・データサイエンスⅡ	AI & Data Science II		山本高至・馬 強	1	講義	○	○	2									第4クォーター定員70名(定員を超えて受講登録があった場合は抽選を行う。)	
その他																		
新先端ファイブロ科学	New Advanced Fibro-Science	da	先端ファイブロ科学専攻関係教員	2	講義	○	○	2									paと同時開講	
会計・財務基礎	Introduction to Accounting and Corporate Finance		(岡本宗一)	2	講義	☆	☆			2							※	
インターンシップA	InternShip A	da	デザイン・建築学課程長	1	実習	○	○					3					30~45時間を目安とする。 ※	
インターンシップB	InternShip B	da	デザイン・建築学課程長	2	実習	○	○					6					60~90時間を目安とする。 ※	
地域創生 Tech Program																		
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	da	桑原教彰・辻 愛里	2	講義	×	○						4				第4クォーター集中授業	
地域感性デザイン論	Community-Based Kansei Design	da	崔 童殷	2	講義	×	○						4				第4クォーター集中授業	
地域プロジェクトマネジメント	Community Project Management	da	崔 童殷	2	講義	×	○						4				第4クォーター集中授業	
複合材料科学	Composite Materials Science	da	大谷章夫	2	講義	×	○						4				第4クォーター集中授業	
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	da	大谷章夫	2	講義	×	○						4				第4クォーター集中授業	

課程専門科目

デザイン・建築学課程

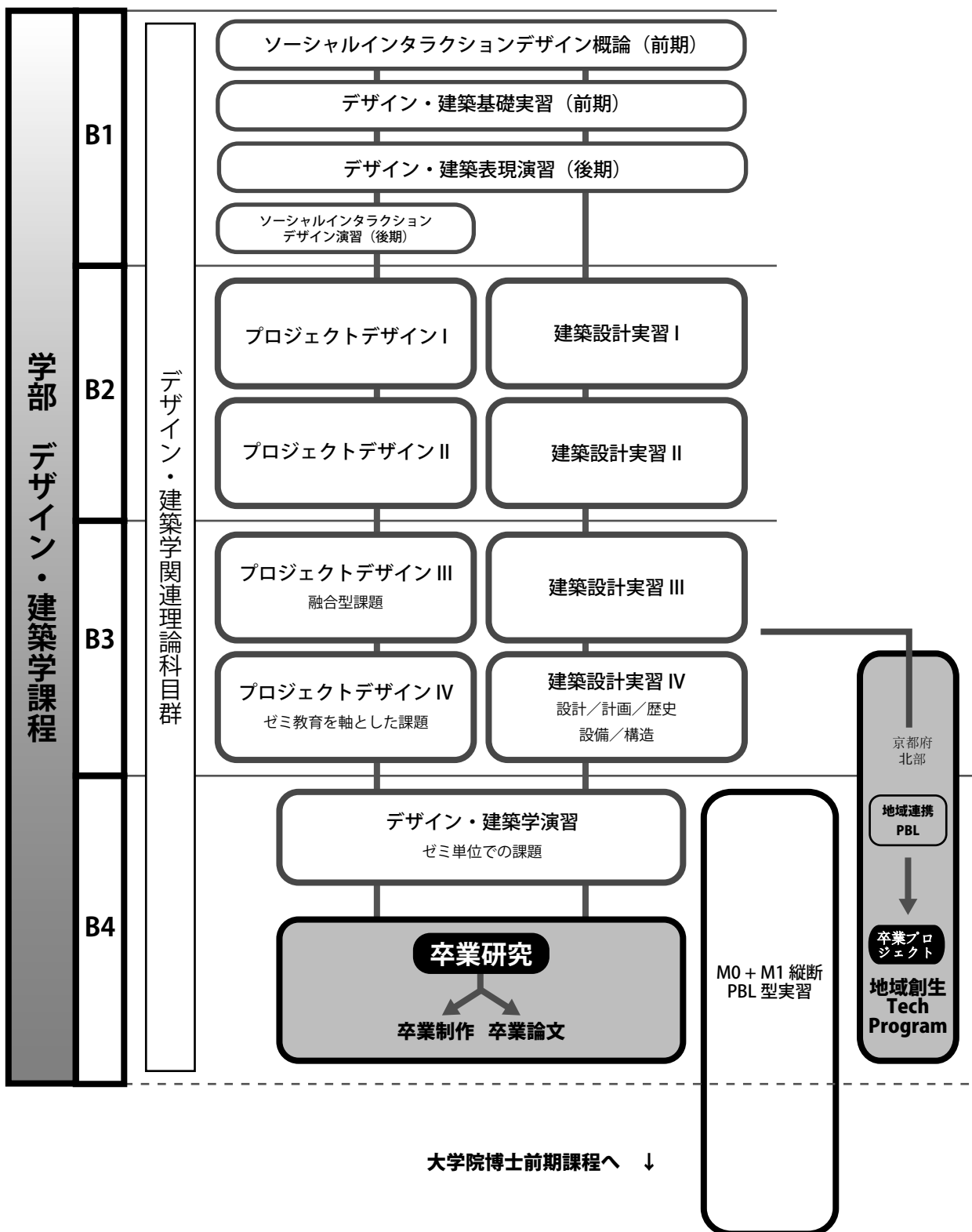
履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次					3年次		4年次	
								前	後	前	後				前	後	前	後
基礎演習科目																		
デザイン・建築表現演習	Exercise in Architecture and Design Representation		デザイン・建築学課程関係教員・(倉田優紀)	3	演習	☆D	☆D		6						デザイン課題コースと建築課題コースにより内容が異なる			
ソーシャルインタラクションデザイン演習	Basic of Social Interaction Design		デザイン・建築学課程関係教員	2	演習	☆D	☆D		4									
建築実習科目																		
建築設計実習Ⅰ	Architecture Design Studio I		建築設計実習関係教員	4	実習	☆D	☆D		12									
建築設計実習Ⅱ	Architecture Design Studio II		建築設計実習関係教員・(市田侑平)・(門藤芳樹)・(松下直子)・(山中祥子)	4	実習	☆D	☆D			12								
建築設計実習Ⅲ	Architecture Design Studio III		建築設計実習関係教員・(荻野彰大)・(畠田 恵)	4	実習	☆D	☆D				12							
建築設計実習Ⅳ	Architecture Design Studio IV		建築設計実習関係教員	4	実習	☆D	○					12						
デザイン実習科目(PBL)																		
プロジェクトデザインⅠ	Project Design I		デザイン実習関係教員	4	演習	☆D	☆D		8									
プロジェクトデザインⅡ	Project Design II		デザイン実習関係教員・(關 博旨)	4	演習	☆D	☆D			8								
プロジェクトデザインⅢ	Project Design III		デザイン実習関係教員	4	演習	☆D	☆D				8							
プロジェクトデザインⅣ	Project Design IV		デザイン実習関係教員	4	演習	☆D	○					8						
建築理論科目																		
建築構造力学ⅠA	Structural Mechanics I A		満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎	1	講義	☆A	☆A		2						第3クォーター		※	
建築構造力学ⅠB	Structural Mechanics I B		満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎	1	講義	☆A	☆A		2						第4クォーター		※	
建築構造力学ⅡA	Structural Mechanics II A	da	満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎	1	講義	○	○			2					第1クォーター		※	
		db	満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎							2				第3クォーター 同一年度の第3クォーターに不合格となった者が履修することができる。				
建築構造力学ⅡB	Structural Mechanics II B	da	満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎	1	講義	○	○			2					第2クォーター		※	
		db	満田衛資・金尾伊織・村本 真・小島紘太郎							2				第4クォーター 同一年度の第2クォーターに不合格となった者が履修することができる。				
建築計画Ⅰ	Architectural Planning: Synthetic Theory		阪田弘一・高木真人	2	講義	☆A	☆A			2							※	
建築計画Ⅱ	Architectural Planning: Design Methodology		阪田弘一・高木真人	2	講義	☆A	☆A			2							※	
建築環境工学	Architectural Environment Engineering		キム ジョンミン	2	講義	☆A	☆A			2							※	
建築構造設計学Ⅰ	Structural Design I		金尾伊織・満田衛資・村本 真・(細野久幸)・小島紘太郎	2	講義	○	○				2						※	
建築構造設計学Ⅱ	Structural Design II		金尾伊織・満田衛資・村本 真・小島紘太郎	2	講義	○	○				2						※	
都市史Ⅰ	Urban History I	da	岩本一将・井戸美里・(岩本馨)	2	講義	☆A	☆A				2						※	
		db	MARTINEZ,Alejandro								2			留学生向け科目		※		
都市史Ⅱ	Urban History II		大田省一・(赤松加寿江)	2	講義	☆A	☆A					2					※	
世界建築史	History of World Architecture		大田省一・Fabienne Helfenberger	2	講義	☆A	☆A			2							※	
日本建築史	History of Japanese Architecture	da	Martinez Alejandro・松田剛佐	2	講義	☆A	☆A				2						※	
		db	MARTINEZ,Alejandro・Fabienne Helfenberger								2			留学生向け科目		※		
近代建築史	History of Modern Architecture		山崎泰寛・笠原一人・三宅拓也	2	講義	☆A	☆A				2						※	
造形材料	Building and Product Materials		中山利恵・村本 真	2	講義	☆A	☆A			2							※	
建築職能論	Architectural Professionalism		角田暁治・朽木順綱・木下豊大・武井誠・金野千恵	2	講義	☆A	☆A				2						※	
景観論	Theory of Landscape		清水重教・大田省一・朽木順綱	2	講義	☆A	☆A				2						※	
建築設備	Building Equipment		菅健太郎	2	講義	☆A	☆A				2						※	
住環境計画	Housing Environmental Design		阪田弘一・高木真人・岩本一将	2	講義	☆A	○					2					※	
都市・建築遺産論	Theory of Urban and Architectural Heritage		笠原一人・MARTINEZ,Alejandro・(北岡慎也)	2	講義	☆A	☆A					2				※1	※	
環境設備計画	Building Service Design		キム ジョンミン・(土屋範明)	2	講義	○	○				2					※1	※	
建築生産	Building Production		(平田 修)	2	講義	○	○				2					※1	※	
建築法規	Basic Building Code		(若林 悟)	2	講義	○	○				2					※1	※	
庭園美学論	Discourse on the Aesthetics of the Garden		(重森千寿)	2	講義	☆A	☆A				2						※	

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次				
								前	後	前	後				前
デザイン理論科目															
ヴィジュアルコミュニケーションデザイン論	Visual Communication Design		西村雅信・山本 史	2	講義	☆B	☆B		2						※
ファシリティ計画論	Facility Programming		松本裕司・山下正太郎	2	講義	☆B	☆B			2					※
デザイン史	History of Design		本橋弥生	2	講義	☆B	☆B			2					※
製品デザイン技術論	Production Techniques and Theory for Design		梶	2	講義	☆B	☆B			2					※
室内意匠計画	Interior Design Planning		(濱田 猛)・(間瀬一博)・(赤川貴世友)	2	講義	☆B	☆B			2					※
グラフィックデザイン論	Theory of Graphic Design		中野仁人	2	講義	☆B	☆B				2				※1 ※
デザイン方法論	Design Methodology		畔柳加奈子・(関 博旨)	2	講義	☆B	☆B				2				※1 ※
美術史	History of Art		井戸美里	2	講義	☆C	☆C	2							※
美学・感性論	Aesthetics		(三木順子)	2	講義	☆C	☆C		2						※ ※
博物館概論	Introduction to Museology		井戸美里・(森 光彦)	2	講義	☆C	☆C				2				※ ※
現代芸術論	Theory of Contemporary Art		平芳幸浩	2	講義	☆C	☆C				2				※ ※
企業経営学概論	Introduction to Corporate Business Administration		勝本雅和	2	講義	☆C	☆C	2							※
マーケティング論	Theory of Marketing		(坂本和子)	2	講義	☆C	☆C		2						集中授業 ※
場のマネジメント	Place Design and Management		松本裕司・山下正太郎	1	講義	☆B	☆B			1					集中授業 ※
デザインマネジメント	Design Management		木谷庸二	2	講義	☆B	☆B				2				※1 ※
市場参入論	Theory of Market Entry		勝本雅和	2	講義	☆C	☆C				2				※1 ※
資源環境論	Resources and Environment		津田和俊	2	講義	☆C	☆C	4							第2クォーター ※
生産・材料工学	Production and Materials Engineering		(山田祐仁)・(田中勝久)	2	講義	☆C	☆C		2						※
感性工学	Affective Engineering		北口紗織	2	講義	☆C	☆C				2				※
デザイン経営工学事例研究	Case study in Design Engineering & Management		(岡田真幸)・(富岡 慶)・(永田貴久)・(深井吉男)	2	講義	☆B	○				2				集中授業 ※
スキルアップ演習科目															
デザインプラクティスⅠ	Design Practice I		デザイン実習関係教員・(本田元志)・(市川靖史)・(曾田優紀)	1	実習	○	○		3						プロジェクトデザイン選択者のみ
デザインプラクティスⅡ	Design Practice II		デザイン実習関係教員・(三田地博史)・(濱田 猛)・(北村春香)	1	実習	○	○			3					プロジェクトデザイン選択者のみ
デザインプラクティスⅢ	Design Practice III		デザイン実習関係教員・(本田元志)・(小坂大毅)	1	実習	○	○			3					プロジェクトデザイン選択者のみ
情報処理演習	Exercises in Information Processing	da	三村 充	2	講義・演習	○	○			2					
建築環境工学演習	Experiments on Building and Urban Physics		菅健太郎	1	演習	○	○				2				
建築構造材料実験	Experimental Work in Structural Materials		金尾伊織・満田衛資・村本 真・小島紘太郎	2	講義・実験	○	○				4				
伝統建築演習	Studio in Traditional Japanese Architecture	da	清水重敦・中山利恵・松田剛佐・Fabienne Helfenberger	2	演習	○	○				4				
		db	MARTINEZ,Alejandro									4			
建築設計製図Ⅰ	Architecture Design Practice I		角田暁治	2	実習	○	○				6				二級建築士受験資格を希望するデザインコース所属学生のみ履修可 集中授業
建築設計製図Ⅱ	Architecture Design Practice II		角田暁治	1	実習	○	○				3				二級建築士受験資格を希望するデザインコース所属学生のみ履修可 集中授業
研究指導															
デザイン・建築学演習	Architecture and Design Seminar		デザイン・建築学課程関係教員	4	演習	○	○					8			集中授業
卒業研究															
卒業研究	Graduation Work	da	デザイン・建築学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×						10	10	
地域創生Tech Program (京都府北部開講科目)															
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	da	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・崔 重殷・来田宣幸	2	演習	×	●					8			集中授業
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	da	大谷章夫・桑原教彰・崔 重殷	2	演習	×	○						8		第1クォーター
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	da	大谷章夫・桑原教彰・来田宣幸・(塩川信明)	4	実習	×	●					20			集中授業
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	da	大谷章夫・桑原教彰・SIRARAYA PANOTE	1	実習	×	○						5		第2クォーター
卒業プロジェクト	Thesis Project	da	デザイン・建築学課程関係教員・(谷口知弘)	8	卒業研究等	×	●						10	10	

※1 地域創生Tech Programの学生のみ履修可

デザイン・建築学課程の実習課題のながれ



デザイン・建築学課程の「専門導入科目」「課程専門科目」「専門基礎科目」

		専門導入科目・課程専門科目		専門基礎科目
		デザイン課題コース	建築課題コース	選択必修科目のみ記載しています。 ほかは履修要項を確認して下さい。
1 回 生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルインタラクティブデザイン概論 ・デザイン・建築基礎実習 ・美術史 ・資源環境論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルインタラクティブデザイン概論 ・デザイン・建築基礎実習 	情報リテラシー概論 物理学I 物理学II 線形代数学I 化学I 化学II 線形代数学II 生物学I 生物学II 基礎解析I 数学演習I 基礎解析II 数学演習II
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築表現演習 ・ソーシャルインタラクティブデザイン演習 ・企業経営学概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築表現演習 ・建築構造力学ⅠA・B 	
2 回 生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・美学・感性論 ・プロジェクトデザインⅠ ・デザインプラクティスⅠ ・マーケティング論 ・生産・材料工学 ・ヴィジュアルコミュニケーションデザイン論 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界建築史 ・建築計画Ⅰ ・建築環境工学 ・建築設計実習Ⅰ ・建築構造力学ⅡA・B 	会計・財務基礎 統計数理
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトデザインⅡ ・デザインプラクティスⅡ ・デザイン史 ・ファシリティ計画論 ・情報処理演習 ・製品デザイン技術論 ・建築設計製図Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市史Ⅰ ・日本建築史 ・建築計画Ⅱ ・造形材料 ・建築設備 ・建築設計実習Ⅱ ・建築構造設計学Ⅰ 	
3 回 生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館概論 ・室内意匠計画 ・プロジェクトデザインⅢ ・デザインプラクティスⅢ ・場のマネジメント ・感性工学 ・建築設計製図Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代建築史 ・景観論 ・庭園美学論 ・建築設計実習Ⅲ ・建築環境工学演習 ・建築構造設計学Ⅱ ・建築構造材料実験 ・建築職能論 	環境化学
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代芸術論 ・プロジェクトデザインⅣ ・グラフィックデザイン論 ・デザイン方法論 ・デザインマネジメント ・市場参入論 ・デザイン経営工学事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境計画 ・都市史Ⅱ ・建築設計実習Ⅳ ・環境設備計画 ・建築生産 ・建築法規 ・都市・建築遺産論 ・伝統建築演習 	
4 回 生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築学演習 ・卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築学演習 ・卒業研究 	
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究 	

建築士試験指定科目一覧表

二級・木造建築士 (単位数)	一級建築士 (単位数)	建築士試験 指定科目	単位数
①建築設計製図 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築設計実習Ⅰ 建築設計実習Ⅱ 建築設計実習Ⅲ 建築設計製図Ⅰ 建築設計製図Ⅱ	4 4 4 2 1
②～④ 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画Ⅰ 建築計画Ⅱ 室内意匠計画 住環境計画 世界建築史 日本建築史 近代建築史 都市・建築遺産論	2 2 2 2 2 2 2 2
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学 建築環境工学演習	2 1
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備 環境設備計画	2 2
⑤～⑦ 構造力学、 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	建築構造力学ⅠA 建築構造力学ⅠB 建築構造力学ⅡA 建築構造力学ⅡB	1 1 1 1
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構造設計学Ⅰ 建築構造設計学Ⅱ	2 2
	⑦建築材料 (2単位以上)	造形材料 建築構造材料実験	2 2
⑧建築生産(1単位以上)	⑧建築生産(2単位以上)	建築生産	2
⑨建築法規(1単位以上)	⑨建築法規(1単位以上)	建築法規	2
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	デザイン・建築表現演習 建築設計実習Ⅳ 建築職能論 景観論 伝統建築演習 都市史Ⅰ 都市史Ⅱ ものづくりインターンシップⅠ (↑地域創生Tech Program生のみ履修可)	3 4 2 2 2 2 2 2 4
単位総計と実務年数		註:	
実務0年:40単位以上 実務1年:30単位以上 実務2年:20単位以上	実務2年:60単位以上 実務3年:50単位以上 実務4年:40単位以上	建築士試験受験資格には、免許登録要件で必要となる実務経験年数に応じて、指定科目の単位取得が必要となる。 デザイン・建築学課程では二級・木造建築士は実務0年、一級建築士は実務2年となる単位数の取得を推奨する。	

履修規則別表第7

卒業認定に必要な単位数

デザイン科学域

課 程	授業科目区分		全学共通科目					専門教育科目							備考					
	英語教 育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目			課程専門科目				専門 教育 科目 合計	総合 計						
						専門 導入 科目	必修	選択 必修	専門 基礎 科目 合計	選択必修		卒業 研究 ・ 卒業 プロ ジェクト 必修				課程 専門 科目 合計				
										A	B						C	D		
デザイン・建築学課程	一般 プログラム (建築)	8	6	10	2	32	4	4	4	6	6	6	4	6	2	4	8	92	134 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
		8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	5	4	4	4	6	6	6	4	6	2	4	8	92	
	8	6	10	2	32	4	6	6	6	4	10	10	8	8	8	92	134 *	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。		
	8	6	10 内、リーダーシップと経営戦略より4	2	32	5	6	6	6	4	10	10	8	8	8	92	134 *			

注1. 表中の数字は、最低限必要修得単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸高科目は、総合計には含まれない。
 注3. 大学院授業科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第11

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数 ■デザイン科学域

課 程	授業科目区分				全学共通科目						専門教育科目						備 考
	英語教 育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門基礎科目			課程専門科目			専 門 教 育 科 目 合 計	綜 合 計				
						専 門 基 礎 選 修	専 門 基 礎 必 修	選 修 必 修	選 修 選 修	選 修 選 修	選 修 選 修			選 修 選 修	選 修 選 修		
																専 門 基 礎 選 修	
デザイン・建築学課程	一般 プログラム (建築)				24	2	2	10	4	4		72	104 *	*を付した単位数には、合計8単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単 位を含めることができる。 *を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単 位を含めることができる。 *を付した単位数には、合計8単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単 位を含めることができる。 *を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単 位を含めることができる。			
	地域創生 Tech Program (建築)	6	10 内、リーダーシップと経 営戦略より4		30	4	4	10	4	4		72	115 *				
	一般 プログラム (デザイン)				24	2	2	18	8	8		72	104 *				
	地域創生 Tech Program (デザイン)	6	10 内、リーダーシップと経 営戦略より4		30	4	4	18	8	8		72	115 *				

注1. 表中の数字は、最低限必修必修単位数を示す。

注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。

履修規則別表第10

京都府北部開講科目履修のために必要な単位数 ■ デザイン科学域

授業科目区分 課程	全学共通科目				専門教育科目							備考				
	英語教 育科目	基礎教養科目	実践教養科目	高年次 配当科目	全学 共通 科目 合計	専門 導入 科目		専門基礎科目			課程専門科目				専門 教育 科目 合計	
						必修	選択 必修	必修	選択 必修	必修	選択 必修		A	B		C
デザイン・建築学課程	8	6	10 内、リーダーシップと経 営戦略より4		30	5	4	4	4	10	4	4	62	105		
	8	6	10 内、リーダーシップと経 営戦略より4		30	5	4	4	4	16	8	4	62	105		

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。

注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。

IV. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて

リテラシーレベル

数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について、体系的に学ぶことにより、基礎的な能力の向上を図る機会を提供するプログラムです。

このプログラムを履修するための特別な手続きは必要ありません。通常どおりの受講登録を行ってください。

●身に付けることができる能力

数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を身に付けることができます。

●修了要件

工学科学基礎 1 単位に加え、所属課程で開講されるデータリテラシー科目を 2 単位以上修得すること。(開講科目は下表参照)

●授業科目

学修項目	授業科目
1.社会におけるデータ・AI 利活用	
1-1. 社会で起きている変化	全学共通科目： 「工学科学基礎（1 年次、1 単位、選択）」
1-2. 社会で活用されているデータ	
1-3. データ・AI の活用領域	
1-4. データ・AI 利活用のための技術	
1-5. データ・AI 利活用の現場	
1-6. データ・AI 利活用の最新動向	
2.データリテラシー	
2-1. データを読む	各課程の専門基礎科目、課程専門科目 応用生物学課程： 「情報処理演習（1 年次、2 単位、必修）」 「生物統計学（2 年次、2 単位、選択必修）」 応用化学課程： 「情報データリテラシー演習（1 年次、2 単位、必修）」 電子システム工学課程： 「情報・データリテラシー（1 年次、2 単位、必修）」 情報工学課程： 「情報・データリテラシー概論（1 年次、2 単位、必修）」 機械工学課程： 「エンジニアのためのリテラシー（1 年次、2 単位、必修）」 デザイン・建築学課程： 「情報リテラシー概論（1 年次、2 単位、選択必修）」
2-2. データを説明する	
2-3. データを扱う	
3.データ・AI 利活用における留意事項	
3-1. データ・AI を扱う上での留意事項	全学共通科目： 「工学科学基礎（1 年次、1 単位、選択）」
3-2. データを守る上での留意事項	
4. オプション	
4-1. 統計および数理基礎	基礎解析Ⅰ、線形代数学Ⅰ、統計数理、生物統計学

応用基礎レベル

数理・データサイエンス・AI を活用して、課題を解決するための実践的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる機会を提供するプログラムです。

このプログラムを履修するための特別な手続きは必要ありません。通常どおりの受講登録を行ってください。

●身に付けることができる能力

数理・データサイエンス・AI を活用して、課題を解決するための実践的な能力を身に付けることができます。

●修了要件

リテラシーレベルの修得に加え、所属課程で開講される科目を修得すること。(開講科目は下表参照)

●授業科目

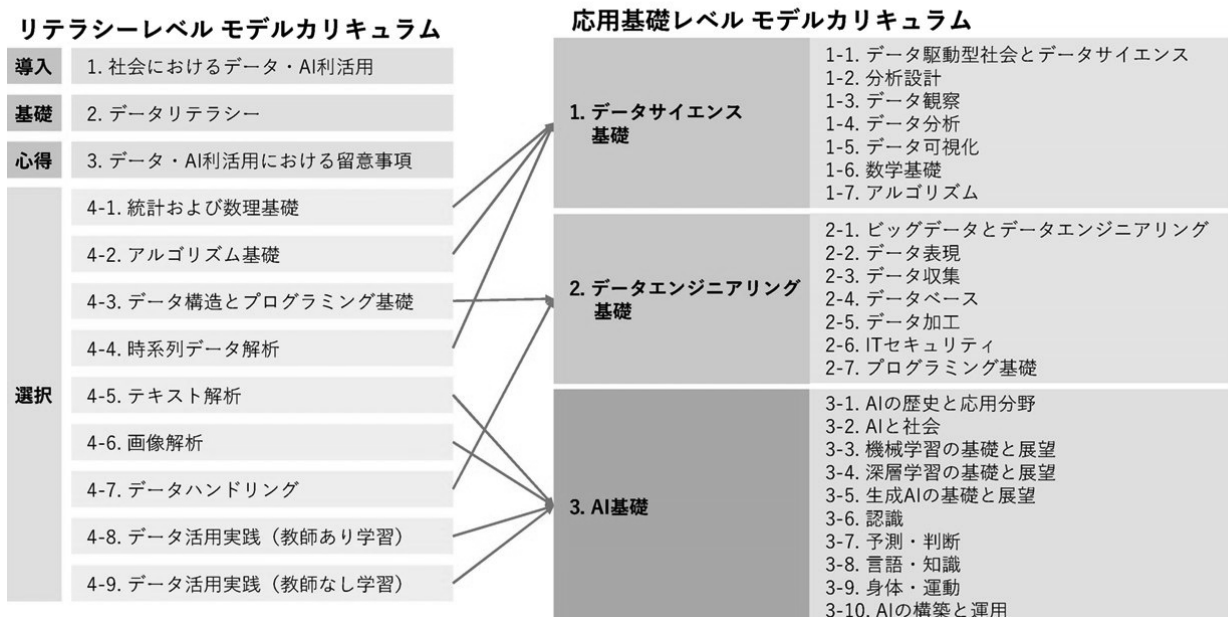
学修項目		授業科目
Ⅰ.データ表現とアルゴリズム		
1. データサイエンス基礎	1-6. 数学基礎	応用生物学課程： 「基礎解析Ⅰ」、「線形代数学Ⅰ」、「生物統計学」 応用生物学課程以外の課程： 「基礎解析Ⅰ」、「線形代数学Ⅰ」、「統計数理」
	1-7. アルゴリズム	応用生物学課程、応用化学課程、デザイン・建築学課程： 「AI・データサイエンスⅡ」 電子システム工学課程：「AI・データサイエンス基礎」 情報工学課程：「データ構造とアルゴリズム」 機械工学課程：「データサイエンス」
2. データエンジニアリング基礎	2-2. データ表現	全課程： 「AI・データサイエンスⅠ」
	2-7. プログラミング基礎	応用生物学課程、応用化学課程、デザイン・建築学課程： 「AI・データサイエンスⅡ」 電子システム工学課程：「AI・データサイエンス基礎」 情報工学課程：「AI・データサイエンス基礎」 機械工学課程：「データサイエンス」
Ⅱ.AI・データサイエンス基礎		
1. データサイエンス基礎	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス	全課程： 「AI・データサイエンスⅠ」
	1-2. 分析設計	応用生物学課程、応用化学課程、デザイン・建築学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンスⅡ」 電子システム工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンス基礎」 情報工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンス基礎」 「AI・データサイエンス応用」 機械工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「データサイエンス」
2. データエンジニアリング基礎	2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング	
3. AI 基礎	3-1. AI の歴史と応用分野	全課程： 「AI・データサイエンスⅠ」
	3-2. AI と社会	
	3-3. 機械学習の基礎と展望	応用生物学課程、応用化学課程、デザイン・建築学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンスⅡ」

	3-4. 深層学習の基礎と展望	電子システム工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンス基礎」 情報工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「AI・データサイエンス基礎」 「AI・データサイエンス応用」 機械工学課程： 「AI・データサイエンスⅠ」「データサイエンス」
	3-5. 生成 AI の基礎と展望	全課程： 「AI・データサイエンスⅠ」
	3-10. AI の構築と運用	
Ⅲ. AI データサイエンス実践		
	AI データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）〈データ・AI 活用 企画・実施・評価〉	応用生物学課程、応用化学課程、デザイン・建築学課程： 「AI・データサイエンスⅡ」 電子システム工学課程： 「AI・データサイエンス基礎」 情報工学課程： 「AI・データサイエンス基礎」、「AI・データサイエンス応用」 機械工学課程： 「データサイエンス」

参考：数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
https://www.kit.ac.jp/campus_index/suri-ds-ai_program/

付録
モデルカリキュラム

数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル選択項目と応用基礎レベル学修項目の対応



※出典：文部科学省 数値・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム AI×データ活用の実践（2024年2月22日改訂）※クリーン版 13頁
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm

V. 教育職員免許状の取得について

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば次の教育職員免許状を取得することができます。

※ 前学期に学生情報ポータルに掲載される「教育職員免許状取得の手引き」を必ず確認すること。

課 程	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
応用生物学課程	理 科	理 科
応用化学課程	理 科	理 科
電子システム工学課程	数 学	数 学
情報工学課程	数 学	数 学
	—	情 報
機械工学課程	数 学	数 学

- ① 受けようとする免許状ごとに、所定の「教育の基礎的理解に関する科目等」【別表1】、「教科の指導法に関する科目」【別表2】、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」【別表3】及び「教科に関する科目」【別表4-①～⑥】の単位を修得しなければならない。（別表は次ページ以降に掲載）
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科の指導法に関する科目」は教育職員免許状を得ようとする者のために開設される科目で、修得した単位は卒業要件単位に含めることができない。
- ③ 「教育実習」は、原則として卒業予定年次に受講（実施）することになるが、その受講手続は前年度の5～6月頃から始まり、同時にガイダンスも実施される。
- ④ これらのガイダンスに欠席した者や、受講手続きを適正に行わなかった者については、「教育実習」の受講（実施）を認めない。
- ⑤ 教職に関する連絡事項は、全て学生情報ポータルに掲載するので、特に注意すること。

「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科の指導法に関する科目」の種類および単位数

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目 名	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	週 授 業 時 間 数		配 当 年 次	備 考	
					前	後			
教育の基礎的理解に関する科目等	教育原論	Principle of Education	(森 七恵)	2	講義	2		1	
	現代教師論	Study of Modern Teacher	伊佐夏実	2	講義		2	1	集中授業
	教育社会学	Educational Sociology	伊佐夏実	2	講義	2		1	集中授業
	教育心理学	Educational Psychology	(澤田和輝)	1	講義	1		1	集中授業
	特別支援教育	Special needs education	(鳴海正也)	1	講義		1	1	集中授業
	教育課程論	Study of Curriculum	塩屋葉子	2	講義	2		1	集中授業
	道徳教育の理論と方法	Study of Moral Education	(井上 専)	2	講義		2	1	
	総合的な学習の時間の指導法	Teaching Method of the Period for Integrated Studies	(滋野哲秀)	1	講義	1		1	集中講義
	特別活動論	Study of Extra-Curricular Activities	伊佐夏実	1	講義	1		1	集中講義
	教育方法論	Study of Teaching and Learning	(中村瑛仁)	1	講義		1	1	集中授業
	視聴覚教育概説	Outline of Audio-Visual Education	(渡部晃正)	2	講義		2	1	集中授業
	ICT活用論	Applications of ICT	稲葉宏幸・高井伸和・水口朋子	1	講義		2	1	第3クォーター
	生徒指導	Student Guidance	(上野淳子)	2	講義	2		1	集中授業
	教育相談・進路指導論	Educational Counseling	(岩本脩平)	2	講義	2		1	集中授業
	教育実習Ⅰ	Teaching Practice Ⅰ	伊佐夏実	4	実習	8		4	中学校教諭一種免許状取得の場合はこちらを履修。5月から9月までの3週間以上（学外）（10月の実習の場合もある）
教育実習Ⅱ	Teaching Practice Ⅱ	伊佐夏実	2	実習	4		4	5月から9月までの2週間（学外）（10月の実習の場合もある）	
教育実習Ⅲ	Teaching Practice Ⅲ	伊佐夏実	1	実習	2		4	集中授業	
教職実践演習(中・高)	Seminar on Educational Practice	伊佐夏実・(松本高直)・(岩本脩平)	2	演習		2	4	集中授業 「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」の既修得を要す。 「教育実習Ⅲ」の既修得を要す。	
教科の指導法に関する科目	数学教育法ⅠA	Teaching Method of Mathematics ⅠA	井川 治	2	講義	2		2	
	数学教育法ⅠB	Teaching Method of Mathematics ⅠB	峯 拓矢・(中井保行)	2	講義		2	2	
	数学教育法ⅡA	Teaching Method of Mathematics ⅡA	(岩塚 明)	2	講義	2		2	集中授業
	数学教育法ⅡB	Teaching Method of Mathematics ⅡB	(大倉弘之)	2	講義		2	2	集中授業
	理科教育法ⅠA	Teaching Method of Natural Science ⅠA	(滋野哲秀)	2	講義	2		2	
	理科教育法ⅠB	Teaching Method of Natural Science ⅠB	(竹内信行)	2	講義		2	2	
	理科教育法ⅡA	Teaching Method of Natural Science ⅡA	(木戸淑裕)	2	講義	2		2	集中授業
	理科教育法ⅡB	Teaching Method of Natural Science ⅡB	(竹内信行)	2	講義		2	2	集中授業
	情報教育法Ⅰ	Teaching Method of Information Science Ⅰ	水野 修・平田博章・山本高至・布目 淳	2	講義	2		2	集中授業
	情報教育法Ⅱ	Teaching Method of Information Science Ⅱ	水野 修・平田博章・山本高至・布目 淳	2	講義		2	2	集中授業

教育職員免許状取得関連日程

【1～4年次共通事項】

- 1月上旬 翌年度介護等体験の案内
- 2月上旬 翌年度介護等体験申請書提出期限

【2～4年次共通事項】

- 4月上旬 当該年度介護等体験（前期）の受入学校・施設決定
- 4月～9月 当該年度介護等体験（前期）実施
- 5月下旬 当該年度介護等体験（後期）の案内
- 6月中旬 当該年度介護等体験（後期）申請書提出期限
- 9月上旬 当該年度介護等体験（後期）の受入学校・施設決定
- 10月～3月 当該年度介護等体験（後期）実施

※ 介護等体験を行う都道府県によっては、このスケジュールによらないこともある。随時学生情報ポータルの掲示を確認すること。

※ 介護等体験は、中学校教諭一種免許状の取得に必要であり、高等学校教諭一種免許状のみの取得には不要。

※ 介護等体験は原則として、2年次以上で「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」を含む教育の基礎的理解に関する科目等を8単位以上修得している者を対象とする。

【3年次】

- 5月中旬 翌年度教育実習説明会（翌年度卒業見込者対象）
- 6月下旬 教育実習受講調（教育実習予備登録）提出期限
- 9月中旬 出身学校訪問結果報告期限
（京都市教育委員会等の斡旋を受ける者は不要）
- 11月中旬 内諾書（教育実習受入校発行）提出期限

【4年次】

- 4月上旬 卒業研究配属先決定
- 4月下旬 教育実習受講の最終意思確認期限
（4月上旬に教育実習受講調を一旦返却するので、指導教員の承認をもらって再提出）
- 4月下旬 教育実習事前説明会
- 5月上旬 教育委員会斡旋分の教育実習校決定
（京都市立中学校出身者等）
- 5月上旬～6月下旬、9月上旬～9月中旬（受入先の学校によっては、この期間以外の時期に行うこともある）
教育実習実施
- 10月下旬 教育職員免許状授与一括申請説明会
- 11月中旬 教育職員免許状授与一括申請書類提出期限
- 3月下旬 教育職員免許状交付（学位記授与式当日）

教育実習受講資格について

- ① 教育実習を受講する者（次項に該当する編入学者を除く）は、教育の基礎的理解に関する科目等を6単位以上とあわせて、中学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法8単位、高等学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法4単位を取得していなければならない。
- ② 教員免許の課程認定を受けていない大学・短大及び高専からの編入学者については、教育の基礎的理解に関する科目等を2単位以上とあわせて、中学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法8単位、高等学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法4単位取得していればよい。
- ③ 受講資格の確認は、教育実習予定年度の前年度後学期までの成績をもって行う。

【別表1】教育の基礎的理解に関する科目等の一覧表

全課程共通

○印は必修科目を表す。

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学部開設科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	中学校教諭 一種免許状	単位数	高等学校教諭 一種免許状	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原論	2	○ 教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○ 現代教師論	2	○ 現代教師論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○ 教育社会学	2	○ 教育社会学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学	1	○ 教育心理学	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育	1	○ 特別支援教育	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○ 教育課程論	2	○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	○ 道徳教育の理論と方法	2	道徳教育の理論と方法 ※注1	2
	総合的な学習の時間の指導法（中学） 総合的な探求の時間の指導法（高校）		○ 総合的な学習の時間の指導法	1	○ 総合的な学習の時間の指導法	1
	特別活動の指導法		○ 特別活動論	1	○ 特別活動論	1
	教育の方法及び技術		○ 教育方法論 視聴覚教育概説	1 2	○ 教育方法論 視聴覚教育概説	1 2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○ ICT活用論	1	○ ICT活用論	1
	生徒指導の理論及び方法		○ 生徒指導	2	○ 生徒指導	2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○ 教育相談・進路指導論	2	○ 教育相談・進路指導論	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	○ 教育実習Ⅰ ○ 教育実習Ⅲ	4 1	教育実習Ⅰ } 教育実習Ⅱ } ※注2 ○ 教育実習Ⅲ	4 2 1
	教職実践演習	2	○ 教職実践演習（中・高）	2	○ 教職実践演習（中・高）	2
合 計			27単位		23単位	

※注1・・・高等学校教諭一種免許状の場合、「道徳教育の理論と方法」2単位は、免許法に規定する「大学が独自に設定する科目」として合計59単位に算入しますが、「教育の基礎的理解に関する科目等」の23単位には含まれません。

※注2・・・「教育実習Ⅰ」と「教育実習Ⅱ」のうち、いずれか1つ必修

【別表2】教科の指導法に関する科目の一覧表

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学部開設科目					
科目	各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状	単 位 数	高等学校教諭 一種免許状	単 位 数		
教科の指導法 に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	数学教育法ⅠA	} ※注1	2	数学教育法ⅠA	} ※注2	
		数学教育法ⅠB		2	数学教育法ⅠB		
		数学教育法ⅡA		2	理科教育法ⅠA		
		数学教育法ⅡB		2	理科教育法ⅠB		
		理科教育法ⅠA		2	情報教育法Ⅰ		
		理科教育法ⅠB		2	情報教育法Ⅱ		
		理科教育法ⅡA		2	数学教育法ⅡA		
		理科教育法ⅡB		2	数学教育法ⅡB		
					理科教育法ⅡA		} ※注3
					理科教育法ⅡB		
		合 計		8 単位			4 単位

※注1・・・当該教科の指導法について8単位必修

※注2・・・当該教科の指導法について4単位必修

※注3・・・当該教科の指導法（ⅡA/ⅡB）は選択科目

【別表3】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等【別表1】及び教科の指導法に関する科目【別表2】には含まれませんが、下記の科目が必要となります。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設専門科目		備考	
科目	単位数	授業科目	単位数		
日本国憲法	2	○憲法	2		
体育	2	○スポーツ科学Ⅰ	2	2 単位必修	
		○スポーツ科学Ⅱ	2		
外国語コミュニケーション	2	○Interactive English A	1		
		○Interactive English B	1		
数理、データ活用 及び人工知能に に関する科目又は 情報機器の操作	2	○数理、データ活用 及び人工知能に に関する科目	—	—	
		情報機器の操作	○情報処理演習	2	応用生物学課程
			○情報データリテラシー演習	2	応用化学課程
			○プログラミング演習	2	電子システム工学課程
			○情報工学概論	2	情報工学課程
			○機械製図法ⅡA	1	機械工学課程
○機械製図法ⅡB	1				
合計	8	本学の必要単位数		8	

※ 中学校教諭一種免許状の取得には別途一週間程度の介護等体験が必要となります。（申込については学生情報ポータルで連絡しますので留意してください。）

教科に関する科目一覧表

応用生物学課程

【別表4-①】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 理 科	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 理 科
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2)	物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2)
化 学	○ 化 学Ⅰ(2) ○ 化 学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2)	化 学	○ 化 学Ⅰ(2) ○ 化 学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2)
生物学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 遺伝学(2) 細胞生物学(2) 微生物学(2) 動物生理学(2) 植物生理学(2) 生物化学Ⅰ(2) 生物化学Ⅱ(2)	生物学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 遺伝学(2) 細胞生物学(2) 微生物学(2) 動物生理学(2) 植物生理学(2) 生物化学Ⅰ(2) 生物化学Ⅱ(2)
地学	○ 地 学(2) 地球惑星科学入門(2)	地学	○ 地 学(2) 地球惑星科学入門(2)
物理学実験・ 化学実験・ 生物学実験・ 地学実験	○ 物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) ○ 化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) ○ 生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む) 生物機能学・分子生物学実験Ⅰ(4) 生物機能学・分子生物学実験Ⅱ(4) ○ 地学実験(1) (コンピュータ活用を含む)	物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	物理学基礎実験(2)※1 (コンピュータ活用を含む) 化学基礎実験(2)※2 (コンピュータ活用を含む) 生物学基礎実験A(2)※3 (コンピュータ活用を含む) 生物機能学・分子生物学実験Ⅰ(4) 生物機能学・分子生物学実験Ⅱ(4) 地学実験(1)※4 (コンピュータ活用を含む) ※1～4のうち、いずれか1つは必修
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	31単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-①】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-①】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

応用化学課程

【別表4-②】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 理 科	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 理 科
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
物理学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2) 高分子物性(2) 統計物理学(2) 高分子分子物性(2) 高分子構造学(2) ナノ材料物理化学(2) 高分子レオロジー(2) 固体物性論(2) 固体熱力学(2) 	物理学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2) 高分子物性(2) 統計物理学(2) 高分子分子物性(2) 高分子構造学(2) ナノ材料物理化学(2) 高分子レオロジー(2) 固体物性論(2) 固体熱力学(2)
化 学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学Ⅰ(2) ○ 化学Ⅱ(2) 物理化学ⅠA(1) 物理化学ⅠB(1) 物理化学ⅡA(1) 物理化学ⅡB(1) 物理化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅳ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2) 化学工学Ⅱ(2) 高分子化学(2) 無機材料科学Ⅰ(2) 無機材料科学Ⅱ(2) 有機機器分析(2) 有機反応化学(2) 精密合成化学(2) 精密材料化学(2) 応用分析化学(2) 生物化学工学(2) 	化 学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学Ⅰ(2) ○ 化学Ⅱ(2) 物理化学ⅠA(1) 物理化学ⅠB(1) 物理化学ⅡA(1) 物理化学ⅡB(1) 物理化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅳ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2) 化学工学Ⅱ(2) 高分子化学(2) 無機材料科学Ⅰ(2) 無機材料科学Ⅱ(2) 有機機器分析(2) 有機反応化学(2) 精密合成化学(2) 精密材料化学(2) 応用分析化学(2) 生物化学工学(2)
生物学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 生化学Ⅰ(2) 生化学Ⅱ(2) 生化学Ⅲ(2) 生体分子工学(2) 	生物学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 生化学Ⅰ(2) 生化学Ⅱ(2) 生化学Ⅲ(2) 生体分子工学(2)
地学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地 学(2) 地球惑星科学入門(2) 	地学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地 学(2) 地球惑星科学入門(2)
物理学実験・ 化学実験・ 生物学実験・ 地学実験	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) ○ 化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) ○ 生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む) ○ 地学実験(1) (コンピュータ活用を含む) 	物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	<ul style="list-style-type: none"> 物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) 化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む) 生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む) 地学実験(1) (コンピュータ活用を含む) 上記のうち、いずれか1つは必修
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	31単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-②】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-②】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

電子システム工学課程

【別表4-③】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)
コンピュータ	○ 情報・データリテラシー(2) コンピュータシステム(2) デジタル電子回路(2) 光学基礎(2) 論理設計(2)	コンピュータ	○ 情報・データリテラシー(2) コンピュータシステム(2) デジタル電子回路(2) 光学基礎(2) 論理設計(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-③】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-③】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

情報工学課程（数学）

【別表4-④】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2) 情報セキュリティ(2)	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2) 情報セキュリティ(2)
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2) 離散数学(2) AI・データサイエンス基礎(2)	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2) 離散数学(2) AI・データサイエンス基礎(2)
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数理解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数理解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)
コンピュータ	○ プログラミングⅠ(2) ○ プログラミングⅡ(2) コンピュータシステム(2) 論理設計(2)	コンピュータ	○ プログラミングⅠ(2) ○ プログラミングⅡ(2) コンピュータシステム(2) 論理設計(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-④】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-④】の合計(※)	59

(※) 別表3（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

情報工学課程（情報）

【別表4-⑤】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 情 報
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	○ 情報セキュリティと情報倫理(2) 情報・データリテラシー概論(2)
コンピュータ及び 情報処理	○ データ構造とアルゴリズム(2) ○ ソフトウェア演習Ⅰ(2) ○ ソフトウェア演習Ⅱ(2) ソフトウェア工学(2) プログラミング言語論(2)
情報システム	○ コンパイラ(2) ○ 言語処理プログラミング(2) ○ オペレーティングシステム(2) AI・データサイエンス応用(2) データベースⅠ(1) データベースⅡ(1)
情報通信 ネットワーク	○ 情報ネットワーク(2) ○ ネットワークプログラミングⅠ(1) ○ ネットワークプログラミングⅡ(1) 情報理論(2)
マルチメディア 表現及び技術	○ 情報システムプログラミングⅠ(1) ○ 情報システムプログラミングⅡ(1) ヒューマンインタフェース(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上
【別表1】、【別表2】及び 【別表4-⑤】の合計(※)	59

(※)別表3（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

機械工学課程

【別表4-⑥】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)※1	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)※1
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)※1	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)※1
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2)※1	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2)※1
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)※1	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)※1
コンピュータ	○ コンピュータミルーション基礎学A(1) ○ コンピュータミルーション基礎学B(1) データサイエンス(1) 情報・データリテラシー(2)※2 コンピュータシステム(2)※3	コンピュータ	○ コンピュータミルーション基礎学A(1) ○ コンピュータミルーション基礎学B(1) データサイエンス(1) 情報・データリテラシー(2)※2 コンピュータシステム(2)※3
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※4)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※4)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-⑥】の合計(※4)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-⑥】の合計(※4)	59

※1の科目は、院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。大学院機械物理学専攻及び機械設計学専攻において、数学の教育職員免許状(専修免許状)の取得を希望する者は、大学院科目の下履修又は大学院進学後に取得することを推奨する。

※2の科目は、電子システム工学課程において開講する。

※3の科目は、電子システム工学課程及び情報工学課程において開講する。

※4：別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

Ⅶ. 建築士試験の受験資格の取得について

デザイン・建築学課程では、課程の定める科目を所定の単位数以上取得し卒業すれば、二級建築士試験および木造建築士試験の受験資格が得られます。なお、建築課題コースに進んだ者が、課程の定める一級建築士に必要な科目を所定の単位数以上取得し卒業すれば、一級建築士試験の受験資格が得られます。また、本学卒業後、二級建築士の免許を得た者は、一級建築士試験の受験資格が得られます。

Ⅷ. 修習技術者資格の取得について

機械工学課程の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を受けています。本課程の卒業生は、国家試験技術士第一次試験が免除され、直接「修習技術者」として実務修習に入ることができます。その後、実務修習プログラムにしたがって4年以上の経験を積むと、国家試験技術士第二次試験の受験資格を取得することができます。

Ⅸ. 甲種危険物取扱者試験の受験資格の取得について

応用化学課程を卒業すると、甲種危険物取扱者試験の受験資格を取得することができます。

X. 自然再生士補資格の取得について

自然再生士は、損なわれた自然環境を様々な角度から分析し、構想、計画、設計、施工、管理という事業の各段階で行われる業務や活動において、この事業に係わる人々をリードし、事業全体をコーディネートするとともに、自ら担当する自然再生を実行する能力を有する者の資格です。

自然再生士補は、自然再生士が行う業務・活動を補佐し、自ら行う自然再生にかかわる業務・活動に際して、適切な調査、分析、処理、管理を行う能力を有する者の資格です。詳細は（一財）日本緑化センターHP（<http://www.jpgreen.or.jp/>）を参照してください。

本学応用生物学課程では、下に掲げる自然再生士補資格に関する科目を、所定の単位数修得すれば、自然再生士補の資格を取得することができます。（応用生物学課程以外の学生が、所定の単位を修得しても、資格は取得できません。）

また、自然再生士補資格取得後、1年間の実務経験を積むことにより、自然再生士の受験資格を得ることができます。

自然再生士補資格取得のための授業科目の種類と単位数

実験・実習分野より3科目6単位数以上、および、講義分野より2科目4単位数以上、合計5科目10単位数以上の取得を要する。

分野	授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	週授業時間数								備考	下履修	
							1年次		2年次		3年次		4年次				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
実験・実習	自然観察学	Field Observation and Survey of Living Nature		秋野順治・堀元栄枝・都丸雅敏・長岡純治	1	講義・演習	2										
	生物学基礎実験A	Laboratory Work in Fundamental Biology A		応用生物学課程関係教員	2	実験			6								
	生物生産学実習	Field Work in Agriculture		秋野順治・堀元栄枝・長岡純治	2	講義・演習	4										
	生物機能学・分子生物学実験Ⅰ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology I		応用生物学課程関係教員	4	実験				12							
	生物機能学・分子生物学実験Ⅱ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology II		応用生物学課程関係教員	4	実験					12						
	基礎研究・演習	Basic Research and Seminar		応用生物学課程関係教員	6	実験・演習							12				集中授業 全学共通科目と専門教育科目の総取得単位数が100以上であること。ただし、当該年度の3年次編入者については課程長の判断により履修を許可することがある。
講義	地球環境論	Global Environmental Science		布施泰朗・初雪	2	講義	2										
	環境マネジメント	Environmental Management		布施泰朗	1	講義				1							集中講義
	資源生物と環境	Bioresource and Environment		秋野順治・長岡純治・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	2										
	動物生理学	Animal Physiology		吉村亮一	2	講義				2							
	植物生理学	Plant Physiology		半場祐子	2	講義					2						※
	生物学Ⅱ	Biology II	応生	小谷英治・梅村舞子・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	2										
	環境化学	Environmental Chemistry	ma da	布施泰朗・初雪	2	講義						2					※
	生態分子化学Ⅰ	Ecological Chemistry I		秋野順治	1	講義				2							第3クォーター
	生態分子化学Ⅱ	Ecological Chemistry II		秋野順治	1	講義				2							第4クォーター
栽培環境学	Agro-Environmental Sciences		堀元栄枝	2	講義						2					※	

XI. 関係諸規則等

京都工芸繊維大学通則

昭和24年10月10日制定
最終改正 令和4年3月24日

第1章 総則

第1節 目的

第1条 本学は、工芸及び繊維に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授し、研究することを目的とする。

第2節 学部、学科及び学生定員

第1条の2 本学に、工芸科学部を置く。

2 本学に、学生の教育上の区分として、次の学域を置く。

応用生物学域

物質・材料科学域

設計工学域

デザイン科学域

繊維学域

基盤教育学域

3 工芸科学部に、次の課程を置く。

応用生物学域

応用生物学課程

物質・材料科学域

応用化学課程

設計工学域

電子システム工学課程

情報工学課程

機械工学課程

デザイン科学域

デザイン・建築学課程

第1条の2の2 前条第3項の課程に、学位プログラムを置くことがある。

2 前項の学位プログラムについては、必要に応じて別に定める。

第1条の3 工芸科学部の学生定員は、次のとおりとする。

学域	課程	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
応用生物学域	応用生物学課程	人 50	人	人 200
物質・材料科学域	応用化学課程	169		676
設計工学域	電子システム工学課程	61		244
	情報工学課程	61		244
	機械工学課程	86		344

デザイン科学域	デザイン・建築学課程	156		624
4学域共通			50	100
合計		583	50	2,432

第3節 学年、学期及び休業日

第1条の4 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第2条 学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、教育研究評議会の議を経て、前学期及び後学期の期間を変更することができる。

第3条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業中でも授業を課することがある。

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

日曜日

春季休業 4月1日から4月4日まで

大学創立記念日 5月31日

夏季休業 8月6日から9月30日まで

冬季休業 12月24日から翌年1月6日まで

春季休業 2月19日から3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、教育研究評議会の議を経て、春季休業、夏季休業及び冬季休業の期間を変更することができる。

3 臨時休業日は、そのたびに定める。

第2章 学部学生

第1節 修業年限及び在学年限

第4条 工芸科学部の修業年限は、4年とする。

第4条の2 学生は8年を超えて在学することができない。ただし、第9条、第10条又は10条の2の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第1節の2 入学

第4条の3 工芸科学部への入学は、学年の始めとする。

第5条 工芸科学部に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定

試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第6条 工芸科学部への入学を志願する者は、入学願書に検定料及び別に指定する書類を添えて願い出なければならない。

第6条の2 前条に規定する入学志願者については、学力検査その他の方法により得られた内容、本学が適当と認める資料等を判定して、入学者の選抜を行う。

第7条 前条の入学者選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学誓書その他本学の指定する書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者（入学料の免除又は徴収猶予の申請が受理された者を含む。）に入学を許可する。

第8条 日本の大学において教育を受ける目的をもって入国し、又は入国しようとする外国人で、工芸科学部に入学を志願する者があるときは、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生は、工芸科学部の学生定員の枠外とすることがある。

3 第1項による入学選考については、同項に規定する入学志願者の能力、意欲、適性等を判定して行う。

第9条 次の各号のいずれかに該当する者については、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 本学を卒業した者

(2) 病気その他のやむを得ない事由により本学を退学した者

第10条 次の各号の一に該当する者で、編入学を志願する者があるときは、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は1年以上在学した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第90条の規定による大学入学資格を有する者に限る。第10条の2第3号において同じ。）

第10条の2 次の各号の一に該当する者で、第3年次に編入学を志願する者があるときは、入学を許可する。

(1) 大学を卒業した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(4) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

第10条の3 前3条の規定により入学を許可された者の当該入学以前の既修得単位の取り扱いについては、学部長が定める。

2 第9条及び第10条の規定により入学を許可された者の在学すべき年数については、学部長が定める。

第11条 第6条及び第7条の規定は、第8条、第9条、第10条及び第10条の2の規定により入学を志願する者及び入学選考に合格した者に準用する。

第12条 削除

第2節 教育課程、授業及び単位

第13条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第13条の2 教育課程及び授業に関することは、別に定める。

第13条の3 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1年間に履修科目として登録することができる単位数の制限を行う。

2 前項の規定は、第9条、第10条又は第10条の2の規定により入学を許可された者については、適用しない。

3 履修科目の登録の単位数の制限及びその取り扱いについては、別に定める。

第14条 一の授業科目に対する課程を修了した者には、単位を与える。

第15条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、インターンシップ等の実務を伴う実習については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。

(4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前3号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等については、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

第16条 学生は、他の学域の授業科目を学修し、その単位を修得することができる。この場合において、当該学生は、所属学域長を経て当該学域長の許可を受けなければならない。

第16条の2 教育上有益と認められるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、工芸科学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認められるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、工芸科学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前項により与えることのできる単位数は、第1項により工芸科学部において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第16条の3 教育上有益と認められるときは、工芸科学部の第1年次に新たに入学した者が、入学前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、工芸科学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

- 2 教育上有益と認められるときは、工芸科学部の第1年次に新たに入学した者が、本学に入学前に行った前条第2項に定める学修を、工芸科学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、前条で修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 第1項及び第2項の場合において、第4条に定める修業年限を短縮することはできない。ただし、第38条に規定する科目等履修生として、本学において一定の単位を修得した者が工芸科学部に入学する場合において、当該単位の修得により工芸科学部の教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数（学校教育法第90条の規定による大学入学資格を有した後、修得したものに限る。）及びその他の事項を勘案の上、相当期間を第4条に定める修業年限の2分の1を超えない範囲において通算することができる。

第16条の4 教員の免許状授与の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 工芸科学部において当該所要資格を取得できる教員の普通免許状の種類及び教科は、次のとおりとする。

課程	普通免許状の種類及び教科	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
応用生物学課程	理科	理科
応用化学課程	理科	理科
電子システム工学課程	数学	数学
情報工学課程	数学	数学 情報
機械工学課程	数学	数学

第16条の5 第8条により入学した外国人留学生に対しては、第13条の2に定めるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

第3節 休学

第17条 学生が疾病その他の事由により引き続き3月以上修学することができない場合は、医師の診断書又は詳細な事由書を添え、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て休学することができる。

第18条 学長は、学部長の申出に基づき必要と認めた場合には、休学を命ずることがある。

第19条 休学は、引き続き1年以上にわたることはできない。ただし、特別の事由がある者には、更に1年以内の休学を許可することがある。

第20条 休学期間中にその事由が止んだときは、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て復学することができる。

第21条 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

- 2 休学期間は、第4条に定める修業年限及び第4条の2に定める在学年限に算入しない。

第4節 退学、転学、留学及び除籍

第22条 学生が退学しようとするときは、事由を詳記して学部長を経て学長に願い出、その許可を受けなければならない。

第23条 学生が他の大学に入学又は編入学をするときは、退学の手続きを経なければならない。ただし、他の大学に転学しようとするときは、事由を詳記し、学部長を経て学長に願い出、その許可を受けるものとする。

第23条の2 学生が外国の大学又は短期大学で修学することを志願するときは、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て留学することができる。

2 前項により留学した期間は、第4条に定める修業年限に含めることができる。

3 第16条の2第1項の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

第24条 学生が次の各号の一に該当するときは、学長は、学部長の申出に基づいて除籍する。

(1) 長期にわたって欠席し又は疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められる場合

(2) 第4条の2に定める在学年限を超えた場合

(3) 入学料の免除を願い出て、全部又は一部許可されなかった者が納付すべき入学料を所定の期日までに納付しない場合

(4) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない場合

(5) 退学の手続きを経ないで、他の大学に入学又は編入学をした場合

(6) 死亡した場合

第5節 卒業及び学位

第25条 卒業の要件となる単位の修得に関しては、別に定める。

第26条 工学科学部に第4条に定める年数（第9条から第10条の2までの規定により入学した者については、それぞれの在学すべき年数とし、第16条の3第4項ただし書の規定により修業年限への通算を認められた者については、通算された期間を含む。）以上在学し、卒業の要件となる単位を修得した者については、学長が卒業を認定する。

第27条 前条による卒業者には、学士の学位を授与する。

2 学位には次の区分に従い専攻分野を付記する。

応用生物学課程の卒業者 農学

応用生物学課程の卒業者を除く全ての卒業者 工学

3 学位に関し必要な規定は、規則で定める。

第6節 学生証

第28条 学生は、本学所定の学生証の交付を受け、常に携帯しなければならない。

第7節 検定料、入学料及び授業料

第29条 検定料、入学料及び授業料の額、徴収方法その他の必要な事項は、国立大学法人京都工芸繊維大学における授業料その他の費用に関する規則（平成16年4月8日制定）に定めるところによる。

第30条 退学し、転学し、除籍され、又は第37条の規定に基づき退学とされた者は、別に定める場合を除くほか、その期の授業料を納付しなければならない。

第31条 第37条の規定に基づき停学とされた者は、その期間中の授業料を納付しなければならない。

第32条 休学の許可を受け、又は休学を命じられたときは、月割計算により休学当月の翌月から、復学当月の前月までの授業料を免除する。ただし、許可又は命令の日が当該授業料の徴収時期後である場合を除く。

第33条 大規模な風水害等の災害を受けたと認められる者に係る検定料の納付については、検定料の全部を免除することがある。

2 検定料の免除に関し必要な規定は、規則で定める。

第34条 経済的理由によって入学料及び授業料の納付が困難であると認められ、かつ、学業優秀と認めるときその他やむを得ない事情があると認めるときは、入学料及び授業料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。

2 入学料及び授業料の免除及び徴収猶予に関し必要な規定は、規則で定める。

第35条 国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に基づく国費外国人留学生については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

第8節 賞罰

第36条 学生で他の模範となる行為のあった場合は、学長は、表彰することがある。

第37条 学生で本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反する行為のあった場合は、学長は、懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学又は退学とする。

3 前項の退学は、次の各号に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第3章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、特別受入学生及び国際交流学生

第38条 工芸科学部において、特定の授業科目を履修しようとする者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

3 科目等履修生に関し必要な規定は、規則で定める。

第39条 工芸科学部において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関し必要な規定は、規則で定める。

第40条 削除

第41条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生を特別聴講学生として入学を許可し、工芸科学部の授業科目を履修させ、単位を修得させることがある。

2 特別聴講学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第41条の2 本学が実施する人材育成事業に際し、当該事業に関連する他の団体等（以下「関連団体等」という。）との協議に基づき、当該関連団体等の推薦する者を特別受入学生として入学を許可することがある。

2 特別受入学生は、特定の課題研究のほか、当該事業に関連する授業科目を履修することがある。

3 特別受入学生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

4 特別受入学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第41条の3 本学が外国の大学又は研究機関と締結する国際交流協定及び学生交流覚書に基づき、当該外国の大学又は研究機関が派遣する学生を国際交流学生として入学を許可することがある。

2 国際交流学生は、特定の研究課題について研究指導を受け、又は授業科目を履修する。

3 国際交流学生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

4 国際交流学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第42条から第45条まで 削除

第4章 削除

第46条から第48条まで 削除

第5章 大学院

第49条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関し必要な規定は、規則で定める。

第50条 削除

第6章 削除

第51条 削除

第7章 削除

第51条の2 削除

第8章 削除

第52条 削除

第9章 寄宿舍及び国際交流会館

第53条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な規定は、規則で定める。

第53条の2 本学に国際交流会館を置く。

2 国際交流会館に関し必要な規定は、規則で定める。

第10章 公開講座

第54条 本学に公開講座を開設することがある。

2 公開講座に関し必要な規定は、規則で定める。

附 則（略）

京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

平成18年4月3日制定
最終改正 令和8年3月26日

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人京都工芸繊維大学通則（昭和24年10月10日制定。以下「通則」という。）第13条の2の規定に基づき、工芸科学部学生の履修等について必要な事項を定める。

(教育課程)

第1条の2 教育課程は、別表第1に掲げる教育研究上の目的に基づき、工芸科学部長の申出を踏まえ、学長が定める。

(履修区分)

第2条 教育上必要がある場合は、各課程に履修コースを置くことがある。

2 履修コースの選考の方法については、別に定める。

(授業科目及び単位)

第3条 教育課程の授業科目は、全学共通科目及び専門教育科目に分ける。

2 前項の全学共通科目は、英語教育科目、基盤教養科目、実践教養科目及び高年次配当科目に分け、専門教育科目は、専門導入科目、専門基礎科目及び課程専門科目に分ける。

3 各授業科目は、必修科目、選択必修科目及び選択科目に分ける。

4 授業科目名及び単位数は、それぞれ別表第2、別表第3、別表第4、別表第5及び別表第6のとおりとする。

第4条 各授業科目の単位は、通則第15条に定める基準によって計算する。

(卒業認定の要件)

第5条 卒業の認定を受けるために修得すべき単位数は、別表第7のとおりとする。

(授業時間割)

第6条 授業時間割は、学年又は学期の開始日までに学生に公示する。

(受講登録)

第7条 学生は、定められた期間内に受講登録をするものとする。ただし、当該科目担当教員の承認を必要とすることがある。

2 履修しようとする授業科目は、授業時間割の上で同一時間に重複して受講登録することはできない。

3 前学期及び後学期にわたり開講される授業科目（以下「通年科目」という。）は、前学期に受講登録するものとする。

4 一の授業科目の単位を分割して修得することはできない。

5 受講登録後の変更は認めない。ただし、やむを得ない事情による場合には、所定の期間内に限り認めることがある。

6 通年科目を1つの学期に履修し、休学又は授業の都合によって次学期に継続して履修できない場合は、担当教員の承認を得て、次年度以降において履修することができる。

第8条 学生は、学期ごとに定める期間に限り、受講登録した授業科目のうち、次に掲げる授業

科目を除き、履修の中止を申し出ることができる。

(1) 必修科目

(2) 演習（全学共通科目を除く。）、実験、実習又は実技により行う授業科目（講義との併用を含む。）

2 前学期に前項の規定により履修を中止した授業科目の単位数については、5単位を限度に履修科目として登録した単位数から除外することができる。

第9条 通則第13条の3の規定に基づき、学生が1年間に履修科目として受講登録することのできる単位数は、別表第8のとおりとする。ただし、集中科目、単位互換科目、教職関係科目、学芸員資格に関する科目、卒業要件外科目及び日本語科目等の単位は、これに含まないものとする。

第10条 前年度の成績において、別表第9に定める成績を修めた学生については、10単位を限度として、前条に定める登録上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることがある。

2 課程長が、教育上特に必要と認めた場合は、10単位を限度として、前条に定める登録上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることがある。

第11条 学生が既に履修し合格した授業科目（教職関係科目、学芸員資格に関する科目及び単位互換科目を除く）のうち再度履修する場合は、申請によりこれを認めることがある。

2 前項の規定により再度履修する授業科目（以下「再履修科目」という。）の成績は、再履修結果に基づく成績とし、再履修科目の受講登録が承認されると同時に再履修前の成績は失効する。

3 前項により卒業研究（地域創生 Tech Program の学生にあっては卒業プロジェクト。以下同じ。）着手の認定に影響をおよぼす場合は、これを認めない。

4 再履修科目の履修中止は認めない。

（外国人留学生の履修の特例）

第12条 外国人留学生の履修に関しては、第3条に定めるもののほか京都工芸繊維大学外国人留学生の教育課程等の特例に関する規則（平成18年4月1日制定）の定めるところによる。

（単位の修得・成績評価）

第13条 1つの授業科目の修了を認めるには、試験を行い、合格した者には所定の単位を与える。

2 授業科目によっては、試験以外の方法によってその成績を評価することがある。

3 卒業研究は、その審査により成績を評価する。

第14条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又はFをもって表し、S、A+、A、B+、B、C+及びCを合格とし、Fを不合格とする。なお、履修中止をW、単位認定を行った授業科目を認定と表記する。

2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。

評価	評点	ポイント	評価の基準
S	90点 ~ 100点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85点 ~ 89点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80点 ~ 84点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。

B+	75点 ~ 79点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。
B	70点 ~ 74点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。
C+	65点 ~ 69点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60点 ~ 64点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資するため、第1項の成績に当該学年のGPA（Grade Point Average）（当該学生が受講登録をした全ての授業科目（第8条の規定により履修を中止したものを除く。）に係る1単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。）及び入学後の累積のGPAを併記するものとする。

4 GPAは、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる科目は、次の各号に掲げる科目を除く全授業科目とする。

- (1) 単位互換科目
- (2) 単位認定を行った科目
- (3) 卒業要件外科目

$$\text{GPA} = \{ (S \text{の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{の修得単位数} \times 1.0) \} \div \text{総登録単位数 (Fを含む。)}$$

（京都府北部開講科目履修要件）

第14条の2 地域創生 Tech Program の学生が、3年次後学期以降に京都府北部で開講される授業科目を履修しようとするときは、2年半以上在学（編入学者を除く。）し、後学期開始時点において、別表第10に定める単位を修得しているものとする。

（卒業研究履修要件）

第15条 卒業研究を履修しようとする者は、3年以上在学（編入学者を除く。）し、当該年度始めにおいて、別表第11に定める単位を修得しているものとする。

- 2 卒業研究は、在学第4年の後学期以後でなければ提出することができない。
- 3 卒業研究の単位は、他の所要の単位を修得した後でなければ与えない。

（学期試験）

第16条 学期試験（以下「試験」という。）は、当該授業科目の授業終了の学期末に行う。ただし、授業科目によっては、別に試験期日を定めることがある。

2 前項による試験の授業科目及び実施日時等は、原則として試験開始の2週間前に公示する。

第17条 試験期間中であっても、授業を行うことがある。

第18条 学生は、第7条による受講登録をした授業科目について受験することができる。ただし、当該科目担当教員の承認を必要とすることがある。

2 受講登録をした授業科目であっても、出席不良と認められる場合は、受験を許可しないこと

がある。

第19条 不合格となった授業科目について、単位を修得しようとするときは、あらかじめ履修するものとする。

(追試験)

第20条 試験当日、病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者については、本人の願い出により追試験を行うことがある。

2 前項による追試験を希望する者は、所定の願書に医師の診断書その他これに代わる証明書を添え、欠席した試験の日を含めて3日以内(休日等を除く。)に学部長に願い出るものとする。

(再試験)

第21条 試験に不合格となった者に対する再試験は行わない。

(受験)

第22条 受験時には、学生証を監督者に提示するものとする。

2 受験者は、試験開始後30分を経過するまでは退室することができない。

3 試験開始後30分を経過した後の受験は認めない。

第23条 受験(レポート、論文等の課題を含む。)の際に不正行為を行ったと認められる者(授業科目担当教員の指示に反してレポート、論文等の課題を作成した者を含む。)は、その学期に受講登録をした全ての授業科目の成績を不合格(判定外)とする。

(教職関係科目)

第24条 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による免許状を受けようとする者のために、別表第12のとおり教職関係科目を置く。

(学芸員資格に関する科目)

第25条 博物館法(昭和26年法律第285号)による学芸員の資格を得ようとする者のために、別表第13のとおり学芸員資格に関する科目を置く。

(成績の公示)

第26条 各授業科目の評価は、当該学期の終わりに学生に通知する。

附 則 (略)

- 別表第1 (略) (「教育研究上の目的」として別頁に記載)
 別表第2 (略) (英語教育科目)
 別表第3 (略) (基盤教養科目)
 別表第4 (略) (実践教養科目)
 別表第5 (略) (高年次配当科目)
 別表第6 (略) (専門教育科目)
 別表第7 (略) (「卒業認定に必要な単位数」として別頁に記載)
 別表第8 (第9条関係)

課 程	登録上限単位数	備 考
応用生物学課程	50	
応用化学課程	50	
電子システム工学課程	50	
情報工学課程	50	
機械工学課程	50	
デザイン・建築学課程	50	

別表第9 (第10条関係)

課 程	前年度の成績
応用生物学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.5以上
応用化学課程	
電子システム工学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが2.5以上
情報工学課程	GPAが2.5以上
機械工学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.0以上
デザイン・建築学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.5以上

- 別表第10 (略) (「京都府北部開講科目履修のために必要な単位数」として別頁に記載)
 別表第11 (略) (「卒業研究履修のために必要な単位数」として別頁に記載)
 別表第12 (略) (教職関係科目)
 別表第13 (略) (学芸員資格に関する科目)

京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項

令和3年4月1日

工芸科学部長

工芸科学研究科長裁定

(趣旨)

第1 この要項は、京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て等に関し、必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2 学生は、授業科目の成績について、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該成績が初めて発表された日から起算して7日以内に、その評価の適切性について確認を行うことができるものとする。

- (1) 成績の誤記入等、授業担当教員の誤りであると思われる場合
- (2) シラバス又は授業担当教員の説明等により周知している成績評価の基準及び方法に照らして、誤りがあると思われる場合
- (3) その他合理的又は客観的な根拠がある場合

(確認手続)

第3 学生は、成績評価の適切性についての確認(以下、「確認」という。)を行いたい場合は、授業担当教員に、直接確認を依頼するものとする。

2 授業担当教員に直接確認することができない場合は、学務課に「成績評価確認願」(様式1)を提出し、確認を依頼することができる。

3 第1項により学生から確認の依頼を受けた授業担当教員は、依頼を受けた日から起算して7日以内に、当該学生に、確認結果を直接回答しなければならない。

4 第2項により学生から学務課を通じて確認依頼を受けた授業担当教員は、依頼を受けた日から起算して7日以内に、「回答書」(様式1の2)により、学務課を通じて当該学生に、確認結果を回答しなければならない。

5 前項の規定にかかわらず、授業担当教員は学務課と協議の上、当該学生に、確認結果を直接、回答書によらず回答することができる。この場合において、授業担当教員は、学務課に学生への回答内容及び回答日を報告しなければならない。

(異議申立て)

第4 第3により確認を行った学生で、授業担当教員の回答に対し異議を申し立てる場合は、「成績評価異議申立書」(様式2)(以下「異議申立書」という。)を学務課を通じて学部長又は研究科長に提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第5 第4による異議申立ての受付期間は、当該成績が初めて発表された日から起算して、原則として14日以内とする。

(審査)

第6 学部長又は研究科長は、第4による異議申立書を受理した場合は、審査委員会を設置して審査を行うものとする。ただし、申立ての内容が第2第1項の各号に該当しない場合は、当該異議申立てを受理せずに却下するものとする。

2 学部長又は研究科長は、前項において、異議申立てを却下する場合は、学務課を通じて、速

やかに当該学生に文書により通知するものとする。

3 審査委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) 学部長又は研究科長

(2) 当該科目を担当する課程長、専攻長又は学科目長 1名

(3) 学部長又は研究科長が指名するもの（前号に掲げる者を除く。） 1名

4 前項第1号に掲げる者が異議申し立ての対象となる授業科目の担当教員に含まれるときは、当該者の代わりに副学部長又は副研究科長がその任に当たるものとする。

5 第3項第2号に掲げる者が異議申し立ての対象となる授業科目の担当教員に含まれるときは、当該者の代わりに第3項第1号に掲げる者が別に指名する者をもって充てるものとする。

6 審査委員会は、当該学生と授業担当教員に対して意見聴取を行うとともに、授業担当教員に成績判定に用いた資料の提出を求め、異議申立書に基づき、審査を実施するものとする。

7 審査委員会は、必要に応じて授業担当教員の所属する課程、専攻等から意見を聴取することができる。

（審査結果の通知及び対応）

第7 審査委員会は、学務課を通じて、当該学生及び授業担当教員に審査結果を文書（様式3及び様式4）により通知するものとする。

2 審査の結果、成績の修正が適当と判定された場合は、授業担当教員は速やかに判定に従い、成績について変更する措置を講じなければならない。

3 審査結果に対し、学生は再審査を請求することはできない。

（その他）

第8 この要項に定めるもののほか、成績評価に対する異議申し立てに関し必要な事項は、学部長及び研究科長が別に定める。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から実施する。

警報発令時等における授業・試験の取扱いについて

平成27年4月8日

工学科学部長

工学科学研究科長裁定

最終改正 令和7年1月23日

第1 松ヶ崎キャンパス及び嵯峨キャンパスにおける授業又は試験の実施に際し、次の各号のいずれかに該当する場合は、学生の安全確保等のため、当該日の授業を休止又は試験を延期する。

- (1) 京都市又は京都市を含む地域に特別警報又は暴風警報が発令された場合
- (2) 京都市営バス及び京都市営地下鉄の運行が全面停止の場合
- (3) JR西日本（京都駅発着の在来線）、阪急電鉄（大阪梅田駅・京都河原町駅間）、京阪電気鉄道（淀屋橋駅又は中之島駅・出町柳駅間）及び近畿日本鉄道（大和西大寺駅・京都駅間）の4交通機関のうち、3以上の交通機関の運行が全面又は一部停止の場合

2 前項第3号の京都駅発着の在来線とは、京都線及び神戸線の一部（神戸駅・京都駅間）、琵琶湖線（米原駅・京都駅間）、湖西線の一部（近江今津駅・京都駅間）、嵯峨野線（園部駅・京都駅間）並びに奈良線及び関西本線の一部（奈良駅・京都駅間）のいずれかをいう。

3 第1項第3号の一部停止の場合とは、交通機関ごとに次の区間で停止している場合をいう。

- (1) JR西日本 JR京都駅を含む区間
- (2) 阪急電鉄 阪急烏丸駅を含む区間
- (3) 京阪電気鉄道 京阪出町柳駅を含む区間
- (4) 近畿日本鉄道 近鉄京都駅を含む区間

第2 福知山キャンパスにおける授業又は試験の実施に際し、福知山市又は福知山市を含む地域に特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大雪警報、大雨警報又は洪水警報（以下「警報等」という。）が発令された場合は、学生の安全確保等のため、当該日の授業を休止又は試験を延期する。

第3 第1及び第2の規定にかかわらず、次の各号に掲げる時間までに警報等の解除又は交通機関の運行の再開（以下「解除等」という。）が行われた場合は、当該各号の規定により授業又は試験を実施する。

- (1) 午前6時00分までに解除等が行われた場合 1時限から実施
- (2) 午前6時00分以降午前10時00分までに解除等が行われた場合 3時限から実施
- (3) 午前10時00分以降午後3時00分までに解除等が行われた場合 6時限から実施

第4 警報等の発令又は解除及び交通機関の運行の確認は、インターネット、テレビ、ラジオ等の報道による。

第5 授業又は試験が実施されている場合において、天災等に起因する交通機関の乱れ、避難行動等により、やむを得ず授業又は試験に遅刻又は欠席したときは、学生は、授業担当教員に所定の届出を行うものとする。

2 前項の届出を受けた授業担当教員は、届出を行った学生に対し、無断の遅刻や欠席として取り扱わない等、一定の配慮を行うものとする。

第6 第1及び第2の規定にかかわらず、オンラインによる授業又は試験については、授業担当教員の判断により、当該日の授業又は試験を実施することができる。

第7 この取扱いに定めるもののほか、学長、工学科学部長又は工学科学研究科長が、学生の安全確保等のため必要と認めるときは、授業を休止又は試験を延期することができる。

附 則

この取扱いは、平成27年4月8日から実施する。

附 則

この取扱いは、平成30年8月2日から実施する。

附 則

この取扱いは、令和7年4月1日から実施する。

授業日の振替えに関する要項

平成27年4月8日
工学科学部長・工学科学研究科長裁定

各学期の授業期間（後学期の予備日を除く。）において、各曜日の授業日数（毎週1回の授業の場合。）が15日未満の場合には、責任ある授業運営及び十全な教育活動が行えるよう、総合教育センターにおいて、次年度の授業日数の均衡を図るための調整を行うものとする。

附 則

この要項は、平成27年4月8日から施行する。

Ⅷ. 科目ナンバリング分類表等

令和8年度 科目ナンバリング分類表

(1) 科目ナンバリング

授業科目（学部の全学共通科目、専門教育科目及び大学院の専攻共通科目、専門教育科目等）には、レベルや学問の分類等に応じた特定の番号（ナンバリ）ナンバリングコードは「学部、大学院の別と課程・専攻等」を示す英字と「レベル、学問分野、使用言語」を示す4桁の数字で構成されます。 ■ナン

大分

(2) 科目ナンバリング分類表の見方

科目ナンバリング分類表は、学問分野（中分類・小分類）ごとに各科目を7段階にレベル分けしたものです。それぞれのレベルコードの意味は履修要項の（0：日本語で行う授業、1：英語で行う授業、2：受講者に応じて日本語または英語で行う授業（状況に応じて使用言語を変更する）、3：英語以外の

(3) 効果

科目ナンバリング分類表を参照することで、学修したい分野について、どのような順序で履修していけばよいか明確になり、体系的な学修を進めることが博士課程3年次までのカリキュラム構造を統一的に理解することができます。

(4) 3×3制度による大学院科目の早期履修

卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格の認定を受けた学部4年次生は、レベルコード5の修士課程科目を4年次に早期履修することができます。

（学部の全学共通科目、学域専門基礎科目および大学院の専攻共通科目） ※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するものではありません。

大分類 PS 全学共通科目(学域共通科目を含む。)

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3	
1. 言語・国際	1. 英語	Interactive English A【1】	Interactive English B【1】	英語で京都【0】	映画で学ぶ英語と文化【0】
		English for Sciences and Humanities A【2】	English for Sciences and Humanities B【2】	セミナー・プロジェクト(PBL/CLIL)【2】	
		Career English Basic【2】	Academic English【2】	TOEIC対策講座Ⅰ【2】	TOEIC 対策講座Ⅱ【2】
		ビジネス英語【2】			
	2. 初修外国語	ドイツ語ⅠA(初級)【4】	ドイツ語ⅠB(初級)【4】	ドイツ語(文化・文学・思想)A【0】	ドイツ語(文化・文学・思想)B【0】
		ドイツ語ⅡA(中級)【4】	ドイツ語ⅡB(中級)【4】	フランス語(文化・文学・思想)A【0】	フランス語(文化・文学・思想)B【0】
		フランス語ⅠA(初級)【4】	フランス語ⅠB(初級)【4】	映画で学ぶドイツ語と文化【0】	
		フランス語ⅡA(中級)【4】	フランス語ⅡB(中級)【4】		
		中国語ⅠA(初級)【4】	中国語ⅠB(初級)【4】		
	3. 日本語	中国語ⅡA(中級)【4】	中国語ⅡB(中級)【4】		
		日本語Ⅰ【2】	日本語Ⅱ【2】	日本語Ⅴ【2】	日本語Ⅵ【2】
		日本語Ⅲ【2】	日本語Ⅳ【2】		
	4. 異文化・国際連携	国際理解【0】	社会文化概説(アメリカ)Ⅱ【0】	国際連携プロジェクトⅠ【0】	国際連携プロジェクトⅡ【0】
		社会文化概説(アメリカ)Ⅰ【0】	異文化コミュニケーション【0】		
		KIT短期海外英語研修【1】			
	1. 歴史・文学・文化	アジアの歴史と文化【0】	日本史【0】	科学と宗教(教養セミナー)【0】	テキストと社会(教養セミナー)【0】
		フランス語圏の文化とジャポニスム【0】	ヨーロッパの歴史と文化【0】	日本語と日本文化Ⅰ【2】	日本語と日本文化Ⅱ【2】
		日本近代精神史【0】	東西文化交流史【0】	ジェンダーと文化(教養セミナー)【0】	科学と哲学(教養セミナー)【0】
		感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	哲学【0】		
比較宗教学【0】		宗教と文化【0】			
西洋文学論【0】		ラテン語【0】			
禅と世界文化【0】		日本近現代文学【0】			
美と芸術【0】		西洋文化論【0】			
文化財学【0】					
2. 政治・経済・現代社会		現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	社会と経済(教養セミナー)【0】	教育と社会(教養セミナー)【0】
		社会学Ⅰ【0】	現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	科学技術と社会(教養セミナー)【0】	ポスト・グローバル化社会を生きる(教養セミナー)【0】
		世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	社会学Ⅱ【0】		
		食ブランディング論【0】	政治学【0】		
		国際政治【0】	生活と経済【0】		
		現代教育論【0】	環境と法【0】		
	現代社会とジェンダー【0】	経済学入門【0】			
	経済学【0】	時事問題で学ぶファンリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】			
	現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)【0】	憲法【0】			
	現代科学と倫理【0】	法学【0】			

(学部の全学共通科目、学域専門基礎科目および大学院の専攻共通科目) ※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するものではありません。受講

大分類 PS 全学共通科目(学域共通科目を含む。)

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3				
2. 社会・産業・文化	3. 技術者・キャリア・リーダーシップ	プレゼンテーション力とは(リベラル アーツ・ゼミナール)[0]	科学技術の人間学[0]	絵画実習 [0]	ものづくりと生命物質科学[0]	インターンシップA [0]	インターンシップB [0]	
		マーケティング入門(リベラルアーツ・ ゼミナール)[0]	リーダーシップ実践 I ～半徑50mのSDGs実践[0]	ものづくりとデザイン科学[0]	ものづくりと設計工学[0]			
		リーダーシップ基礎 I ～関係性を築く対話の技術[0]	リーダーシップ実践 II ～京都市のSDGs実践[0]	会計・財務基礎 [0]	ベンチャー企業経営学[0]			
		リーダーシップ基礎 II ～未来をつくる共創の技術[0]	デザインとブランド[0]	ビジネスと知的財産活用[0]				
		製品の機能から科学を学ぶ(リベラ ルアーツ・ゼミナール)[0]	学習・キャリア戦略論[0]					
		工芸科学基礎[0]	プロジェクトマネジメント入門[0]					
		キャリア教育基礎[0]	アントレプレナーシップ概論[0]					
		実践問題解決セミナー[0]	人権教育[0]					
		企業金融入門[0]	生命倫理と環境倫理[0]					
		知的財産経営論[0]	大学導入セミナー[0]					
		京の産業技術史[0]	京の意匠[0]	科学技術と地域社会[0]	京のまち[0]	地域感性デザイン論[0]	地域プロジェクトマネジメント[0]	
		京都学講座(人間と社会)[0]	京都の文化と文化財[0]					
	京都の文学 I [0]	京都の文学 II [0]						
	現代京都論[0]	京都の歴史 II [0]						
	京都の歴史 I [0]	京都の農林業[0]						
	京都の自然[0]	京都の防災と府民[0]						
	地域連携プロジェクト I [0]	京の知恵 伝統産業の先進的ものづ くり[0]						
	地域連携プロジェクト II [0]	資料で京都(リベラルアーツ・ゼミ ナール)[0]						
	5. 医学・生理学・心理 学	医療人類学[0]	現代医療の人間観[0]	身体運動のバイオメカニクスA[0]	人と運動(教養セミナー)[0]			
		医療と社会[0]	医学概論 I [0]	身体運動のバイオメカニクスB[0]	人と環境(教養セミナー)[0]			
		食と健康の科学[0]	医学概論 II [0]	生体行動科学特論A[0]				
		キャンパスヘルス概論[0]	パフォーマンス分析セミナー[0]	生体行動科学特論B[0]				
		認知心理学[0]	現代社会と心[0]					
		こころの科学[0]	健康と地域探訪セミナー[0]					
		やさしい看護学[0]	生体行動科学A[0]					
		発達心理学[0]	生体行動科学B[0]					
		スポーツ科学 I [0]	質問調査法セミナー[0]					
		生涯スポーツ[0]	実験心理学セミナー[0]					
健康体力科学[0]		スポーツ科学 II [0]						
大学生活とメンタルヘルス[0]		コミュニケーションの心理学[0]						
3. 数理・イノベーション	1. 数学	人と自然と数学α I [0]	人と自然と数学β [0]	線形代数 I [0]	線形代数 II [0]	応用解析 [0]	応用幾何 [0]	
		人と自然と数学α II [0]		基礎解析 I [0]	基礎解析 II [0]	数理解析 [0]	応用数理 [0]	
				解析学 I [0]	解析学 II [0]			
				数学演習 I [0]	数学演習 II [0]			
				統計数理 [0]				
	2. 物理学	レーザで測る、劇る、楽しむ(リベラ ルアーツ・ゼミナール)[0]		物理学 I [0]	物理学 II [0]	量子力学 [0]	統計力学[0]	
				物理学基礎実験 [0]	物理学実験法及び基礎実験 [0]	熱力学[0]		
	3. 化学			カ学 [0]				
		化学概論 I [0]	化学概論 II [0]	化学 I [0]	化学 II [0]	環境化学 [0]	化学工学 I [0]	
		科学史[0]	光と色彩のサイエンス[0]	物理化学 I A[0]	物理化学 II A[0]			
				物理化学 I B[0]	物理化学 II B[0]			
				物理化学 III[0]	無機化学 I [0]			
				有機化学 I [0]	有機化学 II [0]			
				分析化学[0]	高分子化学[0]			
				化学基礎実験[0]	物理化学演習[0]			
				有機化学演習[0]				
		4. 生物学	生物学概論 I [0]	生物学概論 II [0]	生物学 I [0]	生物学 II [0]		
	生命科学講話[0]		意外と知らない植物の世界(リベラ ルアーツ・ゼミナール)[0]	生物学基礎実験A [0]	資源生物と環境 [0]			
	生物学的人間学[0]	人間生物学[0]						
	5. 地球・環境科学	エネルギー科学[0]	地球環境論[0]	環境マネジメント[0]		地学 [0]	地学実験 [0]	
		環境問題と持続可能な社会[0]				地球惑星科学入門 [0]		
	6. 情報科学	情報セキュリティと情報倫理[0]		情報・データリテラシー概論 [0]	情報処理演習 [0]	学術国際情報 [0]	先端情報工学概論[0]	
				情報データリテラシー演習 [0]	AI・データサイエンス I [0]			
				情報リテラシー概論[0]	AI・データサイエンス II [0]			
	7. 繊維科学			繊維科学基礎[0]	先端繊維科学 [0]	サステイナブルマテリアル[0]	複合材料科学[0]	
						染色科学[0]	生物繊維材料学[0]	
						先端複合材料学[0]		

登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

大分類 PS 全学共通科目(学域共通科目を含む。)

大分類 PS 全学共通科目(学域共通科目を含む。)

修士課程 2年

博士課程 3年

× **3** × **3**

レベルコード 4	レベルコード 5 ※学部生で卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者も履修可能	レベルコード 6	レベルコード 7
	ビジネスエンジニアリング論【0】 先端材料科学論【0】 イノベーションの社会実装化メソッド論【0】	大学院生のためのメンタルヘルスとハラスメント【0】 研究成果の社会実装化リーガル戦略論【0】	ジョブ型研究インターンシップ【0】 ビジネスエンジニアリング特論【0】 先端材料科学特論【0】 IGP知的財産権特論【1】 環境調和型活用産業創出特論【1】
	京都の工芸と文化【0】	学術・研究倫理【0】 インターンシップ I 【0】 インターンシップ II 【0】 IGP 知的財産権論【1】 環境調和型活用産業創出論【1】 プロジェクト・マネジメント【1】 ビジネス・ファンダメンタル論【0】	研究成果の社会実装化リーガル戦略特論【0】 イノベーションの社会実装化メソッド特論【0】 プロジェクト・マネジメント特論【1】 ビジネス・ファンダメンタル特論【0】 環境調和型産業創出特論【1】
	人と運動(高等教養セミナー)【0】	人と環境(高等教養セミナー)【0】	応用運動生理学【2】
数理応用代数【0】 数理応用幾何【2】 数理応用解析【0】 データサイエンスの数理【2】	代数学セミナー【0】 幾何学セミナー【2】 解析学セミナー【2】 確率論セミナー【2】 数理科学特論 I a【0】 数理科学特論 I b【0】	数理応用代数【0】 数理応用幾何【2】 数理応用解析【0】 データサイエンスの数理【2】 数理科学特論 II a【0】 数理科学特論 II b【0】	数理解析学【2】 データサイエンスの数理【2】 応用解析学【2】
	環境化学特論【2】		
	人工知能(機械学習)応用論【0】	IoTシステム構成論【0】	

(応用生物学課程, 応用生物学専攻, バイオテクノロジー専攻分) ※授業科目の配当年次とレベル

大分類 AB 応用生物学課程

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2		レベルコード 3	
1. 応用生物学 実験／実習	1. 演習	専門導入ゼミ【0】	(情報処理演習)		(学術国際情報)	
		地域課題導入セミナー I【0】			地域創生課題セミナー II【0】	
		地域課題導入セミナー II【0】			ものづくりインターンシップ II【0】	
	2. 実験／実習					基礎研究・演習【0】
						地域創生課題セミナー I【0】
						ものづくりインターンシップ I【0】
			自然観察学【0】	生物機能学・分子生物学実験I【0】	生物機能学・分子生物学実験II【0】	
		生物生産学実習【0】	(生物学基礎実験A)			
		(化学基礎実験)				
2. 応用生物学 専門コア科目	1. 生物学／機能系		細胞生物学【0】	動物生理学【0】	植物生理学【0】	
			微生物学【0】	遺伝学【0】	生命科学のデータサイエンス演習 I【0】	
			生物統計学【0】	資源生物と環境【0】	生命科学のデータサイエンス演習 II【0】	
	2. 生化学／分子系		生物化学 I【0】	生物化学 II【0】	昆虫工学【0】	
			生態分子化学 I【0】	分子生物学【0】	発生工学【0】	
			生態分子化学 II【0】			
3. 応用生物学 専門アドバンス科目	1 生物学／機能系		資源昆虫生産学実験実習【0】	生物基礎英語演習【2】	神経科学【0】	
			栽培環境学【0】	昆虫生理生態学【0】	運動機能学【0】	
					生命応答学【0】	
	2. 生化学／分子系				細胞工学【0】	
					植物機能科学【0】	
					モデル生物学【0】	

(応用化学課程, 物質合成化学専攻、機能性物質化学、材料創製化学専攻、材料制御化学専攻分、物質・材料化学専攻)※授業科目の配当年

大分類 AP 応用化学課程

大分類 IM 材料創製化学専攻, MC 材料制御化学専攻, MS 物質

学士課程 4年

修士課程 2年

3×3(スリーバイスリー)

3

×

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3	レベルコード 4	レベルコード 5 ※学部生で卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者も履修可能	
1. 実習系	1. 実験			応用化学実験Ⅰ【0】 ものづくりインターンシップⅡ【0】	卒業研究【0】 卒業プロジェクト【0】		
				応用化学実験Ⅱ【0】 ものづくりインターンシップⅠ【0】			
		2. セミナー	地域課題導入セミナーⅠ【0】	応用化学序論Ⅱ【0】	地域創生課題セミナーⅡ【0】		
	地域課題導入セミナーⅡ【0】		コースゼミ【0】				
	応用化学序論Ⅰ【0】			地域創生課題セミナーⅠ【0】			
2. 物理系	1. 物性基礎			統計物理学【0】 振動・波動【0】 シミュレーション物理学【0】		熱・統計物理学(MC)【2】	
3. 物理化学系	1. 熱力学・反応速度			固体熱力学【0】		原子分子物理化学(MC)【2】	
	2. 量子物理化学			分子量子化学【0】		有機・高分子光物性工学(IM,MC)【2】 分子機能設計(IM)【2】 無機材料物性学(IM,MC)【2】	
4. 無機・分析化学系	1. 無機化学・固体化学		無機化学Ⅱ【0】 無機化学演習【0】	固体物性論【0】		ガラス・アモルファス材料科学(IM)【2】 無機材料応用科学Ⅰ(IM,MC)【2】 無機構造材料科学(MC)【2】 無機材料応用科学Ⅱ(IM,MC)【2】	
	2. 無機材料化学			金属材料学【0】 無機材料科学Ⅰ【0】 無機材料科学Ⅱ【0】			
	3. 分析化学		応用分析化学【0】	有機機器分析【0】 材料機器分析概論A・B【0】		分離分析化学(FC)【2】 分離媒体設計論(MS)【2】	
5. 有機化学系	1. 有機反応化学		有機化学Ⅲ【0】	有機化学Ⅳ【0】 精密合成化学【0】 有機反応化学【0】 有機金属化学【0】		有機ヘテロ原子化学(MS)【2】 有機反応制御化学(MS)【2】 触媒反応設計論(MS)【2】	
	2. 有機材料化学			有機材料設計【0】 精密材料化学【0】		有機分子材料化学(MS)【2】 有機無機ハイブリッド化学(MS)【2】 有機精密材料科学(MS)【2】	
6. 高分子材料系	1. 高分子合成			高分子材料化学【0】 高分子合成化学【0】		高分子物質設計論(MS)【2】 高分子設計論(IM,MC)【2】	
	2. 高分子構造			高分子レオロジー【0】 高分子構造学【0】		階層構造形成論(IM,MC)【2】 高分子構造・力学(MC)【2】	
	3. 高分子物性		高分子物性【0】	ナノ材料物理化学【0】 高分子分子物性【0】		光電子材料化学(IM)【2】 高分子物性論(MC)【2】 ナノ材料物性(IM, MC)【2】	
7. 生体・環境化学系	1. 生体関連化学		生化学Ⅰ【0】	生化学Ⅱ【0】 機能分子化学Ⅰ【0】 生体分子工学【0】 生化学Ⅲ【0】 機能分子化学Ⅱ【0】		生体反応機構論(FC)【2】 高分子生化学機能(FC)【2】 生体制御分子設計(FC)【2】 タンパク質機能構造(FC)【2】 応用生命科学(FC)【2】	
	2. 天然物質・繊維系					バイオメディカル化学(IM, FC)【2】	
	3. 環境・化学工学			化学工学Ⅱ【0】 生物化学工学【0】 環境と高分子【0】		化学工学特論(MS,FC)【2】	

次とレベルは必ずしも一致するものではありません。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

合成化学専攻, FC 機能物質化学専攻

大分類 MC 物質・材料化学専攻

博士課程 3年

3

レベルコード 6			レベルコード 7
材料創製化学特別実験及び演習 I (IM) [0]	材料創製化学特別実験及び演習 II (IM) [0]	材料創製化学特別実験及び演習 III (IM) [0]	物質・材料化学特別演習 I [0]
材料創製化学特別実験及び演習 IV (IM) [0]	材料創製化学特別実験及び演習 I D (IM) [0]	材料創製化学特別実験及び演習 II D (IM) [0]	物質・材料化学特別演習 II [0]
材料創製化学特別実験及び演習 III D (IM) [0]	材料創製化学特別実験及び演習 IV D (IM) [0]	材料創製化学インターンシップ I (IM) [0]	物質・材料化学インターンシップ [0]
材料創製化学インターンシップ II (IM) [0]	Internship/Professional training (IM,MC)[1]	国際インターンシップ (IM) [2]	研究指導 [2]
特別研究 (IM) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 I (IM) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 II (IM) [2]	国際科学技術特別演習 I [2]
国際科学技術特別実験及び演習 III (IM) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 IV (IM) [2]		国際科学技術特別演習 II [2]
材料制御化学特別実験及び演習 I D (MC) [0]	材料制御化学特別実験及び演習 II D (MC) [0]	材料制御化学特別実験及び演習 III D (MC) [0]	
材料制御化学特別実験及び演習 IV D (MC) [0]	材料制御化学特別実験及び演習 I (MC) [0]	材料制御化学特別実験及び演習 II (MC) [0]	
材料制御化学特別実験及び演習 III (MC) [0]	材料制御化学特別実験及び演習 IV (MC) [0]	材料制御化学インターンシップ I (MC) [0]	
材料制御化学インターンシップ II (MC) [0]	特別研究 (MC) [2]	国際インターンシップ (MC) [2]	
国際科学技術特別実験及び演習 I (MC) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 II (MC) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 III (MC) [2]	
国際科学技術特別実験及び演習 IV (MC) [2]			
物質合成化学特別実験及び演習 I (MS) [0]	物質合成化学特別実験及び演習 II (MS) [0]	物質合成化学特別実験及び演習 III (MS) [0]	
物質合成化学特別実験及び演習 IV (MS) [0]	物質合成化学インターンシップ I (MS) [0]	物質合成化学インターンシップ II (MS) [0]	
特別研究 (MS) [2]	国際インターンシップ (MS) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 I (MS) [2]	
国際科学技術特別実験及び演習 II (MS) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 III (MS) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 IV (MS) [2]	
機能物質化学特別実験及び演習 I (FC) [0]	機能物質化学特別実験及び演習 II (FC) [0]	機能物質化学特別実験及び演習 III (FC) [0]	
機能物質化学特別実験及び演習 IV (FC) [0]	機能物質化学特別実験及び演習 I D (FC) [0]	機能物質化学特別実験及び演習 II D (FC) [0]	
機能物質化学特別実験及び演習 III D (FC) [0]	機能物質化学特別実験及び演習 IV D (FC) [0]	機能物質化学インターンシップ I (FC) [0]	
機能物質化学インターンシップ II (FC) [0]	特別研究 (FC) [2]	国際インターンシップ (FC) [2]	
国際科学技術特別実験及び演習 I (FC) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 II (FC) [2]	国際科学技術特別実験及び演習 III (FC) [2]	
国際科学技術特別実験及び演習 IV (FC) [2]			
材料創製化学セミナー I (IM) [2]	材料創製化学セミナー II (IM) [0]	材料創製化学セミナー III (IM) [0]	ビジネスエンジニアリング特論 [0]
材料制御化学セミナー I (MC) [2]	材料制御化学セミナー II (MC) [0]	材料制御化学セミナー III (MC) [0]	コンソーシアムプロジェクト [0]
物質合成化学セミナー I (MS) [2]	物質合成化学セミナー II (MS) [0]	物質合成化学セミナー III (MS) [0]	
機能物質化学セミナー I (FC) [2]	機能物質化学セミナー II (FC) [0]	機能物質化学セミナー III (FC) [0]	
			光エネルギー物質科学 [2]
			制御分子構造学 [2]
Physical chemistry of dispersed systems (IM,MC) [1]			電子機能高分子創成学 [2]
			光機能高分子創成学 [2]
			ナノ構造物質学 [2]
Metal forming technologies (IM,MC)[1]	Materials for mechanical industries (IM,MC)[1]		ナノ物質加工学 [2]
Materials Forming (IM,MC)[1]			
Metals for Advanced Manufacturing (IM,MC)[1]			
			分離機能材料学 [2]
			立体機能物質化学 [2]
			精密物質合成学 [2]
Technology of Polymeric Materials (IM,MC)[1]			精密重合高分子 [2]
Science and Technology of Functional Materials (IM,MC)[1]	Science and Technology of Composite Materials (IM,MC)[1]		
			繊維性高分子材料組織学 [2]
Materials and Characterization for Micro and Nanotechnologies (IM,MC)[1]			高分子形態制御学 [2]
			高分子機能物性学 [2]
			生体分子機能化学 [2]
			生体分子機構解析学 [2]
			生体分子設計学 [2]
バイオベースポリマー (MC,MS,FC) [2]	High-performance fibers for composites, sportswear and protection (IM,MC)[1]		環境物質化学 [2]
Materials & Design (IM,MC)[1]	Surface science and technology (IM,MC)[1]		
Materials for Advanced Manufacturing II (IM,MC) [1]			

(電子システム工学課程, 電子システム工学専攻) ※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するも

大分類 EL 電子システム工学課程

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3
1. 総合科目	1. 実験・実習・セミナー	電子システム工学セミナーⅠ【0】	電子システム工学基礎実験【0】	電子システム工学実験及び設計ⅠA【0】
		電子システム工学セミナーⅡ【0】		電子システム工学実験及び設計ⅠB【0】
		地域課題導入セミナーⅠ【0】		電子システム工学実験及び設計ⅡA【0】
		地域課題導入セミナーⅡ【0】		電子システム工学実験及び設計ⅡB【0】
				地域創生課題セミナーⅠ【0】
				地域創生課題セミナーⅡ【0】
	2. 研究			ものづくりインターンシップⅠ【0】 ものづくりインターンシップⅡ【0】
2. 材料物性・デバイス	1. 材料物性		電子物性基礎論【0】	電子材料工学【0】
	2. デバイス			電子デバイス【0】
				センサ工学【0】
	3. プロセス・評価			
3. 電磁気エネルギー	1. 電磁気・電磁波		電磁気学および演習ⅠA【0】	電磁気学Ⅲ【0】
			電磁気学および演習ⅠB【0】	電磁気学ⅡA【0】 電磁気学ⅡB【0】
	2. 光エレクトロニクス			フォトニクス【0】
				光学基礎【0】
	3. エネルギー			プラズマ工学【0】
				パワーエレクトロニクス【0】
4. 通信・制御	1. 信号処理・通信		情報理論【0】	デジタル信号処理【0】
	2. 制御			通信システム工学【0】 制御工学【0】
5. 回路	1. 電気回路		電気回路【0】	回路解析【0】
			電気回路演習【0】	回路解析演習【0】
	2. 電子回路		論理設計【0】	デジタル電子回路【0】
				アナログ電子回路【0】 集積回路工学【0】
6. 情報	1. 計算機・ネットワーク			コンピュータシステム【0】
	2. プログラミング		情報・データリテラシー【0】	プログラミング演習【0】 AI・データサイエンス基礎【0】

(情報工学課程, 情報工学専攻, 設計工学専攻) ※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致する

大分類 IS 情報工学課程

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2		レベルコード 3		
1. 情報工学基礎・実習	1. プロジェクト実習・実験	情報工学セミナー【0】	プロジェクト実習 I【0】		プロジェクト実習 II【0】	プロジェクト実習 III【0】	
		地域課題導入セミナー I【0】			地域創生課題セミナー II【0】	地域創生課題セミナー I【0】	
		地域課題導入セミナー II【0】			ものづくりインターンシップ II【0】	ものづくりインターンシップ I【0】	
	2. プログラミング・アルゴリズム		情報工学概論【0】	プログラミング I【0】	プログラミング II【0】	システム最適化【0】	言語処理プログラミング【0】
				ソフトウェア演習 I【0】	ソフトウェア演習 II【0】	ネットワークプログラミング I【0】	ネットワークプログラミング II【0】
				データ構造とアルゴリズム【0】	離散数学【0】		
	3. 情報リテラシー		(情報セキュリティと情報倫理)	(情報・データリテラシー概論)			
			(技術の人間学)				
	2. ハードウェア	1. 電気・電子回路		エレクトロニクス【0】	デジタル電子回路【0】		
2. コンピュータアーキテクチャ			論理設計【0】	コンピュータシステム【0】			
3. ソフトウェア	1. ソフトウェア開発		ソフトウェア工学【0】	組み込みシステム設計論【0】			
						コンパイラ【0】	オペレーティングシステム【0】
	2. ソフトウェア基礎					データベース I【0】	プログラミング言語論【0】
						データベース II【0】	
	3. メディアインタラクション		人間情報学基礎【0】	ヒューマンインタフェース【0】		AI・データサイエンス基礎【0】	AI・データサイエンス応用【0】
4. 通信・システム	1. 情報・ネットワーク		情報理論【0】	情報セキュリティ【0】	情報ネットワーク【0】		
	2. システム・制御		複雑システム概論 I【0】	システム論【0】			
			複雑システム概論 II【0】				
3. 信号処理		デジタル信号処理【0】		画像工学【0】			

(機械工学課程, 機械物理学専攻, 機械設計学専攻, 設計工学専攻分) ※授業科目の配当年次と

大分類 ME 機械工学課程

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2		レベルコード 3	
1. 研究系	1. 研究系	地域課題導入セミナー I【0】			地域創生課題セミナー II【0】	地域創生課題セミナー I【0】
		地域課題導入セミナー II【0】			ものづくりインターンシップ II【0】	ものづくりインターンシップ I【0】
	2. 機械工学リテラシー	エンジニアのためのリテラシー【0】				
2. 機械設計・実験・シミュレーション系	1. 実験系				機械工学実験 I【0】	機械工学実験 II【0】
	2. 設計・製図		機械製図法 I A【0】	機械製図法 I B【0】	応用機械設計【0】	創造設計製図演習【0】
			機械製図法 II A【0】	機械製図法 II B【0】		
			機械設計学 A【0】	機械設計学 B【0】		
	3. 工業力学		工業力学 I A【0】	工業力学 I B【0】		
			工業力学 II【0】			
	4. 計算力学		データサイエンス【0】	コンピューターシミュレーション基礎学 A【0】		
			コンピューターシミュレーション基礎学 B【0】			
3. 熱・流体力学	1. 流体力学		流体力学 II 及び演習【0】	流体力学 I 及び演習 A【0】		
				流体力学 I 及び演習 B【0】		
	2. 熱力学		熱力学 I 及び演習 A【0】	熱力学 II 及び演習 A【0】	熱エネルギー輸送現象【0】	
		熱力学 I 及び演習 B【0】	熱力学 II 及び演習 B【0】			
4. 材料・加工学	1. 材料力学		材料力学 I 及び演習【0】		有限要素法 A【0】	有限要素法 B【0】
			材料力学 II 及び演習 A【0】	材料力学 II 及び演習 B【0】		
	2. 工業材料学		工業材料学 A【0】	工業材料学 B【0】	材料強度学【0】	塑性力学【0】
	3. 加工学		機械加工法及び実習 A【0】	切削・研削加工学 A【0】	塑性加工学【0】	特殊加工学【0】
		機械加工法及び実習 B【0】	切削・研削加工学 B【0】			
5. 計測・制御工学	1. 機械力学		機械力学 I 及び演習 A【0】	機械力学 I 及び演習 B【0】		
			機械力学 II 及び演習 A【0】	機械力学 II 及び演習 B【0】		
	2. 計測工学		計測基礎学 A【0】	計測基礎学 B【0】	工業計測法【0】	
	3. 制御工学		システム制御理論 A【0】		ロボティクス【0】	最適制御システム【0】
			システム制御理論 B【0】		計画工学【0】	

ベルは必ずしも一致するものではありません。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

大分類 MP 機械物理学専攻, MD 機械設計学専攻

大分類 ED 設計工学専攻
博士課程 3年

修士課程 2年

× **3** × **3**

レベルコード 4	レベルコード 5 ※学部生で卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者も履修可能		レベルコード 6		レベルコード 7
卒業研究【0】	プロジェクトマネジメント論(MP)【0】		機械物理学特別実験及び演習Ⅰ(MP)【0】	機械物理学特別実験及び演習Ⅱ(MP)【0】	設計工学特別演習Ⅰ【0】
卒業論文【0】			機械物理学特別実験及び演習Ⅲ(MP)【0】	機械物理学特別実験及び演習Ⅳ(MP)【0】	設計工学特別演習Ⅱ【0】
卒業プロジェクト【0】			機械設計学特別実験及び演習Ⅰ(MD)【0】	機械設計学特別実験及び演習Ⅱ(MD)【0】	研究指導【2】
			機械設計学特別実験及び演習Ⅲ(MD)【0】	機械設計学特別実験及び演習Ⅳ(MD)【0】	国際科学技術特別演習Ⅰ【2】
			特別課題実験及び演習Ⅰ(MP,MD)【0】	特別課題実験及び演習Ⅱ(MP,MD)【0】	国際科学技術特別演習Ⅱ【2】
			特別課題実験及び演習Ⅲ(MP,MD)【0】	特別課題実験及び演習Ⅳ(MP,MD)【0】	
			特別研究(MP,MD)【2】	国際インターンシップ【2】	
			国際科学技術特別実験及び演習Ⅰ【2】	国際科学技術特別実験及び演習Ⅱ【2】	
			国際科学技術特別実験及び演習Ⅲ【2】	国際科学技術特別実験及び演習Ⅳ【2】	
	Technical Writing & Communication(MP)【2】	Technical Writing & Communication(MD)【2】			
			機械物理学インターンシップⅠ(MP)【0】	機械物理学インターンシップⅡ(MP)【0】	設計工学インターンシップ【0】
			機械設計学インターンシップⅠ(MD)【0】	機械設計学インターンシップⅡ(MD)【0】	
	機械システム安全設計論(MD)【2】	ストラテジックデザイン論(MD)【0】			
	計算流体力学(MP)【2】				
	熱伝達論(MP)【1】	熱物質移動論(MP)【2】			計算流体論【2】
	生物流体力学(MP)【2】				
	熱エネルギー変換工学(MP)【2】	分子ロボティクス(MP)【2】			エネルギーシステム論【2】
	反応性熱流体力学(MP)【1】				
	数値固体力学(MP)【2】				機素強度評価学【2】
	先端工業材料学(MD)【2】				機械材料強度論【2】
	成形限界設計論(MD)【2】	応用機械加工学(MD)【2】			機械材料加工論【2】
	先端材料加工学(MD)【2】				
	非線形動力学(MP)【2】	知的構造システム学(MD)【2】			振動力学【2】
	振動解析学(MP)【2】				
	先端工業計測論(MD)【2】				エネルギーシステム論(重複)【2】
	確率応用システム論(MD)【1】	生産システム論(MD)【2】			システム制御論【2】
	ロボット制御論(MD)【2】	最適化理論(MD)【1】			

(デザイン・建築学課程, デザイン学専攻, 建築学専攻分) ※授業科目の配当年次とレベル

大分類 DA デザイン・建築学課程

3×3(スリーバイスリー)

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1		レベル	
1. 総合共通科目	1. 基礎科学			(基礎解析 I)	
				(線形代数学 I)	
				(統計数理)	
				(数学演習 I)	
				(物理学 I)	
				(化学 I)	
				(生物学 I)	
	2. 広域教養科目	地域課題導入セミナー I【0】	デザイン・建築表現演習【0】		情報処理演習【0】
			ソーシャルインタラクションデザイン演習【0】		
		ソーシャルインタラクションデザイン概論【0】			
	3. 共通実習	デザイン・建築基礎実習【0】		(絵画実習) (インターンシップB)	
	4. 修了指導				
2. 建築計画論	1. 建築計画			建築計画 I【0】	
	2. 建築史			近代建築史【0】	
				世界建築史【0】	
3. 建築論			景観論【0】		
3. 建築技術論	1. 建築構造			建築構造力学 I A・B【0】	
				造形材料【0】	
	2. 環境工学			建築環境工学【0】	
3. 生産・法規			建築法規【0】		
4. 建築実習	1. 建築設計			建築設計実習 I【0】	
				建築設計製図 II【0】	
	2. 保存再生				
3. 総合実習					
5. デザイン理論	1. デザイン論			ヴィジュアルコミュニケーションデザイン論【0】	
				デザイン史【0】	
	2. 美術史・芸術論			美術史【0】	
	3. 美術館・博物館学				
4. エンジニアリング			資源環境論【0】		
5. マネジメント			マーケティング論【0】		
6. デザイン実習	1. デザインプロジェクト			プロジェクトデザイン I【0】	
	2. 総合実習			デザインプラクティス I【0】	
	3. 美術館・博物館演習				

は必ずしも一致するものではありません。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

学士課程 4年

× 3

コード 2	レベルコード 3		レベルコード 4
(基礎解析Ⅱ)		(環境化学)	
(線形代数学Ⅱ)			
(数学演習Ⅱ)			
(力学)			
(物理学Ⅱ)			
(化学Ⅱ)			
(生物学Ⅱ)			
	庭園美学論【0】	地域創生課題セミナーⅠ【0】	
	地域創生課題セミナーⅡ【0】	ものづくりインターンシップⅠ【0】	
	ものづくりインターンシップⅡ【0】		
(インターンシップA)			デザイン・建築学演習【0】
			卒業研究【0】
			卒業プロジェクト【0】
建築計画Ⅱ【0】	住環境計画【0】		
都市史Ⅰ【0】	都市史Ⅱ【0】		
日本建築史【0】			
建築職能論【0】		都市・建築遺産論【0】	
建築構造力学ⅡA・B【0】	建築構造設計学Ⅱ【0】	建築構造材料実験【0】	
建築構造設計学Ⅰ【0】			
建築設備【0】	建築環境工学演習【0】	環境設備計画【0】	
	建築生産【0】		
建築設計実習Ⅱ【0】	建築設計実習Ⅲ【0】	建築設計実習Ⅳ【0】	
建築設計製図Ⅰ【0】			
			伝統建築演習【0】
製品デザイン技術論【0】	室内意匠計画【0】	グラフィックデザイン論【0】	
ファシリティ計画論【0】	場のマネジメント【0】	デザイン方法論【0】	
	デザイン経営工学事例研究【0】	デザインマネジメント【0】	
美学・感性論【0】	現代芸術論【0】		
	博物館概論【0】		
生産・材料工学【0】	感性工学【0】		
企業経営学概論【0】	市場参入論【0】		
プロジェクトデザインⅡ【0】	プロジェクトデザインⅢ【0】	プロジェクトデザインⅣ【0】	
デザインプラクティスⅡ【0】	デザインプラクティスⅢ【0】		

(デザイン・建築学課程, デザイン学専攻, 建築学専攻分)※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するものではありません。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表

大分類 AR 建築学専攻, DS デザイン学専攻, CH 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻

修士課程 2年

3

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 5 ※学部生で卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者も履修可能		レベルコード 6		
1. 総合共通科目	1. 基礎科学					
	2. 広域教養科目	都市デザイン(AR,CH) [2]		Development of Integrated Local Wisdom and New Technology in Architecture(CH) [1]		
	3. 共通実習	建築デザイン(AR,CH) [2]				
	4. 修了指導			特別制作(AR,CH) [2] 特別研究(特定課題制作又は論文)(DS) [2]	Master's Thesis(CH) [1] 研究指導(AR,DS,CH) [2]	
2. 建築計画論	1. 建築計画			住環境設計マネジメント(AR,CH) [2] 地域設計プロジェクト I (AR,CH)[2] 地域設計プロジェクト II (AR,CH)[2] 建築・景観のデジタル設計法 II (AR)[2]	地域設計プロジェクトIII(AR,CH)[2] 地域設計プロジェクトIV(AR,CH)[2] 建築・景観のデジタル設計法 I (AR)[2] Inquiry for Advanced Architectural Design(CH) [1]	
	2. 建築史	建築史(AR,CH)[2] 都市史(AR,CH)[2]	都市史 I (AR)[1] 日本建築史(AR)[1]	建築保存再生技術(AR,CH) [0]	Urban Morphology and Dwelling(CH) [1]	
	3. 建築論					
3. 建築技術論	1. 建築構造			建築力学・構造特論(AR,CH) [2] 建築構造設計技術(AR,CH) [0]	建築構造設計マネジメント(AR,CH) [2]	
	2. 環境工学			建築設備設計技術(AR,CH) [0] 都市・地域設計マネジメント(AR,CH) [2]	Influences and Differences of Behavioral and Environmental Factors(CH) [1] Environmental Perception for Wellbeing(CH)[1]	
	3. 生産・法規			安心安全デザイン技術(AR,CH)[0]		
4. 建築実習	1. 建築設計			国際設計プロジェクト I (AR,CH) [0] 国際設計プロジェクト II (AR,CH) [0] 国際共同設計実習A(CH)[1] 建築設計実習(AR,CH)[1]	国際設計プロジェクトIII(AR,CH) [0] 国際設計プロジェクトIV(AR,CH) [0] 国際共同設計実習B(CH)[1] 都市設計実習(AR,CH)[1]	
		2. 保存再生			都市・建築再生学演習 I (AR,CH) [0] 都市・建築再生学演習 II (AR,CH) [0] 建築都市保存再生プロジェクト I (AR,CH) [2] 建築都市保存再生プロジェクト II (AR,CH) [2] 国際科学技術特別実験及び演習 I (AR) [2] 国際科学技術特別実験及び演習 III(AR) [2]	建築都市保存再生プロジェクトIII(AR,CH) [2] 建築都市保存再生プロジェクトIV(AR,CH) [2] Advanced Graduate Design Studio in Architecture I (CH)[1] 伝統建築演習(AR)[1] 国際科学技術特別実験及び演習 II (AR) [2] 国際科学技術特別実験及び演習IV(AR) [2]
			3. 総合実習			建築設計実務実習 I (AR,CH) [0] 建築設計実務実習 II (AR,CH) [0] 建築設計実務実習 III(AR,CH) [0] 都市・建築空間研究A(AR,CH) [0] 建築設計学インターンシップ(AR) [0] 建築設計学インターンシップ II (AR) [0] 建築設計学特別講義 I (AR,CH)[2] 建築設計学特別講義 II (AR,CH)[2]
	1. デザイン論			デザイン学特別講義A(DS) [0] 技術と文化(DS) [2] デザイン学特別講義B(DS) [0] デザイン学特別講義D(DS) [0]	デザインとマネジメント(DS) [2] 人と場(DS) [2] デザイン学特別講義C(DS) [0]	伝統文化とデザイン(DS) [2]
	2. 美術史・芸術論	表象とデザイン(DS)[2] 映像と感性(DS) [2]		表現とメディア(DS)[2]		
	3. 美術館・博物館学	展示と空間(DS) [2]				
	6. デザイン実習	1. デザインプロジェクト	プロジェクトデザインA(DS) [2]	プロジェクトデザインC(DS) [2]	アドバンストデザインプロジェクト I (DS) [2] アドバンストデザインプロジェクト II (DS) [2]	プロジェクトデザインB(DS) [2]
		2. 総合実習	インタラクションデザイン I (DS) [2]	インタラクションデザイン II (DS) [2]	グローバルイノベーションプログラム(AR,DS)[2] デザイン学インターンシップ I (DS) [0] デザイン学インターンシップ II (DS) [0]	デザイン学特別演習(D-lab課題) (DS)[2] デザイン学実務実習(DS)[0]
		3. 美術館・博物館演習	キュレーション実地演習(DS) [2]		キュレーション購読演習(DS) [2]	キュレーション実務実習(DS)[2]
7.エンジニアリング	1.講義 2.演習・実習	ヒューマンファクターとエンジニアリング(DS) [2]	デザインとテクノロジー(DS) [2]			
8.マネジメント	1.講義 2.演習・実習	ビジネスと社会(DS) [2]	社会とデザイン(DS) [1]	企業経営管理と社会 (DS)[0]		

(先端ファイブ科学専攻)※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するものではありません

大分類 なし

大分類 AF 先端ファイブ

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

×

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3	レベルコード 4	レベル ※学部生で卒業研究又は 定者も	
1. テキスタイル	1. サイエンス		新先端ファイブ科学【0】	先端複合材料学【0】		繊維学域スタートアップ【2】	
				繊維科学概論【0】			
				複合材料科学【0】			
	2. エンジニアリング						テクニカルテキスタイル【2】
							機能性テキスタイル【2】
	3. 成形加工・コンポジット						テキスタイル分析化学【2】
	4. マネジメント						
2. 先端ファイブ科学	1. インターンシップ						
	2. セミナー						
	3. 実験・演習						
3. 人間工学・コミュニケーション	1. 感性						
	2. コミュニケーション						
4. サステナビリティ・科学技術	1. 持続可能性						
	2. 科学技術(外部)						

せん。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

口科学専攻

大分類 AF 先端ファイブ科学専攻

修士課程 2年			博士課程 3年	
3			3	
コード 5 卒業プロジェクト履修資格認 履修可能	レベルコード 6		レベルコード 7	
	テキスタイルメカニクス【2】	テキスタイルの快適性と数 理評価【1】	応用テキスタイルサイエン スⅠ【2】	応用テキスタイルサイエン スⅡ【2】
	先端テキスタイル加工-仕 上げ【1】	バイオテクノロジー【1】		
	テキスタイルとナノテクノ ロジー【1】			
	感性とデザイン【2】	テキスタイルの快適性と数 理評価【2】		
	バーチャル製品開発論【1】	衣服の縫製技術【1】		
	インテリジェントテキスタ イル【1】	複合材料【1】		
	テキスタイルケミストリー 【2】	テキスタイルエレクトロニク ス【0】	応用マテリアルサイエン ス【2】	
	コンポジット設計【2】	テクニカルテキスタイルの 製造技術【1】		
	テクニカルテキスタイルの 応用Ⅰ【1】	テクニカルテキスタイルの 応用Ⅱ【1】		
	先端繊維テクノロジー【1】			
	マネジメント・物流・流通Ⅰ 【1】	マネジメント・物流・流通Ⅱ 【1】	応用マテリアルサイエン ス【2】	
	先端ファイブ科学イン ターンシップⅠ【0】	先端ファイブ科学イン ターンシップⅡ【0】	先端ファイブ科学イン ターンシップⅢ【0】	
	先端ファイブ科学セミ ナーⅠ【2】	先端ファイブ科学セミ ナーⅡ【2】	先端ファイブ科学特別セ ミナーⅠ【2】	先端ファイブ科学特別セ ミナーⅡ【2】
	先端ファイブ科学特別実 験及び演習Ⅰ【2】	先端ファイブ科学特別実 験及び演習Ⅱ【2】	先端ファイブ科学特別演 習Ⅰ【2】	先端ファイブ科学特別演 習Ⅱ【2】
	先端ファイブ科学特別実 験及び演習Ⅲ【2】	先端ファイブ科学特別実 験及び演習Ⅳ【2】	国際科学技術特別実験及 び演習Ⅰ【2】	国際科学技術特別実験及 び演習Ⅱ【2】
	特別研究【2】	先端ファイブ科学研究室 インターンシップ【1】	研究指導【2】	
	特別課題実験及び演習Ⅰ 【0】	特別課題実験及び演習Ⅱ 【0】		
	特別課題実験及び演習Ⅲ 【0】	特別課題実験及び演習Ⅳ 【0】		
	国際科学技術特別実験及 び演習Ⅰ【2】	国際科学技術特別実験及び 演習Ⅱ【2】		
国際科学技術特別実験及 び演習Ⅲ【2】	国際科学技術特別実験及び 演習Ⅳ【2】			
先端ファイブ科学特別実 験及び演習【1】	先端テキスタイルプロジェ クト【1】			
科学的思考【1】	環境・運動生理学【2】	Kansei-Human応用設計 【2】		
国際コミュニケーション演 習【1】		国際コミュニケーション特 別演習Ⅰ【1】	国際コミュニケーション特 別演習Ⅱ【1】	
サステナブルテキスタ イル設計【2】				
社会の中の科学技術Ⅰ【2】	社会の中の科学技術Ⅱ 【2】	社会の中の科学技術戦略 【2】		

(バイオベースマテリアル学専攻) ※授業科目の配当年次とレベルは必ずしも一致するものでは

大分類 なし

大分類 BM バイオペ

学士課程 4年

3×3(スリーバイスリー)

3

×

中分類名称 コード	小分類名称 コード	レベルコード 1	レベルコード 2	レベルコード 3	レベルコード 4	レベル ※学部生で卒業研究又 資格認定者
1. バイオベースマ テリアル共通	1. 特別講義					繊維学域スタートアップ 【2】
	2. セミナー					
	3. インターンシップ					
	4. 実験・演習					
2. バイオベースマ テリアル化学	1. 高分子化学		繊維科学基礎 【0】	サステイナブル マテリアル【0】 生物繊維材料 学【0】		バイオベースポリマー 【2】 環境機能高分子化学 【2】
	2. 医用材料					バイオメディカル化学 【2】
	3. 色彩科学			染色科学【0】		バイオカラーサイエンス 【1】
3. バイオベースマ テリアル材料学	1. 多糖系材料					バイオ機能材料【2】
	2. ナノ構造					ソフトマテリアル基礎科 学【2】
	3. ナノ繊維形成					バイオナノファイバー 【2】
4. バイオベースマ テリアル生物工学	1. バイオリファイナ リー					環境資源科学【2】
	2. 動物系機能物質					
	3. 植物系機能物質					

ありません。受講登録に当たっては、配当年次をカリキュラム表で必ず確認してください。

一スマテリアル学専攻

大分類 BM バイオベースマテリアル学専攻

修士課程 2年

博士課程 3年

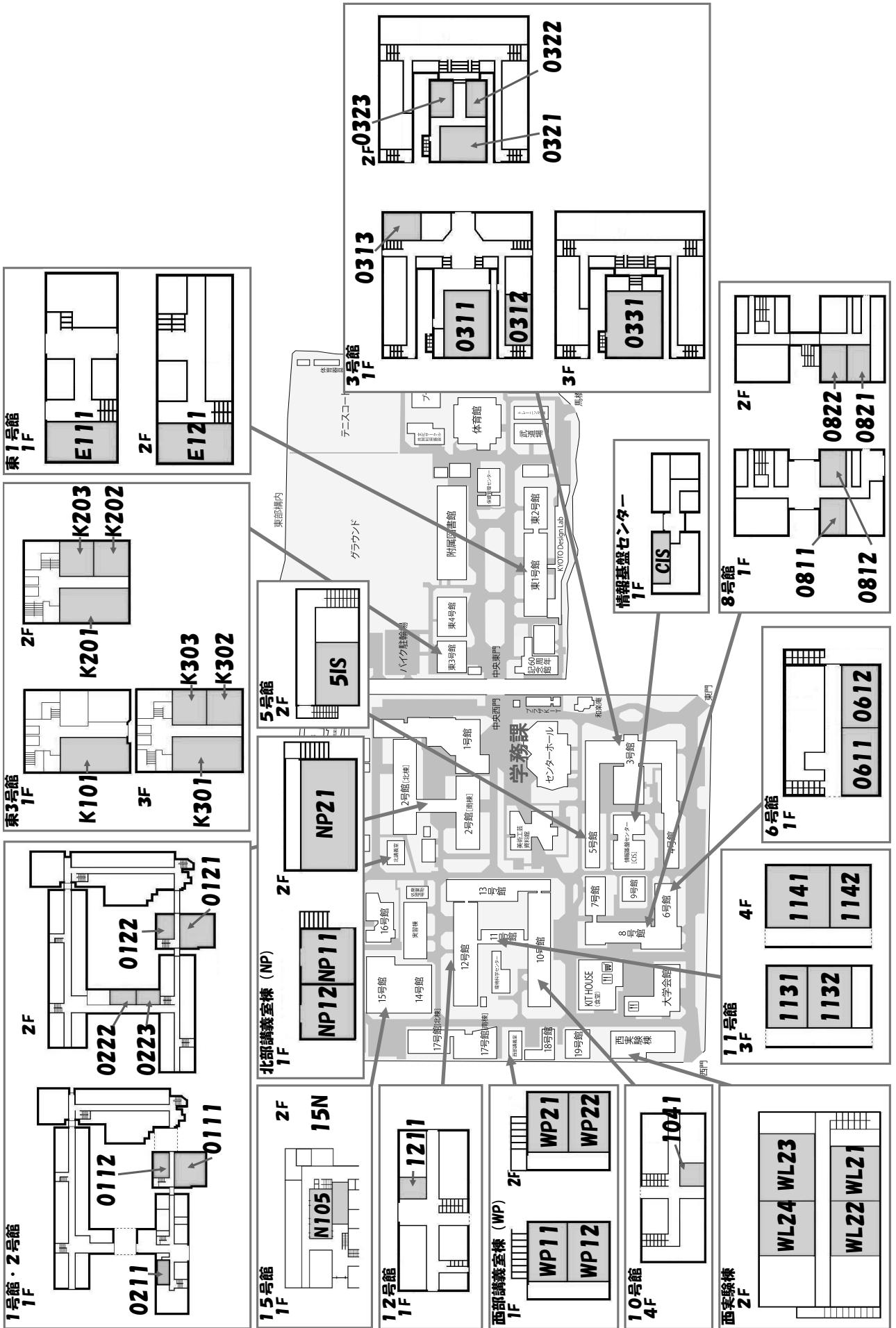
3

×

3

コード 5 は卒業プロジェクト履修 も履修可能	レベルコード 6		レベルコード 7	
	産学連携特別講義【0】	バイオベースマテリアル学特別講義【0】		
	バイオベースマテリアル学国際セミナー【1】			
	バイオベースマテリアル学インターンシップ I【0】	バイオベースマテリアル学インターンシップ II【0】	バイオベースマテリアル学インターンシップ III【0】	
	国際インターンシップ【1】			
	バイオベースマテリアル学特別実験及び演習 I【0】	バイオベースマテリアル学特別実験及び演習 II【0】	バイオベースマテリアル学特別演習 I【0】	バイオベースマテリアル学特別演習 II【0】
	バイオベースマテリアル学特別実験及び演習 III【0】	バイオベースマテリアル学特別実験及び演習 IV【0】	国際科学技術特別実験及び演習 I【1】	国際科学技術特別実験及び演習 II【1】
	国際科学技術特別実験及び演習 I【1】	国際科学技術特別実験及び演習 II【1】	研究指導【2】	
	国際科学技術特別実験及び演習 III【1】	国際科学技術特別実験及び演習 IV【1】		
	特別研究【2】			
サステナブル材料合成化学【1】			バイオベースマテリアル化学【2】	
			材料機能制御学【2】	
ナノ材料物性【2】			材料機能構造相関【2】	ナノファイバーテクノロジー【2】
			ケモバイオロジー【2】	
	タンパク質機能構造【2】		応用タンパク質工学【2】	
	植物機能工学【2】			

講義室配置図



School of
Science and